



SERVE TO CHANGE LIVES

奉仕しよう
みんなの人生を
豊かにするために

第 14 回

全国 RYLA 研究会 報告書

開催日 2022年5月21日(土)~22日(日)

会場 ホテルニューオータニ鳥取

Rotary
District 2690



日本遺産 麒麟獅子舞

2022

Contents

1. RI 会長メッセージ
2. 大会実行委員長 あいさつ 国際ロータリー理事 辰野 克彦
3. 第 14 回全国 RYLA 研究会顧問メッセージ ロータリー財団管理委員 三木 明
4. 大会プログラム
5. ホスト地区代表挨拶 RID2690 ガバナー 岩崎 陽一
6. 大会副委員長挨拶 RID2680 ガバナー 吉岡 博忠
7. RID2690 地区青少年奉仕活動報告 RID2690 地区青少年奉仕担当幹事 小林 一
8. 特別講演「ロータリーはなぜ RYLA をするのか」
ロータリー財団管理委員 三木 明
9. 基調講演「RYLA の根底にある思想」 RIJYEM 研修部門委員 黒田 建一
10. 全国青少年奉仕委員長 (RYLA 委員長) 会議
11. 分科会
 - 第 1 分科会 「RYLA って何？」 ファシリテーター 田中 賢一
 - 第 2 分科会 「RYLA におけるカウンセラーシステム」 ファシリテーター 安行 英文
 - 第 3 分科会 「これからの RYLA と危機管理」 ファシリテーター 黒田 建一
12. 分科会報告
13. バズセッション・テーマ発題
14. バズセッション
15. 分科会発表に基づくフォーラム
16. 講評 ロータリー財団管理委員 三木 明
17. 大会参加者数
18. 第 14 回全国 RYLA 研究会役員
19. 第 14 回全国 RYLA 研究会ホストクラブ委員会
20. アンケート調査報告
21. 会場写真



Dear attendees of the 14th All Japan RYLA Institute:

It is my pleasure to send greetings to you as you gather for the RYLA Institute.

At Rotary, we are fortunate to have some of the best youth programs in the world. When you join with us in acts of service, you help make the world a better place and gain leadership skills for life. This year, we note all the ways that we Serve to Change Lives.

Service is the rent we pay for our time on earth and we will expand Rotary service as we “grow more and do more.” Through your enthusiasm and leadership, Rotary youth participants make Rotary Service more effective and rewarding.

The future of Rotary depends on young leaders like you. We want you to feel empowered to imagine new opportunities for Rotary. This is the only way we will adapt in these

rapidly changing times—through meaningful collaboration with young, enthusiastic people.

Everything you do in RYLA helps bring generations together and creates lasting change. But most of all, we have lots of fun along the way! Thank you for joining us as we Serve to Change Lives.

Kindest regards,

Shekhar Mehta

President, Rotary International 2021-22

第14回 全国RYLA研究会参加者の皆さんへ

日頃から積極的にロータリーでご活動いただき、どうもありがとうございます。

この度は、皆さんのRYLA研究会に私からメッセージを寄せることができ、とても光栄に感じています。

ロータリーは世界でも有数の青少年プログラムを誇っています。ロータリーの奉仕に参加することで、皆さんは世界をより良い場所とする手助けをし、生涯役に立つリーダーシップのスキルを学びます。今年度は、「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」というテーマの下、あらゆる方法に目を向けていくことが重要となります。奉仕は、私たちが地球上で過ごす時間に対して支払う「家賃」です。私たちは、「もっと成長し、もっと多くを成し遂げる」ことでロータリーの奉仕を広げていきます。情熱とリーダーシップを兼ね備えたロータリーの青少年参加者によって、ロータリー奉仕がより効果的に、報いのある経験となります。

ロータリーの未来は、皆さんのような若いリーダーにかかっています。ロータリーのための新たな機会を思い描いて、活動に尽力していただきたいと願っています。情熱的な若い人たちとの意義ある協力を通じてこそ、ロータリーがこの刻々と変化する時代に適応していくことができるのです。

RYLAでの皆さんの活動が、世代をつなぎ、未永い変化をもたらしていくのです。そして何よりも、楽しみながら活動を進めていきましょう。「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」のテーマの下に結束していただき、ありがとうございます。

心を込めて

2021-22年度国際ロータリー会長 シェカール・メータ

第14回全国RYLA研究会実行委員長挨拶



第14回RYLA研究会大会委員長
国際ロータリー理事 辰野 克彦

第14回全国RYLA研究会が盛大に開催されますこと誠におめでとうございます。

本年度シェカール・メータRI会長は、「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」と会長テーマを掲げられています。メータ会長自身が奉仕を通じて人として成長した。だからこそ他の人のニーズに目を向けるようになったとおっしゃいます。

ロータリーは、女性や若い人々とともに歩み、奉仕を通じて大きなインパクトをもたらしましょうと力強いメッセージを世界のロータリー会員に発信されました。

1959年にオーストラリア・クイーンズランドで発祥したRYLAは、1974年にアメリカ・ワシントン州タコマで現在の方式になり、一気に全世界に広がって行きました。

日本におきましても40数年前から毎年各地区で開催されております。

そんな中で、さらに意義あるRYLAを目指そうと関係者の皆様が情報交換や将来像をお考えになる機会を持たれるようになりましたことは、発展のための重要な機会であります。

この研究会では、教育の機会を広げ、若い世代のリーダーがリーダーシップのスキルを身につけ、奉仕の価値観を学べるよう応援します。

加えて、参加者全員の安全を確保するために必要な手段を講じ、ロータリーが掲げる高い倫理基準と行動規範を守って頂いていることは重要なことです。

ロータリー思想は未来を夢見る思想です。理想主義者であるロータリアンとともに考えてくれる若者たちとロータリーをシェアしましょう。

第14回全国RYLA研究会に寄せて



RYLA顧問
ロータリー財団管理委員
三木 明

第14回全国RYLA研究会が、ここ鳥取の地で開催されますこと、誠におめでとうございます。RYLA並びに青少年奉仕に関わる多くのロータリー会員や学友が集い、情報交換の場となり、未来のロータリーを考える有意義な機会となることを願っています。

ロータリーでは、「共にする奉仕、育てる奉仕」といわれる若い人々のためのプログラムを大切にしてきました。

多くの若者がロータリーを通じてスキルとリーダーシップを磨き、創造的かつ持続可能な奉仕プロジェクトを通じて平和な社会づくりに貢献しているのです。

新型コロナウイルス感染症が下火になったとはいえまだ予断を許しません。参加者の安全を最優先に考える今回の主催地区である第2690地区では、ハイブリッドでの開催を選択しました。苦渋の選択ではありますが、最善の方法であります。

「献身、情熱、そして愛がRYLAの核心であり、ロータリーの未来を確実にする最も素晴らしい投資です」、と2001年に世界で初めて国際RYLAを開催した国際ロータリー RYLA委員長Sonny Brown氏は、語りました。

ロータリーは、次世代のリーダーを育てることの大切さを信じています。

リーダーシップを発揮したい、自分の可能性を広げたい、世界を変えたい……。

そんな若者たちの考えを実現するための第一歩となるのが、このRYLAです。

ロータリーの奉仕の一つのあり方は、何ものをも求めず、ひたすら未来のために種を蒔くことです。そして、未来に夢を託す。これがロータリーの役割なのです。

この全国研究会が意義あるもので、RYLAがさらに発展することを祈っています。

第14回全国RYLA研究会開催にあたって



第14回全国RYLA研究会
ホスト地区ガバナー第2690地区
ガバナー 岩崎 陽一

第14回全国RYLA研究会が第2690地区鳥取市で開催される運びになり、全国の多くの方々にご登録いただきましたこと、誠にありがとうございます。

今年は昨年度に続きコロナ禍の中でもあり、安全安心な大会を目指しWEBを利用したハイブリッド開催となりました。

今回のRYLA研究会は、第2680地区の皆さまのお力をいただき、開催にこぎつけることができました。この場をお借りしまして感謝申し上げます。

本年度RI会長シェカール・メータ会長テーマは『奉仕しようみんなの人生を豊かにするために』(Serve to Change Lives)です。他の人のために生き、世話をし、奉仕することで誰かの人生を豊かにすることは、自分の人生の最高の生き方です。会長は、アルバート・アインシュタインの言葉を引用して、「誰かのために生きてこそ、人生には価値がある」と指摘し、「奉仕は誰かの人生だけでなく、自分の人生も豊かにする」と力説されました。

先輩は私たちの歴史であり、若者は私たちの未来であります。RYLA研修は、若者にリーダー研修を通じて多くの青年らに飛躍の機会の扉を開くという点で、本当に価値のある事業だと思います。

この研究会を通じて皆さまがRYLAの真髄に触れられ、各地区に戻られて、研修会を実行され未来を託す若者を育てていただきたいと思います。

最後に皆様にとってこのRYLA研究会が実りあるになることを祈念いたしましてご挨拶といたします。

第14回全国RYLA研究会開催にあたって



第14回全国RYLA研究会 大会副委員長
国際ロータリー第2680地区
ガバナー 吉岡 博忠

第14回全国RYLA研究会にご参加くださりありがとうございます。この鳥取の地で、対面の方式も交えながら、全国RYLA研究会を開催できることをうれしく思うとともに、2690地区をはじめ実行委員会の皆様に心より感謝申し上げます。

第14回全国RYLA研究会のテーマは、「RYLAの真髄」となっています。深川純一2680地区パストガバナーは、RYLAの基本的要素として、「穢れなき魂を持った人を育てる」ということを重視され、個人倫理の確立を目指さないRYLAは、RYLAではないとおっしゃっています。今一度、このRYLAの基本理念を全国のロータリアンで共有したいと思います。

また、全国では、様々なRYLAセミナーが実施されています。「人を育てる」ために、どのようにRYLAプログラムを合理的に管理・運営していくべきなのか、意見交換ができればと考えています。

RYLAセミナーは、受講生だけでなく、RYLAセミナーに携わるロータリアンも育てます。この2日間の研究会が、まさに「人を育てる」プログラムであるRYLAセミナーの原点を見つめ直し、ライラリアン・ロータリアンの今後の奉仕活動につながる2日間となることを祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

RI第2690地区青少年奉仕活動報告



小林 一 (RI第2690地区青少年奉仕担当幹事)

職業分類 教育・農業経済学
(鳥取大学名誉教授、農学博士、
専門・農業経営学)

所 属 RI第2690地区 鳥取西ロータリークラブ
略 歴

・クラブ歴

2013年11月8日	RID2690鳥取西RC入会
2021-22年度	RID2690鳥取西RC副会長
2022年5月現在	RID2690鳥取西RC会長エレクト

・地区委員会歴


2021-22年度	青少年奉仕担当幹事 青少年交換委員長
-----------	-----------------------

〈 報告の概要 〉

はじめに

1. 地区における青少年奉仕活動の動向
 - 1) RYLA (ロータリー青少年指導者養成プログラム)
 - 2) インターアクト
 - 3) ローターアクト
 - 4) 青少年交換
 - 5) 米山記念奨学生
 - 6) その他の活動
2. 地区における青少年奉仕活動の特徴とRYLA
3. RYLA及び同研究会への期待

おわりに




第14回全国RYLA研究会

RI2690地区青少年奉仕活動報告

2022年5月21日 (土)
ホテルニューオータニ二鳥取

RI第2690地区青少年奉仕担当幹事
小林 一




報告の構成

はじめに


1. 地区における青少年奉仕活動の動向
 - 1) RYLA (ロータリー青少年指導者養成プログラム)
 - 2) インターアクト
 - 3) ローターアクト
 - 4) 青少年交換
 - 5) 米山記念奨学生
 - 6) その他の活動
2. 地区における青少年奉仕活動の特徴と RYLA

おわりに



はじめに

- ロータリーの青少年奉仕活動に関する組織と系譜
 - ・ インターアクトクラブ 1962年設立
 - ・ ローターアクトクラブ 1968年設立
 - ・ RYLA 1974年設立
- RYLAとは
 - ・ ロータリー青少年指導者養成プログラム (Rotary Youth Leadership Awards)
 - ・ 14-30歳の若い世代を対象とした短期集中型のリーダーシップ育成プログラム
- RYLAプログラムの目的
 - ・ 若者のリーダーシップスキルを磨き、地域に貢献している若者を表彰すること
 - ・ 若者の心に生涯にわたる奉仕の精神を育み、ロータリーを通じた奉仕の機会へと導くこと
 - ・ 若者のリーダーシップ育成を支援することにより、ロータリーの青少年奉仕活動を実現すること
- RYLAを実践するメリット
 - ・ 地区の未来の担い手となる有望な若者を育て、青少年奉仕を実践する
 - ・ ロータリーの若い参加者が互いにつながり、協力する
 - ・ 多くの若者にとって、ロータリーとの初めての接点となるRYLAを、つながりの基盤とする
- RI第2690地区にとって初めての全国RYLA研究会の開催
(参考: ROTARY「RYLAの手引き」)



1. RI2690地区における青少年奉仕活動の動向

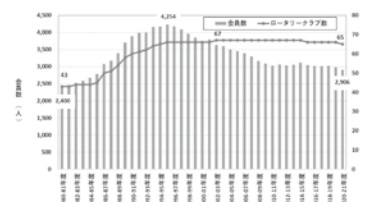


図 第2690地区におけるロータリークラブ数・会員数の推移

資料: 『国際ロータリー第2690地区 地区活動報告書』各年次
注: 1960-61年度は、1961年7月1日の数値

RI第2690地区の会員数は、2021年度は4,254人で、クラブ数は14です。会員数は1950年代半ばまで増加し、1995-96年度には2,524人に達しましたが、現在はピークの約7割に減少し、会員数の減少は、青少年奉仕活動にも影響を及ぼしており、会員数の回復が課題です。

1. 1) RYLA (青少年指導者養成プログラム)

毎年、地区全体でRYLAの大会を開催し、青少年指導者養成の活動場面に充てる。実施時期は、6月が主で、開催期間は夏休み1日が主流。1980年代前半は活動が活発で、地区を分断した分区分単位に2日間での大会を開催。

年度	開催日時	開催地	参加者数 (人)	活動内容
2021-22年度	6月	鳥取	136	...
2020-21年度	6月	鳥取	133	...
2019-20年度	6月	鳥取	133	...
2018-19年度	6月	鳥取	132	...
2017-18年度	6月	鳥取	131	...
2016-17年度	6月	鳥取	130	...
2015-16年度	6月	鳥取	129	...
2014-15年度	6月	鳥取	128	...
2013-14年度	6月	鳥取	127	...
2012-13年度	6月	鳥取	126	...
2011-12年度	6月	鳥取	125	...
2010-11年度	6月	鳥取	124	...
2009-10年度	6月	鳥取	123	...
2008-09年度	6月	鳥取	122	...
2007-08年度	6月	鳥取	121	...
2006-07年度	6月	鳥取	120	...
2005-06年度	6月	鳥取	119	...
2004-05年度	6月	鳥取	118	...
2003-04年度	6月	鳥取	117	...
2002-03年度	6月	鳥取	116	...
2001-02年度	6月	鳥取	115	...
2000-01年度	6月	鳥取	114	...
1999-00年度	11月	鳥取	81	...
1998-99年度	5月	鳥取	160	...
1997-98年度	5月	鳥取	160	...
1996-97年度	4月	鳥取	160	...
1995-96年度	4月	鳥取	157	...
1994-95年度	4月	鳥取	157	...
1993-94年度	6月	鳥取	157	...
1992-93年度	6月	鳥取	157	...
1991-92年度	6月	鳥取	157	...
1990-91年度	6月	鳥取	157	...
1989-90年度	6月	鳥取	154	...
1988-89年度	6月	鳥取	154	...
1987-88年度	6月	鳥取	154	...
1986-87年度	6月	鳥取	154	...
1985-86年度	6月	鳥取	154	...
1984-85年度	4月	鳥取	154	...
1983-84年度	4月	鳥取	154	...
1982-83年度	4月	鳥取	154	...
1981-82年度	4月	鳥取	221	...
1980-81年度	4月	鳥取	221	...
合計	20年	鳥取	2,716	...

1. 2) ローターアクト

地区には7クラブがあり、会員数は62人、会員数は、ピーク時、1984-85年度の284人に達し、約2割の水準に減少。クラブ数は、1965-67年度の14から半減。RYLAの活動場面の中心をロータリーアクトの開催が低下した影響も。

クラブ名	発足日	クラブ員数 (人)
岡山	1970年5月16日	10 (1)
岡山理科大学	1970年5月31日	4 (1)
鳥取	1974年11月6日	7 (6)
鳥取	1979年11月25日	9 (2)
米子	1983年9月20日	14 (5)
倉敷	1988年2月24日	14 (2)
鳥取県立大宇都宮キャンパス	2020年3月24日	4 (1)
7クラブ 合計		62 (24)




図 第2690地区におけるロータリークラブの推移

資料: 『国際ロータリー第2690地区 地区活動報告書』各年次

1. 3) インターアクト

地区には18クラブがあり、会員数は397人、会員数はクラブ数は2000年代前半から約2割減少。地区内の高等学校においてホストクラブによる支援を受けながら、青少年指導者養成のための活動が実施されている。現在の大々な活動はコロナ禍での活動の停滞。

学校名	発足日	会員数 (名)
岡山高等学校	1964年6月15日	21
岡山理科大学	1966年2月1日	30
松江高等学校	1968年3月10日	4
松江高等学校	1968年3月10日	12
鳥取高等学校	1968年11月9日	46
米子北高等学校	1969年4月18日	4
岡山理科大学	1970年4月14日	44
倉敷高等学校	1972年6月11日	11
出雲北高等学校	1973年2月4日	16
石見智恵庭高等学校	1987年2月11日	40
岡山理科大学	1988年6月9日	17
岡山理科大学中・高等学校	1994年7月22日	5
岡山理科大学	1995年4月15日	45
岡山理科大学	1995年10月1日	9
岡山理科大学	1999年3月1日	36
岡山理科大学	2001年3月18日	29
鳥取県立大宇都宮キャンパス	2020年3月24日	11
倉敷高等学校	2019年4月1日	18
18クラブ 合計		397

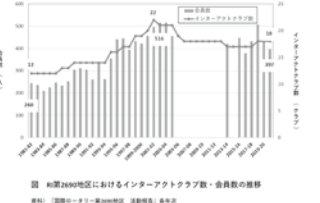


図 第2690地区におけるインターアクトクラブ数・会員数の推移

資料: 『国際ロータリー第2690地区 地区活動報告書』各年次

1. 4) 青少年交換

2005-06年度以降の約20年間の動きとして、派遣学生31人、受入学生20人で、双方はほぼ同等で推移。派遣、及び受入は未だかつて、米国とカナダ以外には対象国は存在しない。コロナ禍において、2020-21-22-23年度は活動休止中。

年度	派遣学生	受入学生
2005-06	2 (2)	0 (2)
2006-07	1 (1)	0 (1)
2007-08	2 (2)	0 (2)
2008-09	3 (3)	0 (2)
2009-10	1 (1)	0 (2)
2010-11	1 (1)	0 (1)
2011-12	3 (2)	1 (1)
2012-13	0 (0)	0 (0)
2013-14	4 (3)	1 (2)
2014-15	2 (2)	0 (4)
2015-16	1 (1)	0 (1)
2016-17	4 (4)	0 (3)
2017-18	3 (3)	0 (2)
2018-19	3 (2)	1 (1)
2019-20	1 (1)	0 (1)
2020-21	0 (0)	0 (0)
2021-22	0 (0)	0 (0)
2022-23	0 (0)	0 (0)
合計	31 (28)	20 (24)

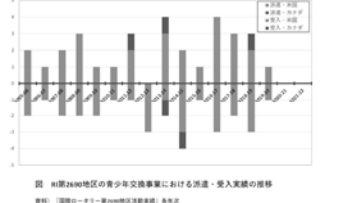
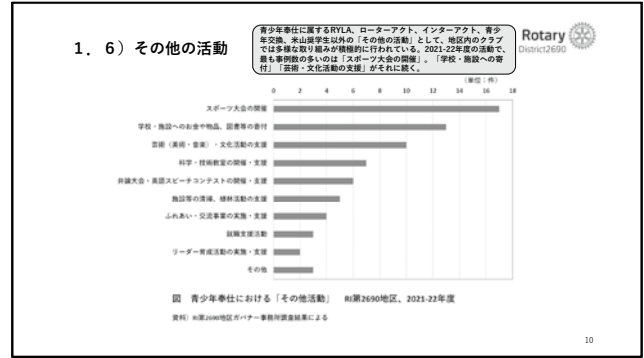
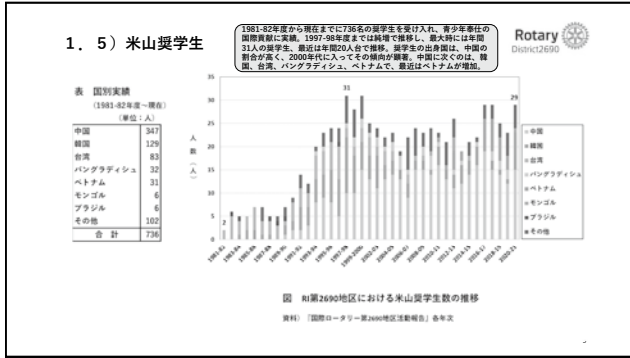


図 第2690地区の青少年交換事業における派遣・受入実績の推移

資料: 『国際ロータリー第2690地区活動報告書』各年次



2. RI第2690地区における青少年奉仕活動の特徴とRYLA

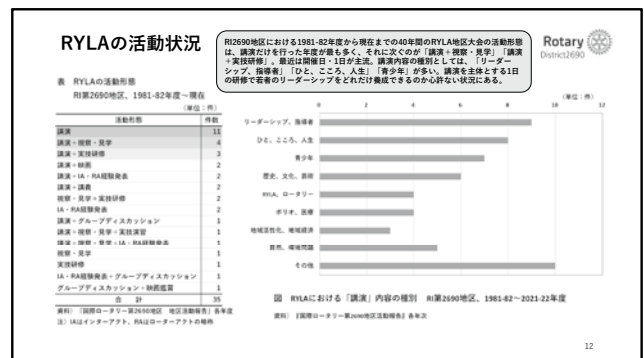
1) 青少年奉仕の活動全般

- ロータリークラブの各々で創意工夫に基づく多様な青少年奉仕活動の展開
- 地区でのロータリー会員数の減少が、青少年奉仕活動にも影響
- RYLAの活動推進を担うローターアクトは、クラブ数、会員数ともに減少傾向にある。
- COVID-19のパンデミックによる影響。

青少年奉仕の青少年交換事業は、活動停止を余儀なくされている。ローターアクト、インターアクトでも活動が縮小。青少年奉仕の活動が停滞に陥らないような対策が必要。

2) RYLA

- RYLAはローターアクト、インターアクトとの連携の下に活動
- RI第2690地区では、地区全体での大会を毎年継続し、青少年指導者養成力を注いでいる。
- 地区大会は、近年では1日開催、講演を主体とする活動が主流。若者の受講参加が伸び悩み。



おわりに

1) RI第2690地区にみるRYLAの課題

- RYLAとローターアクト、インターアクトとの連携強化
- RYLAが掲げる「地域の未来の担い手となる有望な若者の養成」の目的達成を目指した、「短期集中型のリーダーシップ育成プログラム」に相応しい研修手法の採用と、プログラムに沿った継続的な研修活動
- ロータリーが育成しようとする「若者のリーダーシップ」、及び「リーダーシップスキル」の指標等による具体的把握
- RYLAの実績評価（自己点検評価）の実施

2) RYLA及び同研究会への期待

- 研究活動に基づくRYLAの活動強化手法の開発、及びプログラムの提示



特別講演「ロータリーはなぜ RYLA をするのか」



講 師 ^{み き} ^{あきら} 三木 明
元 RI 理事 (ロータリー財団管理委員)

略 歴 1975 年 3 月 大阪歯科大学歯学部卒業
1980 年 7 月 三木歯科診療所開設

ロータリー歴

1981 年 5 月 12 日 姫路ロータリークラブ入会
1999-2000 年度 クラブ会長 (第 50 代)
2007-08 年度 地区ガバナー
2010-11 年度 / 2015-16 年度 地区研修リーダー
2010-14 年度 RI 第 3 ゾーン・ロータリーコーディネーター補佐
2013-15 年度 RI 研修リーダー
2013 年 / 2016 年 規定審議会 地区代表議員
2018-20 年度 RI 理事
2020-21 年度 ロータリー財団管理委員会特別アドバイザー
2020-21 年度 平和のための大口寄付推進計画委員会副委員長
2021-25 年度 ロータリー財団管理委員
アーチクランフソサエティ会員、メジャードナー、ポール・ハリス・ソサエティ
第 11 回米山功労者メジャードナー



Rotary

第14回全国RYLA研究会

ロータリーは
なぜRYLAをするのか

2022年5月21日

RYLA

ロータリー財団管理委員
元RI理事
RI第2680地区RYLA顧問
三木明

1

Rotary

RYLA

RYLA


Rotary
Youth
Leadership
Awards

ロータリー青少年指導者養成プログラム


2

Rotary

RYLA



故 今井 敏雄元RI理事



故 深川 純一バスターガバナー

3

Rotary

RYLAとは

リーダーシップを発揮したい、
自分の可能性を広げたい、
世界を変えたい……。

RYLA

4

Rotary

RYLAプログラムの目的：

- 若者のリーダーシップスキルを磨き、
地域に貢献している若者を表彰すること
- 若者の心に生涯にわたる奉仕の精神を育み、
ロータリーを通じた奉仕の機会へと導くこと
- 若者のリーダーシップ育成を支援することにより、
ロータリーの青少年奉仕を実践すること

RYLA

5

Rotary

ロータリーは、次世代のリーダーを
育てることの大切さを感じ、信じています。
私たちのこのプログラムは、
教育の機会を広げ、
若い世代のリーダーがリーダーシップの
スキルを身につけ、
奉仕の価値観を学べるよう応援します。

RYLA

6

Rotary

RYLAでできること

RYLA

7

Rotary

RYLAは、
若い世代を対象とした
短期集中型のリーダーシップ
育成プログラムです

RYLA

8

RYLAを通じて、若いリーダーは、地域や世界で変化を生み出すために必要な知識スキルを身につけることができます。

一方、クラブと地区にとっても、RYLA参加者や学友の持つ新鮮な視点や考え方が得られるというメリットがあります。

RYLAを通じて、若いリーダーは、地域や世界で変化を生み出すために必要な知識スキルを身につけることができます。

一方、クラブと地区にとっても、RYLA参加者や学友の持つ新鮮な視点や考え方が得られるというメリットがあります。

つながりを築く：
RYLAは、ロータリーの若い参加者が互いにつながり、協力しあう絶好の機会です。
ROTEXやローターアクトにも参加してもらい、このようなつながりを促しましょう。
ロータリーについて学びながら、社会貢献をめざす仲間たちと出会うことができます。

参加者の基盤を広げる：
国際ロータリーの推定では、毎年5万人以上がRYLAを通じてロータリーに参加します。
RYLAは、若いリーダーと関われるだけでなく、ロータリーとの生涯にわたるつながりを育む素晴らしいチャンスとなります。
ロータリーを通じて得られるさまざまな機会について、RYLA参加者にしっかりと理解してもらい、ローターアクトクラブやロータリークラブへの入会を勧めましょう。

地区RYLA委員会の設置

RYLA委員会は、RYLA活動の企画、広報、監督を行います。
委員会の形式や構成は、地区ごとに決め、RYLAの目標達成に必要な人数の委員を選んでください。

地区レベル

- 地区ガバナーが任命した地区RYLA委員長が、地区RYLA委員会を編成します。
- 地区がこれまでにRYLAに参加したことがない、あるいは長期間にわたって参加していない場合でも、RIJYEMが情報提供をお手伝いします。また、国際ロータリーからの最新情報やリソースを入手することができます。

多地区合同レベル

- 広範な地域や国際的なRYLAを実施するため、多地区合同のRYLAをガバナーが承認することもできます。
- 多地区合同のRYLAでは、プログラムの企画、手配、候補者の募集など全般的にすべての参加地区の協力が必要です。ホスト地区が中心となって主な役割を担い、ほかの参加地区は広報や募集、資金調達に協力する場合があります。
- 多地区合同のRYLAでは、必ず1地区がホスト地区になる必要があり、ホスト地区が行事全般の責任を負います。

学友の参加

地区のロータリー学友は、RYLAプログラムの企画、広報、実施において力となることができます。
RYLAの学友は、自身のRYLAでの経験で得た教訓や改善点を提供できる貴重な存在となります。
RYLAは、学友がロータリーと再びつながりを築く絶好の機会となります。学友のスキルや経験に応じて、委員会、行事の手伝い、ワークショップの進行役やパネリストなどを担当することに関心をもつかもしれません。



Rotary

ネットワークを築く

RYLAを初めて実施する場合、ほかのクラブや地区から過去の経験やアドバイスをシェアしてもらいましょう。ロータリーのラーニングセンターにあるRYLAの学習トピックから、幅広いロータリー会員とつながることができます。過去のRYLA行事の計画をどのように行ったかを委員会の経験者に尋ねてみましょう。
RIJYEMに多くの情報を集約するように計画していますので、ご活用ください。



17



Rotary

☆多様性、公平さ、インクルージョン

これまでに参加者が少なかった、または参加できなかった人(特定の年齢層、ジェンダー、民族、障害者など)にも参加してもらい、温かく迎え入れる雰囲気をつくる方法を、RYLA委員会で検討してみましょう。参加者の募集と選考にあたって、現行の慣行や文化を頻繁に見直すことが大切です。



18



Rotary

予算と資金調達

行事の計画における最初のステップは、予算を立てることです。できるだけ詳細に予算を立てましょう。
会場
使用料に加え、関連費用も予算に含めます。
飲食
参加者すべてを対象にする飲食の提供。
交通手段
参加者の交通手段の案内を怠らないようにしましょう



19



Rotary

講演料

講演者の講演料。
保険
地区リーダーと相談して、クラブまたは地区が加入している保険を調べ、現行の保険契約では補償が十分でないと考えられる場合、追加契約にかかる費用を確認します。RIJYEMが強力なバックアップをしてくれますので、ご相談ください。



20



Rotary

☆多様性、公平さ、インクルージョン

会場を選ぶ際には、参加者のことを考慮して、交通の便のよい場所を選び、特別な事情(身体の不自由など)がある参加者がいる場合は特に注意しましょう。
宿泊施設を利用する場合、LGBTQ+などさまざまなジェンダーを自認する参加者にとって安全で快適な施設を選ぶようにしてください。



21



Rotary

食事

食事制限:健康面の問題、アレルギー、宗教上の理由、個人的な信条によって食事制限が必要かどうかを参加者に事前に尋ねましょう。
必要に応じて、制限のある人も食べられる食事を用意します。
医療へのアクセス
緊急事態:医療上の緊急事態が起きた場合の対策を決めておきます。
応急手当:行事の内容によっては、会場に医療関係者が待機するのが適切である場合もあります



22



Rotary

魅力的な内容の計画

RYLAは、若者が地域社会で個人的・職業的に成長する機会を与えることで、リーダーシップスキルの育成を支援します。参加者のニーズと関心を最優先してください。最も適切なトピックと形式、フィードバックとアイデアを参加者から最大限に引き出す方法、研修目標を考えながら行事を計画していきます



23



Rotary

リーダーシップ理論と自分に合ったリーダーシップの見つけ方:

- ・さまざまなリーダーシップ理論を参加者に説明する。
- ・ワークシート、アンケート、少人数での演習を用いて、参加者のリーダーシップスタイルを明らかにする。
- ・各リーダーシップスタイルのメリットと、さまざまなスタイルをチームの成長に生かすことの重要性を話し合う。
- ・少人数での演習または参加型ワークショップを通じて、さまざまなリーダーシップスタイルを持つ参加者が、グループの中で自分の強みを生かせるようにする



24



Rotary

- コミュニケーションスキル（パブリックスピーキングを含む）:
- ・交互に一人ずつ、グループ演習のリーダーになってもらう。
 - ・違う参加者に各日の最初のあいさつ、各講演者の紹介、各演習の説明を担当してもらう。
 - ・参加者が自分で選んだトピックについて話をするスピーチコンテストを行う（それに対して、ほかの参加者が建設的な意見を述べる）

RYLA

25



Rotary

倫理的リーダーシップ:

倫理的リーダーシップの要素について説明

敬意、奉仕、コミュニティ、正義、誠実さなどがあげられます。

RYLA

26



Rotary

- 多様性、公平さ、インクルージョン:
- ・ロータリーの「多様性、公平さ、インクルージョンの声明」を読む。
 - ・自分にとっての「多様性、公平さ、インクルージョン」と、それが日常生活にどう影響するかを考えてもらう。
 - ・必要に応じて手助けしながら、学校、クラブ、地域社会、またはRYLA行事のための独自の「多様性、公平さ、インクルージョンの声明」を作成してもらう。

RYLA

27



Rotary

評価アンケートの結果や寄せられた意見の活用

RYLA行事の成果を評価し、参加者からの意見や感想を集めることは、今後の行事で取り上げるトピックを決めるのに役立ちます。

RYLA

28



Rotary

学友からの協力

プログラムの新しいトピックを見つけるために、学友に協力してもらおうとよいでしょう。RYLAに参加した学友に、RYLAで学び、今も活用しているスキルや知識は何か、また習っておけばよかったと思うスキルや知識は何かを聞いてみましょう。

RYLA

29



Rotary

- ☆多様性、公平さ、インクルージョン
- 国際ロータリーが推奨する学習目標が必ずしもすべてのRYLA行事や参加者に適切であるとは限りません。推奨されている目標が適していないと思われる場合、地元のニーズに合うように委員会と協力して修正するか、独自の学習目標と指標を設定しましょう。
- 目標と成果の指標を定めることは、実りある内容を計画し、参加者の成長を確認するために欠かすことができません。

RYLA

30



Rotary

☆役立つ情報

RYLAプログラムの内容は、参加者の意欲を引き出すものとなっているでしょう。

各地で行われるRYLAの活動状況をRIJYEMで集め、情報を適宜お知らせすることができるようになります。

RYLA

31



Rotary

形式

扱うトピックが決まったら、行事の形式を計画します。多くの場合、講演、ワークショップ、チームビルディング活動を組み合わせて構成されます。

情報に富む参加型プログラムを企画しましょう。

体を動かす活動、講演、少人数グループでの活動をバランスよく組み合わせて、集中力を持続できるようなプログラムを考えてください。

さまざまな状況下で学んでもらうことにより、参加者が独自の能力を発揮できるよう。

RYLA

32



Rotary

参加者同士が打ち解ける時間
参加者同士が互いを知り合い、ネットワークを広げ、友だちを作る時間を設けてください。
初日や各日のはじめにこの時間を設けることで、参加者が打ち解け、活動での協力がスムーズになります。
屋外活動、ゲームやカジュアルなパーティなどがあります。
行事後にも参加者がソーシャルメディアなどでつながりを保つ方法も考えておきましょう。

RYLA

33



Rotary

多様性、公平さ、インクルージョン
参加者同士が打ち解けるための活動を計画する際は、全員が楽しめる活動は何かを参加者にも尋ねてみるとよいでしょう。
ただし、すべてに参加することを好まない人や、すべてには参加できない人がいる可能性があることにも留意してください。そのような懸念がある場合、このような活動は任意参加とし、その時間中に過ごせる場所や別の活動を用意するの一案です

RYLA

34



Rotary

☆経験豊富な運営者からのアドバイス
ある国のRYLAでは、参加者がマイクの前で自身の体験談や関心、抱負などを語る「自己紹介のタペ」を行っています。
参加者同士が互いを知り合えるだけでなく、人前で話すことの練習にもなります。
☆役立つ情報
行事中、時々「振り返りの時間」を設け、記憶が新しいうちに各セッションや活動で学んだことを話し合ってもらいましょう。
そうすることで、学んだことの定着が促されるだけでなく、参加者からの感想を集めてその後の活動に生かすことができます。

RYLA

35



Rotary

カウンセラー

プログラムや行事期間中は、進行役がカウンセラー役を務められるようにしておく必要があります。
カウンセラーの仕事は、参加者の監督からワークショップや演習のサポートまで多岐にわたる役割があります。

RYLA

36



Rotary

地区および国際ロータリーの青少年保護方針

青少年プログラム参加者の安全と福利を守ることは、国際ロータリーの最優先事項です。
未成年が参加する場合、すべての進行役がロータリーの青少年保護方針を遵守する必要があります。
地区ガバナーや地区青少年保護役員と協力し、地区が定めているほかの青少年保護方針やリスク管理方針を熟知かつ遵守し、必要な研修を必ず実施してください。

RYLA

37



Rotary

- ・危機管理研修
- ・青少年保護方針の作成
- ・青少年と接する際の行動規範に関する声明
- ・委員会が独自の青少年保護方針を作成する場合、RYLAの方針には次の点を含めてください：
大人と青少年、または青少年同士が接する際の適切／不適切な行為に関する方針
- ・リスクの管理
- ・危機管理計画
- ・危機管理計画の作成

RYLA

38



Rotary

実施後の評価

時間をかけてプログラムを振り返り、成果の評価を行い、その結果を今後の改善に役立てましょう。

評価を実施する

どの程度成果を得ること評価アンケートを活用できます。
一つは参加者の満足度を評価ができたかを十分に把握するには、参加者からフィードバックを集める必要があります。
収集するデータの種類に応じて評価するもの。
もう一つは参加者の知識、能力、行動の変化を評価するものです。

RYLA

39



Rotary

実施前／実施後アンケート

ワークショップや活動の前後に質問やアンケートを使い、参加者の知識や能力、行動の変化を調べましょう。
セッションの最初と最後に短いアンケートに回答してもらうか、各自の日記に質問への答えを記入してもらうなど、簡単な方法で十分です。

RYLA

40

☆役立つ情報

資金調達や学校との連携の際など、RYLAについて説明を受けた人が、RYLAで得られるスキルや知識について確かな情報を求めてくるかもしれません。そのような情報を集めるうえでも実施前・実施後のアンケートが役立ちます。

評価結果を将来のプログラムに生かす

RYLAに関する意見や感想を集めたら、その結果を今後のプログラムの改善に生かします。委員会の会議を開き、アンケート結果や定性的データ、振り返り中に記録したコメントを様々な観点に留意して分析しましょう。

人と出会い
神と交わり
愛の火の燃えるところ

今井鎮雄元RI理事

「人と出会い」・・・

初めに 親睦ありき

RYLAセミナーでは、良質な「出会い」を保障し、良質な親睦を熟成するところから始まります。

「神と交わり」・・・

ロータリーの世界では、奉仕哲学の追求、真理の追求を意味します。

「愛の火の燃える」・・・

奉仕の心が育つことであります。

「講義」を聴き、「思索の時間」で自らを振り返り、「バズセッション」、「フォーラム」によって知性の練磨が行われ、「愛の火が燃える」のであります。

スケジュールは、全て受講生の自律に委ねられます。ロータリーが親睦の内におのずから奉仕の心を生み出したように、RYLAも受講生の自律と親睦の内に、参加者の心の中に、温かい奉仕の心・愛の火が灯り、地元地域へ帰って実践してくれることを期待しているのであります。

愛の火がともるか否かは、受講生次第です。

地元地域へ帰ってからともるかもしれない、3年後かもしれない、5年かかるかもしれない、10年かかるかもしれない。或いは永久にともらないかもしれない。

ロータリーとしては、彼ら彼女らが気付く
そのための種を蒔いておこう。
その種が芽生えるか否かは、
私達が信頼した彼等彼女等に委ねよう。
温かく見守って行こう。
そして未来に期待をしよう。
これがライラの趣旨です。

RYLA

ロータリーの奉仕の一つのあり方は、
何ものをも求めず、ひたすら未来のために
種を蒔くことです。
ロータリーの役割は、結果を求めず、
ただひたすらに種を蒔き続ける。
そして、未来に夢を託す。
これがロータリーの役割なのです。

RYLA

ロータリー思想は未来を夢見る思想です。
ロータリアンは理想主義者なのです。

ロータリーの理想主義は、
ただひたすらに種を蒔く、
そしてロータリーをShareするのです。

RYLA

たとえ明日が世界の
最後の日であっても、
私は今日も
林檎の木を植える


マルティン・ルター

RYLA

この言葉は、ロータリーの思想や
RYLAの思想と共通の境地にある
言葉です。
RYLAで蒔いた種が若者達の心に
いつか芽生えるかも知れない。
例え芽が出なくても、ただひたすら
種を蒔く。
そして、未来に夢を託す。
これがRYLAの思想なのです。

RYLA

「思索の時間」
この時間が何故RYLAに必要なのか



1923'24年の国際ロータリー会長
ガイ・ガンデイカー Guy
Gundaker

「ロータリアンは、思索する
人でなければならない」

RYLA

「思索の時間」の意味は、
世俗の憂きことも楽しいことも一切忘れて、
「ひたすら思索に耽る」
そして、「自分を見詰めること」が大切であり、
そのことによって、初めて立派なリーダーが
育つのです。
これが、「思索の時間」の本来の趣旨です。

RYLA

しかし、私達ロータリアンには、
年齢を重ねたからこそ見えてくる、
知恵の世界があります。
年をとって失ったからこそ見えてくる
新しい世界。
失ったからこそ身につけた
素晴らしい知恵を若い人びとに伝えて
おかなければなりません。
これが、青少年奉仕の核にある考え方です。

RYLA

Rotary

激動の時代を生き抜いて行く知恵とは、
一体何か。
それは心の問題であります。


世界がどんなに広くても、それを
動かすものは
人間であり、その核にあるものは
一人ひとりの人間の心です。

RYLA

57

Rotary

2000-04年度
ロータリー財団管理委員
アーヴィング・J・ソニー・
ブラウン氏は、RI/RYLEA委員会
委員長を務め、
2001年サンアントニオ国際大会
委員会委員長も務めました。



RYLA

58

Rotary

Sonny Brown 委員長は、私たちが開催して
いるRYLAを参考に国際RYLAを企画したい。
開催にあたり、神戸の今井顧問のご自宅を
訪問され、細部にわたり調査されました。


RYLAの真髓や理念は今井先生が、
現場の技術的な事は私たちがお話しをし、
初めての国際RYLAが
San Antonio TEXASで開催されたのです。

RYLA

59

Rotary

今井鎮雄元RI理事の発案による
RYLAを世界に広めたい。



サンアントニオ国際大会の大会前
諸活動のひとつとして2001年6月21-23日に
第1回国際RYLAを開催しました。

このサンアントニオの国際RYLAには世界中から
18-30歳の若者130人が集いました。

RYLA

60

Rotary

献身、情熱、そして愛が
RYLAの核心であり、
ロータリーの未来を確実に
する最も素晴らしい投資です。
とSonny Brown氏は、
語りました。

RYLA

61

Rotary

私たちロータリアンは、青少年を育てる
ことの大切さを認識し、ライラリアンが、
明日でなくていい、1年後でなくてもいい、
いつかきっと芽を出してくれるであろうと、
その日を夢見ながら努力を続けています。

RYLA

62

Rotary

ロータリーがどこに向かって
進もうとしているのか。
方向性をしっかり見極めていか
なければならない。

ロータリアンとはいったい誰なのか
ライラリアンとはいったい何なのか

RYLA

63

Rotary

今までと同じことを継承する
だけでは発展はない。
新しいものを上に積み上げている
だけで、既存のプログラムと同じ事
をしてお茶を濁してはいないか。

RYLA

64



Rotary

未来を見据えてゆこう。
以前と違う方法はないか、
それを見つけて行動しよう。

今までと同じプログラムを消化する
ことに腐心していませんか？

RYLA

65



Rotary

ロータリーは、思い出に浸る組織
ではありません。

過去の業績より、むしろ未来の活動に
価値と目的を置く組織です

ポール・ハリス

RYLA

66



Rotary

ロータリーの奉仕の一つのあり方は、
何ものをも求めず、
ひたすら未来のために種を蒔くことです。

ロータリーの役割は、結果を求めず、
ただひたすらに種を蒔くことあります。

RYLA

67



Rotary

ロータリーは、未来を夢見る思想であり、
ロータリーの理想主義は、
何ものをも求めず、
ただ、ひたすらに未来のために
種を蒔くことです。

RYLA

68



Rotary

地域の問題に答えようとする
ロータリー精神を育てること、
受講生の皆さんが地域のことを考え、
周りの人びとを大切に思うことに
気づいてほしい、
共に働くことの意義を考えてほしい

RYLA

69



Rotary

初めて出会った仲間たちの
笑顔、優しい眼差し、温かいふれあい、
この人々や自然とのふれあいが
あるからこそ、
よい経験をした、素晴らしい体験を
したと言えるのです。

RYLA

70



Rotary

なぜ、このRYLAが40年以上もの
長きにわたって開催され、
2000人もの受講生が
育っていったのでしょうか。
学校や地域では学びきれない、
違った視点でものを考える機会を
提供してきたからなのです。

RYLA

71



Rotary

その体験から、
本質は何かと考える若い人びとが
大勢いるのです。

何が大切なことなのか自らに
問いかけることをしてくれるのです。

RYLA

72



Rotary

功利を追い求めるのではなく、
どこかの誰かのために私たちに
できることはないかと優しい気持ち
が沸き上がり、自分をじっと見直す
時間を与えられ、
素晴らしい仲間と出会う機会を
持つことができます。

RYLA

73



Rotary

RYLA学友の皆さんは
ロータリーの期待を
背負っていることを
忘れないで下さい

RYLA

74



Rotary

今、ロータリアンも
ライラリアンも一緒になって
種をまく時です

RYLA

75



Rotary

ご清聴
ありがとうございました
お目にかかる日を楽しみに
三木明

RYLA

76

基調講演「RYLAの根底にある思想」



講師 くろだ けんいち 黒田 建一 (RIJYEM 研修部門委員)

職業分類 一般弁護士 (水晶橋総合法律事務所)
所 属 第 2680 地区 西宮イブニングロータリークラブ

ロータリー歴

・クラブ歴

1991年4月12日 RID2680 西宮夙川 RC 入会
2010-11年度 RID2680 西宮夙川 RC 会長
2016年4月1日 RID2680 西宮イブニング RC 入会

・地区委員会歴

2011-14年、2018-19年 各年度 RYLA 小委員長
2014-15年度 青少年奉仕委員長
2015-16年、17-18年、21-22年 各年度 青少年奉仕副委員長
2015-16年度 ロータリー財団副委員長 補助金小委員長
2014-16年、2017-22年 各年度 危機管理委員長
2021-22年度 学友副委員長
2021-22年度 第14回全国 RYLA 研究会地区実行委員長
RIJYEM 設立時より RIJYEM 研修部門委員



RYLAの根底にある思想 第14回全国RYLA研究会

2022年5月21日(土)
於 ホテルニューオータニ鳥取
RID2680 危機管理委員長
RID2680 青少年奉仕副委員長
第14回全国RYLA研究会地区実行委員長
RIJYEM研修部門委員
西宮イブニングRC 黒田建一

1

1. ロータリー章典

(1) 章典の条、節、項

- ①41.070「ロータリー青少年指導者養成プログラム」
('17.1) ・RIプログラム・14歳以上の子供or成人
- ②41.070.1「目的」('71.4、'82.5~6、'95.11、
'98.7、'17.1)
- ③41.070.2「地区ガバナーの権限」('16.9)
- ④41.070.3「目標」('82.5~6、'17.1)

2

- ⑤41.070.4「中心となるカリキュラム」('95.2、
'01.6)
- ⑥41.070.5「RYLAにおける奉仕活動」('17.1)
- ⑦41.070.6「RYLAに関するロータリアンの活動」
('01.2、'17.1)
- ⑧41.070.7「RYLAセミナーおよびプログラム」
('01.2、'17.1)
- ※17.030.2「地区委員会」
 - ・ロータリー青少年指導者養成プログラム委員会
('20.4)

3

(2) 41.070.1. 目的

ロータリー青少年指導者養成 (RYLA) プログラムは、地域社会の若い人々の指導力および善良な市民としての資質や個人および職業人としての能力を伸ばすことにロータリアンが直接関与できる機会を設ける。地域社会内の異なるニーズと関心に合わせるために、限定された年齢層のグループを対象として、RYLAプログラムの内容および形式をカスタマイズすることができる。RYLAプログラムは、クラブ、地区、または多地区合同レベルで実施するものとする(2017年1月理事会会合、決定87号)。

4

2. RYLAプログラムの実施方法ー RID2680のRYLAセミナー

- (1) '79年故今井鎮雄前RI理事(神戸西RC)、故深川純一PG(伊丹RC)を中心として開始
- (2) セミナーの形式
 - ①期間3泊4日、②時期3月~5月、③場所香川県小豆島の離島余島 神戸YMCA余島野外活動センター、④人数30~50名 4班編成、⑤班毎にカウンセラー2名(ロータリー関係者)

5

⑥カリキュラムの例

- 1日目・オリエン・講義・オープニングパーティ・キャビンタイム
- 2日目・専門家講義2人・思索の時間・レクリエーション・バズセッション
- 3日目・バズセッション・フォーラム・カウンスルファイアー・キャビンタイム
- 4日目・最終講義・感想文作成

※受講者とグループの成長過程に適応したプログラム

6

3. 集団(グループ)の会合の持ち方の例

- ・アセンブリー(協議会)
 - 7.070クラブ協議会、20.060地区研修協議会
- ・セミナー
 - 20.070 PETS、20.080地区チーム研修セミナー
- ・ワークショップ
 - 20.090地区クラブ活性化ワークショップ
- ・エンカウンターグループ、フォーラム(ディスカッション)
- ・グループセラピー、T・グループ

7

4. ワークショップ(WS)とエンカウンターグループ(EG)

(1) T・グループ

1946年頃K・レビン(社会心理学者、「集団力学」)が教育関係者、ソーシャルワーカーのワークショップを指導

- ・10人位が郊外の研修施設などで1週間合宿生活
テーマは定めない
- ・他者と関わり合う中で人間関係や自分自身のあり方などへの気づきや学びを得ることが目的

8

(2) ワークショップ

参加者が受け身ではなく、積極的に関わる研究、集会ポイントは

- ・ワークショップに先生はいない
- ・「お客さん」でいることはできない
- ・初めから決まった答えなどない
- ・頭が動き、身体も動く
- ・交流と笑いがある

(中野民夫「ワークショップ」13頁 岩波新書)

9

(3) workとshop の語源

- ・work shop 直訳であれば作業場となる
- ・work (ゲルマン語由来) ⇔ labor (ラテン語由来)
自主的労働、制作 苦役、労働
- ・shop 作業場 ⇔ store 大型店
工房 貯蔵所

10

(4) WSとEGの関係

- ・EGもWSの一種
- ・WS、EG共にファシリテーターが重要な役割を果たす
- ・WSは具体的課題を持つ場合が多い
EGは具体的課題を持たないベーシックEGが当初の在り方
- ・EGはC・ロジャーズによって独自の進化を遂げてきた

11

5. エンカウンターグループ (EG)

(1) 定義

- ①「自己理解や他者理解を深めるという個人の心理的成長を目的として、」
- ②「パーソンセンタード・アプローチ (PCA=心理療法の1つ) の基本的視座を持つ1~2人のファシリテーターと10人前後のメンバーが、」
- ③「集中的な時間の中で」
- ④「各人が自発的・創造的に相互作用を重ねつつ、安全・信頼の雰囲気を形成し、そこで起こる関係を体験しながら、率直に語りあい聴きあうこと」
- ⑤「を中心に展開するグループ経験である。」

12

(2) テーマ、課題の有無

- ① ベーシック (非構成的) EG
テーマ、課題が特に無い
例 ・Tグループ ・2680地区RYLAセミナー
- ② 構成的EG
テーマ、課題が有る
例 ・多くのワークショップ (経営企画、町おこしなど)
・北アイルランド紛争に関するEG (1973)

13

(3) 内容

①目的 出会い

- ・自己との出会い=自己理解
- ・他者との出会い=他者理解
- ・自他との出会い=自己理解、他者理解を積み重ねることにより、深く親密な関係を体験する。いわゆる「本当の意味でわかりあえた」「出会えた」という体験

14

②ファシリテーター (「促進者」)

- ・クライアント・メンバー自身に力があり、そこに寄り添う
- ⇒リーダー、トレーナー、指導者ではなく (ファシリテーター)
- ・ファシリテーターはメンバーの一員、メンバーとしても参加している

③グループの構成

- ・1~2人のファシリテーター
- ・複数いればグループを複眼的に理解でき、また、相互にサポートしあえる
- ・10人前後のメンバー
- ・複数のグループが並行の場合、全体で集まるコミュニティ・セッションが持たれる

15

④スケジュール

- ・3日~4日間 (宿泊を伴う)
- ・1.5時間~3時間のセッションを一日3回程度重ねる

⑤グループのすすめ方

- ・メンバーがみんなで決めてゆく
- ・セッションにおける各メンバーの動きは自発性に任されている
- ・セッションを重ねるなかで、グループに「安全・信頼」の雰囲気形成され、自己理解や他者理解を深めるという個人の心理的成長や、自他との出会いといった体験が促進される

16

(4) ファシリテーターの役割

- ①グループ全体を見る
- ②グループへの所属感を保証する
- ③攻撃された人を守る
- ④メンバー1人1人のペースを守る
- ⑤プロセスの展開に応じた柔軟な対応
- ⑥グループを無理に進めない

17

(5) ファシリテーターの育成

- ・ファシリテーターはPCAの理解を必要とする
- ・ファシリテーターの育成はPCA⇒EGによる
- ・ファシリテーターは「技法」によるのではなく「態度」による
- ・「技法」は単なるハウツウの暗記—おうむ返しの弊害
- ・「態度」は「技法」の目的と意味を理解し、本来の目的であるEGの効果的な展開に結びつくもの

18

(6) ファシリテーションとは

- ① 風土づくりの機能としての注意深く正確、敏感な傾聴
- ② ありのままのグループの受容
- ③ ありのままのメンバーの受容
- ④ メンバーに対する共感的理解
- ⑤ 自分の内部で起こっていることを信頼して動く
- ⑥ 自分の気持ちを伝えるというかたちでのフィードバックおよび対決
- ⑦ 自身も問題を抱えているときはそれを表明することも重要
- ⑧ 自発性が最も重要であり、あらかじめ計画されたワークは避ける
- ⑨ ファシリテーターからのグループ・プロセスの解説や注釈は避ける
- ⑩ メンバーの病的行動に対してもグループの持つ援助的潜在力を信頼する
- ⑪ 自発的な身体表現や身体接触を大事にする

19

(7) ファシリテーションとファシリテーターの歴史

- ① 1910年代 モレロ (オーストリア) 心理劇 — 監督 (director)
- ② 1910~20年代 スラブソン (ウイライナーアメリカ) 集団精神療法 — セラピスト
- ③ 1940年代 レヴィン (ドイツアメリカ) Tグループ — トレーナー
- ④ 1960年代 ロジャース (アメリカ) EG — ファシリテーター
- ⑤ 1970年代 会議F、グループF、ミーティングF
- ⑥ 2000年代 会議F 日本へ紹介

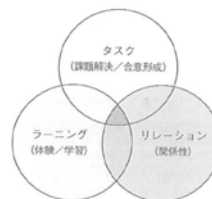
20

(8) ファシリテーションの対象の変化

- ① 個人レベルのラーニング
心理劇 Tグループ ベーシックEG
↓
- ② Tグループがビジネス領域活用 (1960年代)
- ③ グループ組織レベルの「タスク」合意、解決
「リレーション」構築

21

(9) ファシリテーションの対象の3分類



「ファシリテーションとは何か」井上義和外 より

22

(10) ファシリテーションの実施に当たっての注意点

- ① 巧みなFはかえって人の主体性を弱くしてしまう可能性がある
- ② 大きな特権や力を持つファシリテーターはそのことに十分自覚的でないといけない。
- ③ Fの遂行を単純化し、形骸化させてしまう危険性がある
Fを会議効率化のノウハウと考えることなど
- ④ Fについての解説本への依存—方法のマニュアル依存
- ⑤ 解説本には基礎的枠組みの説明を欠き、ハウツーだけを伝えるに終わっているものが多い

23

(11) EGのファシリテーション

- ① 対象が個人ではなくグループへ
グループ自体を人間と同様の有機体とみなし、グループ自体に実現傾向があると考え
- ② 目的がカウンセリングではない
・カウンセリングではクライアントとカウンセラーとの間で互換性が無い
・EGではファシリテーターもメンバーの一員、メンバーもファシリテーションを担うことがある
—援助 (促進) する/されるの両側面を有する役割上促進に軸があるのがファシリテーター

24

(12) EGの発展段階

1. 導入段階
 - ① 当惑・模索
 - ② グループ目的・同一性の模索
 - ③ 否定的感情の表明
2. 展開段階
 - ① 相互信頼の発展
 - ② 親密感の確立
 - ③ 深い相互関係と自己直面
3. 終結段階
 - ① グループの感想、日常への意欲
 - ② グループへの不満→Fは一応のおさまりをつけるを試みる

25

(13) 個人プロセスモデル

- ① 主体的・創造的探求プロセス
自発的・自主的に、そのグループの進め方、自分と他者との関わり方、自分のあり方を絶えず新たに探し求めていく過程
- ② 開放的態度形成プロセス
自己・他者・グループについて、気持ち・感情を取りつくるわずに率直に表現するとともに、他者の自分・その人・グループについての気持ち・感情の表現を構えずに率直に傾聴する過程

26

- ③ 自己理解・受容プロセス
自己について発見・再発見をし、またそのような自己を率直に認める過程
- ④ 他者援助プロセス
他者の自己理解・受容、自己変化、自己成長を促進するような言動をおこなう過程
- ⑤ 人間理解深化プロセス
人間（他者）についての見方・認識がより深くかつ広くなる過程
- ⑥ 人間関係親密化プロセス
相互の密接で開放的で直接的な関係が深まり、親近感、統合感、連帯感、好感、共存感が強まる過程

27

(14) EGの効果

・EGでの体験による参加者のその後の影響
=EGの効果研究

- ① メンバーへの効果
- ② ファシリテーターへの効果
・EGは必ずしもうまくゆくとは限らない
より好ましいファシリテーターとEGリーダーの存在が鍵

28

6 EG、ファシリテーションと
C. ロジャーズ

(1)

- ・PCAの発展過程におけるグループへの関心
 - ・シカゴ大でのカウンセラー養成WS
 - ・レヴィンのTグループ（人間関係トレーニングG）と併行
 - ・1960年代の人間性回復運動の一環として普及
 - 集中的グループ経験
- ※「人間性回復運動」科学技術の発展や都市化、組織の巨大化などによる人間疎外の状況の打開

29

(2) C・ロジャーズとは

アメリカの心理学者・心理療法家
1902年 アメリカ・イリノイ州オークパーク生
19年 ウィスコンシン大学卒
24年 ニューヨーク市ユニオン神学校
26年 コロンビア大学心理学専攻
45年 シカゴ大学教授 クライエント中心論
57年 ウィスコンシン大学教授
64年 西部行動科学研究所 EG論
70年 「エンカウンター・グループ」発刊
87年 逝去

30

7. PCA（パーソナル・センタード・アプローチ

(1) ロジャーズの基本仮説

人間はそもそも実現傾向を持っている。それはある種の人間関係（人間尊重の姿勢が貫かれた関係）でよりよく発揮される。

・実現傾向

いきてるものは、そもそも自分を維持、強化するために、もっている力を発展させようとする力があるということ

31

(2) ロジャーズの中核三原則

- ①一致 カウンセラー⇔クライエント
- ②無条件の積極的関心 (カ) → (ク)
- ③共感的理解 (カ) → (ク)

・PCAは従来型のセラピスト→患者への一方的関係を否定し、患者（クライエント）を中心として接する。

32

(無条件の積極的関心)

相手の意見や感情等の良し悪しの判断をせず、相手の存在そのものに積極的関心を持つこと。先入観なく虚心坦懐に傾聴する(共感的理解)

相手の気持ちをあたかも相手を感じているが如く感情に彩られた世界を理解すること。しかし、所詮同感に過ぎないので、聞き手が理解したことを話し手に伝えて確認することが必要

(一致)

(無条件の積極的関心)をカウンセラー自身に向け、カウンセラー自身の感じていることに対して(共感的理解)を示すこと

8. リーダーシップとは

(1)

- ・リーダーシップという言葉は1800年代に生まれた
- ・定義は1929年頃10位→1980年代110の定義
- ・リーダーシップ理論の変遷

- ①偉人アプローチ('18中~'19初)、②特性A(1904~1947)、③行動A('50~'80)
 - ④状況A('50~'60)、⑤影響力A('20中~'77)、⑥互恵的A('78~)
 - ⑦カオス/システムA('90~)、⑦自分らしきリーダーシップA('90~)
- (「リーダーシップの探究」S.ロミナス 外63頁以下)

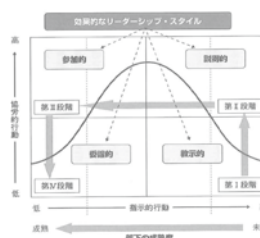
※A=アプローチ

(2) リーダーシップ研究の新しい流れ

組織	利潤の追求	⇒	社会課題解決と事業性の両立
リーダーシップ	個人の強力なリーダーシップ	⇒	メンバー全員のリーダーシップ
公式なリーダー	明確なビジョン設定と変革推進	⇒	メンバーがリーダーシップを發揮できる環境をつくる
メンバー	フォロワーシップの發揮	⇒	権限によらないリーダーシップを發揮する
リーダー教育	あるべき像の教示	⇒	体験・経験を通じた学習

(「これからのリーダーシップ」堀尾忠保外より)

(3) 組織(チーム)の発達過程に応じたリーダーシップ



(「チームワークの心理学」山口裕幸より)

9. RYLAセミナーとEG、ファシリテーター

(1) RYLAセミナーにとってのEGの意味と特殊性

- ①兵庫方式のRYLAセミナーがEGの一形態であることは明らか。しかし
- ②RYLAセミナーはロータリー活動の1つであること
- ③RYLAセミナーはロータリーの目的を反映するものであること
- ④RYLAセミナーは青少年のリーダーシップ養成の場であること
- ⑤RYLAセミナーはセミナー修了で完結しない

(2) RYLAにおけるリーダーとファシリテーター

- ・セミナーにおけるリーダーとは
- ・学ばれるべきリーダーシップとは
- ・ファシリテーターはリーダーか
- ・リーダーはファシリテーターか
- ・リーダーとファシリテーターは両立するか
- ・RYLAにおけるものであることを強く認識する必要がある
- ・何故ロジャーズのPCA, EG論に遡るのか

(3) RYLAセミナー開催の目的と手法

- ・何を目的としてセミナーを開催するのか
- ・少なくとも技術取得を目的とするものではない
- ・その目的はRYLAでなくては達せられないのか
- ・スタッフは目的を共有化しているか
- ・手法(プログラム)は目的と整合しているか
- ・手法(プログラム)がスタッフの能力を超えていないか
- ・セミナーの成果(反省点を含め)は蓄積されているか

参考資料

1. PCA EG関係
 - ①「旋回の心理学PCAを学ぶ」坂中正義編著 2017年
 - ②「自分らしきを認める」PCAグループ入門」村山正治 2014年
 - ③「ベーシックエンカウンターグループにおけるロジャーズの中核3条件の検討」坂中正義 2012年
 - ④「エンカウンターグループのファシリテーション」野島一彦 2000年
 - ⑤「銀鉄のシャッター」P.ライズ 2003年
2. G.ロジャーズ関係
 - ①「カール・ロジャーズ入門」鎌倉祥幸 1997年
 - ②「カール・ロジャーズ」鎌倉祥幸 2021年
 - ③「金釘 ロジャーズ クライアント中心療法現在の現在」村瀬幸雄 村瀬恵代子 2015年
3. グループ理論関係
 - ①「グループダイナミックス」釘原直樹 2011年
 - ②「グループディスカッション」西口利夫外 2021年
 - ③「チームワークの心理学」M・Aウエスト 2014年
 - ④「チームワークの心理学」山口裕幸 2008年
 - ⑤「チームワークの教科書」ハーバード・ビジネスレビュー編集部 2019年
 - ⑥「集団心理学」大橋昌編著 2021年

- ⑦「集団行動の心理学」本間道子 2011年
- ⑧「ワークショップ」中野良夫 2001年
- ⑨「ワークショップデザイン論」山内祥平 2021年
- ⑩「これからはじめるワークショップ」堀公俊 2019年
- ⑪「ファシリテーション入門」堀公俊 2018年
- ⑫「ファシリテーションとは何か」井上義和伸 2021年
- ⑬「ファシリテーションの教科書」グロービス 2014年

4. リーダー論

- ①「リーダーシップが盛衰時代」B.ケラーマン 2013年
- ②「リーダーシップの教科書」ハーバード・ビジネスレビュー編集部 2018年
- ③「リーダーシップの探求」S.R.コミベズ 2017年
- ④「謙虚なリーダーシップ」E.H.シャイン外 2020年
- ⑤「サーバントリーダーシップ」R.M.グリーンリーフ 2008年
- ⑥「サーバントリーダーシップ実践講座」真田英人 2012年
- ⑦「サーバントリーダー」J.ハンター 2012年
- ⑧「これからのリーダーシップ」堀尾忠保外 2020年

5. 社会心理学

- ①「社会心理学精訂版」池田謙一外 2018年
- ②「第2版社会心理学」山岸孝男監修 2020年
- ③「社会心理学講義」中坂井敏晶 2013年

41

6. 臨床心理学、心理学外

- ①「読説カウンセリング心理学」福島修典 2008年
- ②「いちばんよくわかる図解臨床心理学」加賀屋崇文編 2018年
- ③「心理学」〔新版〕無藤隆外 2018年
- ④「人間性心理学入門」中野明 2019年
- ⑤「今日から始まるナラティブ・セラピー」坂本真佐哉 2019年
- ⑥「生きる勇気」P.ティリヒ 1995年
- ⑦「パウル・ティリヒ」深井智明 2016年
- ⑧「ティリヒ」大島末男 1997年
- ⑨「アーレントとティリヒ」A.クリストファーセン外編著 2008年
- ⑩「ジェンドリン哲学入門」鎌田祥彦外編著 2009年

7. その他

- ①「アクティブラーニング学校教育の現実と理想」2018年
- ②「ナッジ？」那須耕介外 2020年

42

御清聴有難うございました。

43

全国青少年奉仕委員長会議（RYLA委員長）会議・議事録

開催日時： 2022年5月21日（土）16：40～18：00

会 場： ホテルニューオータニ鳥取・別館アクティビル3階「鶴の間」

出席者： 44名

議 長： 小林 一（RI第2690地区青少年奉仕担当幹事）

副議長： 安行 英文（RI第2680地区ガバナーノミニ一）

議 事：

1. 第1号議案 次年度全国RYLA研究会開催地区決定の件

次回の第15回全国RYLA研究会を、第2510地区札幌幌南RCをホストクラブにして開催することが承認された。開催期日は、2023年5月20・21日（土・日）、会場には札幌グランドホテルを予定していることが紹介された。

2. 第2号議案 全国RYLA連絡会（仮称）設置の件

第14回全国RYLA研究会実行委員会を代表して黒田建一実行委員（RIJYEM研修委員、RI第2680地区西宮イブニングRC）より「全国RYLA連絡会」の設置について趣旨説明があり、審議の結果、設置が承認された。

全国RYLA連絡会設置の趣旨は、添付資料の通り。

3. 第3号議案 全国RYLA連絡会規約設定の件

第14回全国RYLA研究会実行委員会を代表して黒田建一実行委員（同上）より「全国RYLA連絡会規約（案）」について提案があり、審議の結果、承認された。

全国RYLA連絡会規約は、添付資料の通り。



全国 R Y L A 連絡会設置の趣旨

全国 R Y L A 研究会は今年度で第14回を迎えますが、形式的には毎回ある地区が偶々に行っていることになっており、毎年度開催についての継続性は保障されていません。

同じ R I プログラムである青少年交換の場合には、多地区合同プログラムとして章典上の根拠をもって R I J Y E M が様々な事務手続をとっており、プログラムの継続性について問題は生じません。

そこで、R Y L A 活動においても、特に全国研究会を軸として、少なくとも事務連絡を取り合う機能を持つ活動体があるのが望ましいのではないかと考え、今回の連絡会設置の提案を行うものです。

連絡会設置に当たっては、緩やかにせよルールを決めておくのが望ましいと考え、簡潔な規約案も作成致しました。

連絡会の参加は、勿論、義務的なものではなく、各地区の判断にお任せすることになります。連絡会の設置と規約の制定が認められましたら、今回の全国研究会終了後、各地区に連絡会参加の要請をし、漸次活動を進めてゆくことになると思います。

これ迄にも青少年交換だけではなく、米山記念奨学につきましても全国組織がありますが、全国 R Y L A 連絡会は、全国 R Y L A 研究会開催についての事務連絡を中心として、その他の R Y L A 活動について、全国の各地区間での情報交換の場であり、各地区が任意に集合したものという性格を持つものであります。

以上、全国 R Y L A 連絡会設立の趣旨を申し上げます。何卒御理解のうえ、御賛同頂きたくお願い申し上げます。

以上

令和4年5月21日

第14回全国 R Y L A 研究会実行委員会



全国 R Y L A 連絡会 規約（案）

2022.5.21

R I D 2 6 8 0 第 1 4 回 全 国 R Y L A 研 究 会 地 区 実 行 委 員 会

文責 委員長 黒田 建一

1. (目的)

本会は、国際ロータリーの内日本国の各地区（以下、単に「各地区」という）の R Y L A 関連委員会の連絡網を形成し、R Y L A 研究会（以下、「研究会」という）の発展に資することを目的とする。

2. (研究会)

各地区の R Y L A セミナーを中心とする R Y L A 活動の情報を相互に交換する為、原則として毎年度 1 回全国 R Y L A 研究会を開催する。

3. (開催主体)

(1) 研究会は地区毎に開催する。

但し、複数の地区の共同開催を妨げない。

(2) 開催地区は開催年度（期間はロータリー年度と同じ）期間中、本会の事務局としての役割を果たす。

4. (研究会の内容)

(1) 研究会の内容はロータリー章典の趣旨に沿って開催地区が決定する。

(2) 前項の「内容」にはプログラムの策定、活動組織体の設立等、研究会開催に必要な事項を含む。

5. (プログラムの継続性)

研究会開催地区は、プログラムの決定にあたり、前年度を始め過去の研究会の成果を尊重する。

6. (実行委員会)

(1) 開催地区は、研究会の開催にあたり実行委員会を設置し、研究会のプログラムの立案をし、必要に応じ他地区に連絡をする。

(2) 実行委員会の設立については全国レベルと地区レベルとを別組織とすることができる。

(3) 全国レベルの実行委員会の設立にあたり、本連絡会は、日本国内選出の現 R I 理事、R I 理事会理事経験者への協力を要請する。

7. (ロータリーファミリー)

(1) 研究会開催に当り、R Y L A 学友会、ローターアクト等ロータリーファミリーの参加が奨励される。

(2) ロータリーファミリーが参加したときは、充分の危機管理態勢が義務付けられる。

8. (委員長会議)

研究会プログラムの一部に各地区の青少年奉仕委員長、R Y L A 委員長、もしくはその他の青少年活動関連委員長による委員長会議の開催を含むものとする。

9. (会議開催方法)

委員長会議の議長は原則として開催地区から選出する。

但し、必要のあるときには開催地区は、地区を問わず副議長その他の役員を選出することができる。

10. (議案)

(1) 議案の内には次年度開催地区の決定が含まれるものとする。

(2) 次年度開催地区について、開催地区には、全国レベル実行委員会、他地区と協力して、事前に立候補地区の有無を調査することが望まれる。

11. (議決)

議決の決定は出席地区毎に一票とし、その過半数の支持を必要とする。

12. (運営委員会)

(1) 本規約で定める研究会以外の業務を遂行する為、本会に運営委員会を設置する。

(2) 委員会の年度は毎年7月1日から翌年6月30日迄とする。

(3) 運営委員会の委員は、本会に参加する地区が地区毎に1名を選任する。

(4) 委員の任期は地区毎に定める。

(5) 運営委員会の委員長は、原則として研究会を開催する地区の委員とする。

(6) 委員長は、毎年度運営委員会の役員5名程度を選任する。

(7) 運営委員会はその運営について、運営委員会規則を設けることができる。

13. (R I J Y E M)

本会は、各地区間の連絡についてR I J Y E Mに協力を求めて、相互に協働し、その連絡体制の維持に努める。

14. (その他の全国的活動)

各地区がR Y L A活動について全国レベルでの活動を行うときは、本会の関与を求めることが奨励される。

15. (規約の変更)

(1) 各地区は、必要があると認める時は、本規約について変更を求めることができる。

(2) 本規約の変更については、事前に発議の上委員長会議において審議し、出席委員長（各地区1票とする）の3分の2以上の支持があったとき可決されるものとする。

以上

参加者一覧

地区	氏名	役職名	地区	氏名	役職名
2500	橋詰 啓史	地区 RYLA 委員長	2690	石倉 貞昭	ガバナーノミニー
2510	羽部 大仁	RRFC(PG)	2690	幡 宏明	松江しんじ湖 RC 会長
2510	西方 洋昭	RYLA 委員長	2690	中村 寿男	松江しんじ湖 RC 国際奉仕委員長
2510	斉藤 朋博	次期 RYLA 委員長	2690	江角 彰宣	ガバナー補佐
2510	山口 史朗	青少年奉仕委員長	2690	古瀬 俱之	パストガバナー
2520	三浦 滋	地区青少年奉仕委員会委員	2690	筒井 保太	ガバナー補佐
2520	小野 智哉	地区青少年奉仕 副委員長	2690	片山 浩二	井原 RC 社会奉仕委員長
2530	芳賀 裕	地区研修リーダー	2690	松本 圭司	地区青少年奉仕委員会委員 高梁 RC 青少年奉仕委員長
2530	大木 和彦	地区青少年奉仕委員長	2690	楠戸登美夫	倉敷中央 RC 幹事
2530	中目 公英	地区 RYLA 委員長	2690	稲田 起一	倉敷東 RC 青少年奉仕委員長
2530	佐藤 正道	ガバナーエレクト	2690	岡崎 邦泰	次期ガバナー補佐
2540	工藤 智教	PG/ 研修委員長	2690	土岩 剛志	岡山東 RC 青少年奉仕委員長
2540	加賀 美奈	青少年奉仕委員長	2690	堀川 辰也	ガバナー補佐
2550	二十二 修	地区青少年奉仕委員長	2690	米林 真	ガバナー補佐
2580	嶋村 文男	ガバナーエレクト	2690	佐藤 芳郎	RI 理事エレクト
2580	石川彌八郎	ガバナーノミニーデジグネート	2690	田岡 良一	岡山南 RC 青少年奉仕委員長
2580	仁平 範昭	次年度地区 RYLA 委員	2690	古川 武志	ガバナー補佐
2580	田名 毅	地区 RYLA 委員会副委員長	2690	石川 和子	岡山丸の内 RC 青少年奉仕委員長
2590	岸 厚子	地区青少年奉仕委員長	2690	大倉 治	岡山丸の内 RC 会長
2640	森本 芳宣	ガバナーエレクト	2690	蜂谷 泰祐	岡山西 RC 会長
2640	土屋 一博	ガバナー補佐	2700	河野 活	地区 RYLA 委員長
2640	橋本 竜也	地区青少年 RYLA 委員長	2700	川崎 和子	次年度地区 RYLA 委員長
2660	片山 勉	RIJYEM 副理事長	2710	中野 譲	次年度青少年奉仕委員長
2660	田原さおり	地区 RYLA 委員会 委員長	2720	三村 彰吾	ガバナーノミニー・デジグネート
2660	友田 昭	地区 RYLA 委員会 副委員長	2720	開 克行	青少年奉仕部門長
2660	栗村 卓家	地区 RYLA 委員会 副委員長	2720	井上 邦広	青少年奉仕副部門長
2660	池島 詠美	Team RYLA 代表	2740	相浦 封哉	地区 RYLA 委員長
2670	吉岡 宏美	ガバナーノミニー	2740	徳川 清隆	地区 RYLA 委員
2670	藤原 賢治	地区青少年奉仕委員長	2760	酒井 法丈	ガバナーノミニー
2670	米山 徹太	地区 RYLA 委員長	2760	長瀬輝代之	地区ロータリー奉仕副委員長
2670	前田 直俊	第 3 地域 EPNC/ 地区 RYLA 顧問	2770	星野晃一郎	RIJYEM 研修部門委員
2680	安平 和彦	パストガバナー	2780	清水 寿人	RYLA 委員長
2680	舟元美智子	次期青少年奉仕委員長	2780	神谷 一博	次年度 RYLA 副委員長
2690	伊藤 文利	パストガバナー	2790	鳴海 寿裕	地区 RYLA 委員長
2690	廣田 和幸	次期ガバナー補佐	2800	矢口 信哉	ガバナー
2690	高橋 哲夫	インターアクト地区委員長	2800	鈴木 一作	パストガバナー
2690	竹内ひとみ	鳥取西 RC 青少年奉仕委員長	2800	阿部 昭	地区青少年奉仕委員会委員長
2690	岩崎 陽一	地区ガバナー	2800	松岡 友路	地区 RYLA 小委員会委員長
2690	吉田 博	地区代表幹事	2800	遠藤 伸一	地区 RYLA 小委員会委員
2690	小林 一	青少年奉仕担当地区幹事	2800	枝松 祐子	地区 RYLA 小委員会委員
2690	田中 好洋	地区青少年奉仕委員長	2820	川上美智子	地区青少年奉仕委員長
2690	米村 年博	鳥取西 RC 会長	RIJYEM	近藤 眞道	RIJYEM アドバイザー /D2660
2690	庄司 尚史	パストガバナー	RIJYEM	津留 起夫	RIJYEM/D2790 危機管理委員長
2690	白根 侑哉	クラブ青少年奉仕委員長	RIJYEM	斉藤 睦美	RIJYEM 事務局

分科会

第1分科会 「RYLAって何？」

分科会統括・ファシリテーター 田中 賢一 RI第2680地区RYLA委員長

バズセッション ファシリテーター 1班：田中 賢一 (伊丹)
2班：清水 寿人 (相模原柴胡)
3班：石川 彌八郎 (東京福生)

第2分科会 「RYLAにおけるカウンセラーシステム」

分科会統括・ファシリテーター 安行 英文 RI第2680ガバナーノミニー

バズセッション ファシリテーター 1班：安行 英文 (三田)
2班：小林 雅美 (学友会)
3班：前田 隆則 (伊丹)

第3分科会 「これからのRYLAと危機管理」

分科会統括・ファシリテーター 黒田 建一 RIJYEM研修部門委員

バズセッション ファシリテーター 1班：黒田 建一 (西宮イブニング)
2班：山口 史朗 (札幌東)
3班：片山 勉 (大阪東)



第1分科会： RYLAって何？

ファシリテーター 田中 賢一 氏
(国際ロータリー (RI) 第2680地区RYLA委員長、伊丹RC)

1. ファシリテーターによる基調報告

本日の第1分科会への出席者の中には、まだRYLA（青少年指導者養成プログラム）を実施していない地区に所属しておられる方がありますし、昨日の講演でのRYLAに関する説明でまだ十分に理解ができていない人があるかも分かりません。また、COVID-19のパンデミックの下でRYLAの運営に苦労しておられる地区があると思います。このようなRYLAをめぐる色々な問題を、出席者の皆様と一緒に検討してみようというのが分科会のねらいです。

最初に、第2670地区と2680地区が合同で実施しているRYLAセミナーの実際を、10分間の動画にまとめていますので、ご紹介します。

< 動画によるRYLAセミナーの紹介 >

神戸YMCA余島野外活動センター（香川県小豆郡土庄町）での4日間のセミナー

動画によって第2670地区と2680地区が合同で実施しているRYLAセミナーの様子について、少し理解して頂けたものと思います。RYLAセミナーでもっとも大切にしているのは、故今井鎮雄先生が構想し、教えられた「受講生の自律」です。RYLAでは受講生を徹底して信じます。具体的には、今のRYLAセミナーでも部屋には鍵をかけませんし、議論はお酒を飲みながら行ってもかまいません。就寝時間も設けません。今井先生がセミナーを担当しておられた頃には、レクリエーションの内容は受講生が自分たちで決めていました。

今日配付した資料の2ページから、故深川純一先生が作成されたRYLA開催趣意書が掲載してあります。そこにはRYLAの基本構想について記されていて、RYLAの真髓に関わる深川先生の考えが著されています。第1の柱は、ライラリアンの

個人倫理の確立、わかりやすく言えば、汚れなき魂を持った人を育てることであると指摘されています。つまり、誰でもリーダーになれると言うことで、私たちRYLAスタッフもそのことを重視しています。エリートになるということではなく、人それぞれが各々置かれた場所で汚れなき魂を持って仕事を行ってもらえるようになってほしいという期待が込められています。開催趣意書の末尾には、「地域社会、国際社会に奉仕する青少年のリーダーを育成すること」が全国RYLAへの提言の趣旨であると記されています。深川先生が全国RYLAにおいて中核に据えて議論すべき事柄として強調しておられますので、紹介させて頂きました。

以上の点については、昨日の講演で三木明パストガバナーが紹介されました。また、黒田建一RIJYEM委員は、RYLAにおける今井先生のプログラムが思いつきで行われているわけではなく、カールロジャースのエンカウンターグループと言う心理学的手法によって実施されていることを紹介されました。黒田委員の講演の中では、重ねてファシリテーターという言葉が使われました。ファシリテーターとは、先ほどの動画の中に登場したカウンセラーのことです。黒田委員は、昨日このカウンセラーがどういう役割を果たすかについて、カールロジャースの文献等によって紹介されました。

以上が私からの報告です。それでは、これから分科会出席者に加わってもらい、ご質問やご意見を発表して頂くこととします。

2. 分科会参加者による意見交換

○井内 康輝 氏

(2710地区ガバナーノミニ一、広島南RC)

私が所属する地区でもRYLAの実施に向けて準備を進めています。RYLAの受講生をどのように募っておられるのかお尋ねします。ベースは、ローターアクト、インアークトのメンバーかと思いますが、動画をみると職業人と思われる方々が多数参加しておられます。

●ファシリテーター

第2680、2670地区では公募をせず、ロータリークラブやRYLA学友会を通じて受講生を募っています。内訳としては、ロータリアンが受講生を推薦するケースが最も多く、全体の6～7割を占めます。ロータリアンの会社の従業員や、知り合い、子息等ですね。そのほかにローターアクトのメンバーが1～2割あります。RYLAセミナーを卒業すると受講生はRYLA学友会に所属しますので、学友会も受講生募集に協力してくれて、1～2割の受講生を送ってくれています。色々な職業人がおられます。変わったところでは、落語家の方もおられました。

○鳴海 寿裕 氏

(2790地区RYLA委員長、千葉東RC)

先ほど自律、自由のお話がありました。受講生に対してどこまで自由にするのかについてお聞きします。当地区では、今年は1日でセミナーを行います。例年は1泊2日のセミナーとしていますが、受講生の内訳は社会人が40%、学生が60%で、学生については20歳以上の割合が高くなっています。このような受講生の構成となっている場合に、自由の枠をどのように考えれば良いのでしょうか。私たちの地区では、飲酒や喫煙は許可していません。

●ファシリテーター

研修時間については、プログラムに記載してあるのでそれを遵守するように伝えます。喫煙は自由ですが、その場所は特定し、限定します。お酒は、勧めはしませんが自由にしています。夕食や懇親会の場での飲酒について規制することはしていません。ですから、ときには酔っ払う人が出たりすることもあります。グループディスカッションの場所も指定しません。グループメンバーが話し合っ食堂や屋外等を自由に選択するようにしています。携帯端末についても自由に使用できるようにして、規制はしていません。

○阪本 龍太郎 氏

(2680地区RYLA学友会会長)

私は、第34回の余島でのRYLAセミナーに参加しました。先ほどお話にあったセミナーでの「自由」に関してお話をさせていただきます。私はお酒を全く飲みませんが、飲める環境にはありませんでした。飲まないからと言って、メンバーからお酒を強要されることはありませんでしたが、朝方、4時頃まで続いたディスカッションには参加しました。飲酒はしない代わりにたばこは吸います。余島は、周囲が2.5km程の小さな島ですが、喫煙できる場所は食堂前の1ヶ所に限られています。その喫煙所で別の班の人たちとコミュニケーションを取ったりすることができます。ちょっとした憩いの場になっていました。

○米林 真 氏

(2690地区ガバナー補佐、岡山北RC)

RYLAを行う場合、実施主体はどこになるのでしょうか。地区で実施する場合には、実行委員会のようなものを組織することになるのでしょうか。

●ファシリテーター

第2670と2680地区はRYLAを合同で実施していますので、特殊な事例になるのかも分かりませんが、説明させていただきます。両地区には、それぞれにRYLA委員会が設置されていて、双方の委員会が協力して開催準備にあたります。実行委員会を新しく設けるわけではありません。ロータリークラブからは、一定のメンバーがRYLA委員会に参加して活動を担います。組織的には、地区の青少年奉仕委員会の下にRYLA委員会が置かれる形になります。

○古志 勝俊

(2690地区次期ガバナー補佐、松江南RC)

RYLAセミナーで真の指導者を育成することですが、大切なのはセミナーを受けて取得したリーダーに関する知識を、実践の場で発揮させ

ることです。こうした観点から、RYLA終了後、受講生が実践経験を積んで再度研修を受けることがあるのでしょうか。

●ファシリテーター

まさにご指摘の点が問題になるところであって、今井先生も同様の課題を指摘しておられます。セミナーによる成果はそれぞれの受講生によって異なりますので、だからこそ今井先生はRYLA学友会の設置を考えられたわけです。卒業生の中心的な活動の場は、RYLA学友会となります。学友会では、会合の中で実践経験について互いに発表して交流する他に、講師の職場を訪問して共に学ぶ活動を行ったりしています。学友会の活動に対してロータリーが介入するようなことはできるだけせずに、学友会による独自の活動となるようにしています。その他、受講生にはスポンサークラブがついていますので、クラブの例会に出席して、ロータリーについて学ぶ機会を持つような活動を行っているところもあります。

○大道 龍治 氏

(2670地区RYLA学友会会長)

昨日の夕食会の交流の席でもお話しさせてもらったのですが、セミナーの成果を確認することは難しい問題です。ロータリー青少年奉仕に含まれるローターアクト、インターアクト、RYLA、米山奨学生の活動を終えた人は、国際ロータリーでは学友としてロータリーファミリーの一員となります。セミナー修了後には、通常は受講生として推薦を受けたホストクラブが開催する報告会に出席して、成果報告を必ず行うようにしています。可能であれば、その後もホストクラブから声かけをして頂き、ロータリー活動の場に同席させてもらいたいと考えています。そうすることにより、新しい受講生を確保し、学友会やロータリーファミリーのメンバーを増加させることにつなげることができないのではないのでしょうか。

○筒井 保太 氏

(2690地区ガバナー補佐、井原RC)

いくつか教えて頂きたいのですが、まず、第2670・2680地区合同のセミナーは毎回、余島で行われているのでしょうか。

●ファシリテーター

第41回までは毎回、余島で開催してきました。今井先生が自然環境と設備等の条件から判断して見つめられた場所です。ただし、今年、来週に予定しているRYLAについては、三密を避けてCOVID-19の安全対策に配慮する観点から、余島の研修施設ではなくホテルを会場にして開催する予定にしています。第2670地区の徳島県と2680地区の兵庫県でそれぞれ別のホテルを確保し、講義はWebを交えたハイブリッド方式によって共同開催しますが、対面で行う実習は別々に行うことにしています。宿泊は個室としていますし、グループディスカッションは別室を設けていますので、費用がかかりますね。

○筒井 保太 氏

(2690地区ガバナー補佐、井原RC)

セミナーの実施期間は3泊4日でしょうか。

●ファシリテーター

そうです。前回までと同様です。

○筒井 保太 氏

(2690地区ガバナー補佐、井原RC)

第2670・2680地区では地区として大きな規模でセミナーを実施しておられますが、クラブのような小さな単位で行うことは可能でしょうか。

○田原 さおり 氏

(2660地区RYLA委員長、東大阪東RC)

当地区では、1976年に隣の和歌山と共同で第1回のRYLAを開催しました。本年5月に第95回目のRYLAを無事に終えました。今年は2年ぶりに対面で開催しました。当地区には80のクラブ

があり、年2回、春は5月のゴールデンウィーク、秋はシルバーウィークの9～10月の時期に、2泊3日で開催するようにしています。主催者は地区ガバナー、主管をホストクラブとしています。ホストクラブはクラブ持ち回りとなっていますので、単純に計算すると40年に1回の割合で担当が回ってくるようになります。毎回のホストクラブによる活動を支えているのが地区RYLA委員会です。地区予算を確保して春と秋の年2回の開催に充てています。

ホストクラブを輪番制としていますので、RYLA委員会では毎回、開催を担当してくれるクラブを探します。開催クラブの決定は、実際に開催する3年くらい前になりますので、近づいてくると開催の再確認にてこずることもあります。

会場は、開催を担当するホストクラブの特長を發揮して、色々なところを利用しています。たとえば、地域おこしの観点から地域の特徴的な施設を使用したりします。今年は、大阪府の海洋センターでマリンプログラムを交えて開催しました。また、近くのキャンプ場を使ったり、例会会場のホテルを使ったり、色々なケースがあります。私は東大阪市の出身でして、そこには花園ラグビー場がありますので、その施設を使い地元のラグビーチームと協力してラグビークリニックをテーマにした研修を行いました。オリエンテーションとして地域の名勝地を巡回したりすることもあります。ホストクラブによって毎回テーマが工夫されて、異なる内容で開催しています。

最後に、質問があります。当地区では、受講生の年齢を18～30歳までとしています。しかしRIの方針では、インターアクトが対象者とする年齢は14歳以上となっていますので、いまガバナーからの要請で対象年齢を14歳まで引き下げること検討中です。そうすると、受講生の年齢階層が広がり、同時に、中学校や高等学校まで含めて多数の機関との調整が必要となるため、業務量が増えて難しい問題が生じることが懸念されます。もしも、RYLAの受講生としてインターアクトまで含めておられる地区があれば、受講生の年齢階

層の幅が大きくなりますので、リーダーシップ取得を目指した研修の成果を高めるためにどのような工夫をされているのか、プログラムの内容と実施状況についてご紹介頂けませんでしょうか。

そして、可能であればRYLA開催のための予算がどのように措置され、金額がどれくらいになっているのか教えていただけると有難く思います。

●ファシリテーター

ロータリークラブとしてRYLAを行っている所もあるのですね。大阪府では、チームRYLAの名称で卒業生がRYLAセミナーの実施に対して指導的な役割を努めているようです。

続いて、RYLAの予算について参加者の中にどなたかでお答え下さる方はおられませんでしょうか。

第2670・2680地区の状況を説明すると、COVID-19対策で例外的な対応となっている今年は別として、例年は受講生を派遣するクラブから受講生1人当たり5万円の協力金を集め、それ以外の部分を地区会計から拠出してもらっています。受講生数は、1地区から20名、2地区で合計40名となります。全体予算は、クラブから拠出を受けた受講生協力金の数倍になっています。余島で開催する場合には、今年のようにホテルを会場としないため、経費を抑制することができます。受講生の年齢は20歳以上としています。

○石川 彌八郎 氏

(2580地区ガバナーノミニージェグネート、東京福生RC)

先ほどからRYLAセミナーでのお酒の話が出ています。実は、私の家業が造り酒屋でして、それに関わって質問とお願いを一つずつさせていただきます。最初に、もしもRYLA開催時にお酒がOKと言うことであれば、自社で製造しているお酒を少しですが提供させて頂こうと思います。

次に、もしもお酒の提供が可能と言うことであれば、お願いしたいことがあります。実は、平成25年にアルコール健康対策基本法が制定されま

した。本法律の第1条には、目的として「この法律は、酒類が国民の生活に豊かさと潤いを与えるものであるとともに、酒類に関する伝統と文化が国民の生活に深く浸透している一方で、不適切な飲酒はアルコール健康障害の原因となり、アルコール健康障害は、本人の健康の問題であるのみならず、その家族への深刻な影響や重大な社会問題を生じさせる危険性が高いことに鑑み、アルコール健康障害対策に関し、基本理念を定め、及び国、地方公共団体等の責務を明らかにするとともに、アルコール健康障害対策の基本となる事項を定めること等により、アルコール健康障害対策を総合的かつ計画的に推進して、アルコール健康障害の発生、進行及び再発の防止を図り、あわせてアルコール健康障害を有する者等に対する支援の充実を図り、もって国民の健康を保護するとともに、安心して暮らすことのできる社会の実現に寄与することを目的とする」と記載されています。

具体的な健康対策としては、未成年飲酒の禁止、妊婦への障害対策、飲酒運転の禁止の3点が含まれます。そこでお願いですが、RYLAの受講生に未成年者が含まれる場合には、20歳未満の人には絶対にお酒を飲まないようにして下さいとのお願いをさせて頂きたいと思っております。

●ファシリテーター

未成年者に飲酒をさせるとロータリー活動に危機を招くこととなりますので、慎まなければなりません。お酒のご提供については、ご縁ですので交流する方向で検討させて頂きたいと思っております。なお、受講生の年齢を14歳以上として活動を行っている地区として、第2520、2640、2790地区等があることが紹介されていますので、必要があれば関係者に問い合わせして下さい。

第2680地区から参加者の皆様に質問をさせて頂きます。本地区では、コロナ禍中であってRYLAセミナーにZoomによるWeb会議システムを利用することについて検討した結果、対面にこだわることとし、ZoomによるRYLA開催は行わないことにしました。

本日配布した資料の3枚目に、事前に実施したアンケート調査の結果を示しています。コロナ禍中でRYLAを実施した地区とそうでない地区の数は、それぞれ12と同数になっています。実施した場合の内訳としては、全面的にZoomによるWeb会議方式としたのが6地区、対面3地区、両方を併用したハイブリッド方式が3地区となっています。全体としてはZoomを利用するケースが多くなっていますが、私からの質問は、全面的にZoomによるWeb会議方式とした場合に、意思疎通を円滑に行って問題なくセミナーを進めることができるかどうかという点です。

○森本 芳宣 氏

(2640地区ガバナーエレクト、和歌山北RC)

私たちの地区では、先日の4月29・30日、5月1日に2泊3日のRYLAを実施しました。参加者はすべて20歳以上でした。この2年間はコロナ禍により中止していましたので、久しぶりの開催となりました。先ほど話題になったお酒についてですが、数年前に酔っ払って風呂で倒れた人がありましたので、今年は飲酒を禁止としました。喫煙は、別の部屋にスペースを設けて可能としました。先ほどの予算については、金額ははっきり覚えていませんが、全額を地区予算で措置するようにしています。

○中目 公英 氏

(2530地区RYLA委員長、白河西RC)

私達の地区の2021-22年度のRYLA活動実績について、昨日の懇親会の席で紹介させて頂きました。本地区でも2年間、コロナ禍によりRYLAの開催ができませんでした。そこで、今年はなんとか開催したいとのガバナーの強い意向を受けて、当初は対面で実施予定であったものを、危機管理委員会からの指示により、Webでのオンライン方式に変更して実施しました。その成果報告書をこの度の全国大会に持参しましたのでご覧下さい。

講師には、対面を前提にして用意してもらって

いた教材を、オンライン方式に変更してもらいました。受講生は、Googleフォームを利用して講師との間で質疑応答、意見交換を行いました。Zoomは、ブレイクアウトルームの機能を使ってグループ討議を行いましたが、若い受講生にとってはあまり抵抗がなかったようです。最初は、Zoomでうまくコミュニケーションがとれるのか不安でした。しかしながら、話す人の動作がよく分からなくて少し時間がかかる所はありましたが、実際に使ってみてZoomでもグループ討議は十分に成り立つことが分かりました。

問題は、対面の場合に比べて一つ的话题を取り扱うのに時間がかかる点です。ですから、多くの内容を集中的に扱うのではなく、ディスカッションのテーマを限って使用すれば、対面と同様の成果を得ることができると思います。SNS慣れしている若い人にとっては、セミナーを中止にするよりはZoomを使って開催の方が望ましいと思います。Zoomによって、RYLAが目指すリーダーシップ養成の目的に対して、成果を生み出すことは十分に可能であると判断します。Zoomの使用に慎重な地区にあっては、試みに一度使ってみられたらいかがでしょうか。

●ファシリテーター

私たちの地区では、Zoomを利用した経験がないために、うまく人間関係を作ることができるか、不安を感じているところがあります。臆病になってZoomの使用を控えているわけですが、若い人たちはSNSの利用に慣れていますが、思い切って使ってみて経験してみるのも方策だと思いますね。

○阪本 龍太郎 氏 (前出)

私たちはキャビンタイムと呼んでいますが、RYLA学友会の中でZoomを使って情報交流を行っています。対面と違うのは、Zoomの場合には複数の論点を同時に扱うことが難しいことです。先ほどZoomでは討議に時間がかかることを指摘しておられました。対面の場合には、バズセッ

ションのように同じ会場で複数の班が同時に討議を行うことができます。そのため、隣の班で話合われている内容を聞いて、自班での討議の参考するようなことができますが、Zoomではそれできません。チャットなどを併用すればバズセッションに近いことが一定可能ですが、やはり限界はあります。それと、討議の内容がなかなか深まりにくいという特徴もあります。

●ファシリテーター

使って慣れるところがあって、私自身もZoomの利用に最近、少し慣れてきました。他にご発言があればお願いします。

○千馬 憲哉 氏

(2740地区パストガバナー、諫早北RC)

当地区でもRYLAを行っているのですが、やや形式的な対応になっているのではないかと感じる場合があります。地区には56クラブがあって年に1回、輪番制でRYLAの開催を担当しますので、一巡するのに長期間を要します。実施したプログラムの内容に照らして、RYLA開催の実績は残るのですが、参加した若い受講生に対してあまり多くの成果を残せていないのではないかと不安を覚えています。昼間に講演を聴き、夜にはキャンプファイアで楽しい経験をするわけですが、それだけで終わっているような気がします。

私は、余島の話聞いてびっくりしました。深川、今井両先生のリーダーシップによって始められたRYLAですが、そこではロータリーの精神を持った青少年リーダーを育成すると言う方針が中核に据えられています。大変重要な実践を行っておられます。1回のRYLAへの受講生は少数であっても、両先生の教えをきちんと伝えて残していく、その活動の継続が大切であると思います。

RYLAの開催が形式主義に陥らないようにすることが大事であると思います。RYLAの開催には相応の予算投入が必要になりますが、深川、今井両先生の活動が始まった第2670・2680地区で

はそれを支える財政基盤を持っておられます。一方、会員数があまり多くない地区では、十分な予算確保が難しい問題を抱えています。ロータリー精神に基づいて充実したRYLAの活動を継続するための方策についてお教え頂ければ幸いです。

●ファシリテーター

今のお話は大変重要な点であると思います。深川、今井先生はお亡くなりになっていますが、第2680地区では今でも両先生がお考えになっていたことを改めて問い直す機会がしばしばあります。昨日、黒田先生から少し難しい内容のお話がありましたが、それも両先生が考え追求しようとされた事柄を、黒田先生の方法で整理しようとする試みであると考えます。同様に昨日、三木パストガバナーからもプログラムを実施するだけのプログラムになっていないか、問い直してみる必要があるとのお話がありました。そのようにならないように、そして、ロータリーがRYLAを行うことの意味を考えるならば、RYLAの基本理念に立ち返ることが大切であると考えます。活動に参加する受講生やロータリアンとRYLAの基本理念を共有したいとの考えから、全国RYLA研究会の取り組みが始まりました。今回配布した深川純一先生によるRYLAの設立趣意書には、RYLAの真髓に関する考えが具体的に著されています。

RYLAの基本理念の捉え方にはいろいろあるかも分かりません。RYLAをただ実施するだけであれば、リーダー研修セミナーを外部機関に業務委託すればいいだけの話ですが、しかし、そうあってはなりません。RYLAの基本理念を学ぶ観点から、我々が手作りでRYLAの実践活動を継続することが重要であると考えます。

○井内 康輝 氏

(2710地区ガバナーノミニ一、広島南RC)

先ほど私の地区ではRYLAの実施を検討中と紹介しましたが、実は先輩達が以前からRYLAの活動を続けていました。ただ、コロナ禍でこの2年間は活動の休止を余儀なくされています。

私も活動に参加した経験があるのですが、今ほど2740地区の千馬パストガバナーがお話になったように、これで本当にリーダーを養成するプログラムになっているのだろうかという疑問に思うことがあります。1泊2日の日程で研修施設を利用してRYLAを行います、多少の講義とグループディスカッションを行う程度で、青少年リーダーを養成したという実感をロータリアンが本当に持っているのだろうかという疑問に思っていました。

そこでこの度、私はRYLAの本質についてもう一度学んでみようと考え、研究会に参加しました。先輩諸氏が築かれ、2680地区で続けられてきたRYLAをひな形にして、それを各地区でカスタマイズしても良いのでしょうか、学ぶべき点は何であるのか改めて考え直して、RYLAの実践に取り組むことが大切であると思います。先ほどZoomのお話がありましたが、Zoomで目的が果たせるのか、あるいは1泊もせず日帰りのセミナーで講演を聴いて帰るだけで本当に役割を果たしていけるのか、そのような問題について検討を深めることが大切であるように思います。

●ファシリテーター

分科会への参加者の皆様による意見交換を通じて、多くの事柄を学ぶことができました。チャットを使ってZoomの利用効果を高めるような話は、私はこれまで聞いたことがありませんでしたので、勉強になりました。本研究会に全国の各地から関係者が集まって意見交換することにより、地区内での活動だけでは得ることのできない貴重な成果を得ることができたのではないかと思います。本日の午後からは、分科会を小班編成したバスセッションによって意見交換と情報交換と継続し、学びを深めることにしていますので引き続きご参加下さい。分科会の進行にご協力を頂きありがとうございました。

第2分科会： RYLAにおけるカウンセラーシステム

ファシリテーター **安行 英文** 氏
(RI第2680ガバナーノミネー、三田RC)

本分科会では、RYLAにおけるカウンセラーシステムについて、最初にファシリテーターから基調報告を行い、その後に参加者の皆さんと意見交換を行います。

1. ファシリテーターによる基調報告

1) 青少年の指導者になる人は

RYLAに永らく係わっておられるロータリアンの中には、顕彰すべき人たちが沢山おられます。そのような人をできるだけ多く育てることがロータリーの役目であり、その活動を協力して継続することへの認識を高めることが大切です。青少年指導者養成にとってリーダーシップスキルが大事であることは言うまでもありません。RYLAセミナーでは、受講生の成長と変化に注目し、結果ではなくそのプロセスを大切にしたいと思えます。RYLAによって彼らに少しでも変化や成長が見られればそれで良いのです。

RYLAでは、研修のプロセスとして「信頼と変化」に着目します。受講生が周囲とどのように関わって信頼を得、それがどのように変化して行くか、そのプロセスを重視します。人との信頼関係を構築することは、我々にとって大変重要です。そこで、RYLAにおいて受講生がプログラムを通じその信頼関係をどのように獲得して行くのか、注視することが大切です。

RYLAで様々な実施されるグループワークには、治療的な側面と教育的な側面の両方があります。治療的な側面とは、様々な悩みの相談を受止めてあげること、教育的な側面とは、成長・発達を支援してあげてを指します。一般的に、元々の自分にカラーを付けるのが教育ですが、そうではなく元々のカラーに新たなカラーを補足する、つまり一つ足すと言う狙いを持つのがRYLAです。

プログラムを作成する場合に、注意を要するのがピークの「ズレ」です。グラフによって示すと、「への字」の波として表すことができます。プログラムに係わる進行時間を横軸、受講生のエネルギー・興味・疲労を縦軸にとると、エネルギー・興味・疲労のピークがプログラムの半ばを少し過ぎて、右にずれてから下がって行きます。受講生がプログラム実施中に、エネルギー・興味を維持し続けることは困難です。

RYLAのプログラムは、講習が終わってからも続きます。受講生を社会に送り返すところまでがプログラムであり、その自然の波に合わせたプログラムを考える必要があります。一緒にグループワークを行う人数に関しては、1グループ10～13人程度が適切です。

RYLAセミナーは対面によって行います。これは、状況を把握しながら受講生の成長を確認し、共に学ぶために採用している方法です。内容だけ伝わっても状況が伝わらなければ意味がありません。コロナ禍中でセミナーを実施しなければならない、我々に与えられた共通の課題です。

2) カウンセラーシステム

カウンセラーは、ロータリーの関係者で務めるようにしています。それは、RYLAのグループ研修を発展に導くプロセスを作っていく上で、ロータリアンが欠かせない存在であるからです。カウンセラーは、ロータリアンの立場に立たなければなりません。カウンセラーは、プログラムの促進者であり、状況の中に置かれた一人の存在です。カウンセラーは、受講生に対し、背中を少しだけ押ししたり、安心を与えたりする大切な役割を担います。

プログラムが進行する様々な場面で、ロータリアンであるカウンセラーがその中にいて存在感を示し、受講生に安心感を与えることによって、スムーズに研修が進んで行くように務めることが大切です。カウンセラーが受講者に寄り添って精神的な支援を行うことができれば、受講者の発言力を高めグループ活動を活気付けることができま

す。

カウンセリングは、見識あるロータリアンが行います。そのためにスーパーバイザーとしてのロータリアンの位置付けが大切であり、ロータリアンは指導者として常に研鑽していかなければなりません。カウンセラーの役割を担うロータリアンと、それを支えるロータリアンがいて、ロータリー全体でRYLAを支えているという共通認識を持つことが大切です。

倫理観、透明性、公平性について若い人たちに教えるためには、ロータリアン一人一人がそのための価値観と知見を持っておかなければなりません。プログラムの促進役としてのカウンセラー、見守り役としてのスーパーバイザー、どちらも常に研鑽していかなければなりません。

RYLAの受講生にとって、プログラムに参加する目的は一様ではありません。ロータリーの精神である奉仕について学ぶことよりも、むしろ、個人的ニーズの達成に重点を置く参加者もあります。また、主催者側が計画するプログラムも多様です。参加条件がオープンであったり限定的であったり、あるいは、研修テーマを特定課題に絞り込むこともあれば、柔軟に自由に課題設定を行ったりもします。RYLAプログラムには、治療的な側面や課題解決の側面があって揺れ動きません。

3) カウンセラーの認識

カウンセラーは、プログラムの進行を早めるために、話を打ち切ったりしてはなりません。時間がオーバーしても良いから受講生の気持ちをしっかりと聞くこと、見守ることが大切です。逆に、長い沈黙は受講生にとってカウンセラーの考えが解り難く、自らを評価されているように受け止められてしまう可能性があるため、注意しなければなりません。

ロータリアンが、RYLAや他の青少年プログラムと関わりを持つ場合、遵守したい基本的な事項があります。それは、人間関係を作るための解り合い・友達作りの場では、できるだけ受講生との対

等な立場を意識して対応することです。カウンセラーにおいても、受講生の先輩の立場で協力していると言う程度の、緩やかな関係を意識して役割にあたるのが良いと思います。カウンセラー役を務めることにより、楽しい経験をして欲しいのももちろんです。

プログラムを進行する際、一般に、開始当初には受講生が次のような3段階の否定的な心理状況を踏むことを理解しておく必要があります。最初に、何のためにここに来ているのか当惑する段階、次に、目的や同一性を模索する段階、第三に、少し引いた目で見える段階です。そして、プログラムが進行していくと、時間の経過と共に友達関係、親密性、相互信頼に繋がる三つの段階が生まれます。これらを合わせた6段階のプログラムを考えることが大切です。自由活発な発言が出だしたら自然にプロセスが動き出して、グループ活動は成功します。

カウンセラーの話し方については、「私はこう思います、私は・・・」と言う様に、自らの感じ方を伝えると威圧的にもならず効果的です。結果を求めるのではなく、プロセスを大切にしてください。受講生の積極性・自発性が課題解決に繋がり、彼らを成長に導きます。

4) 逆にやってはいけないこと

カウンセラーが頑張り過ぎると、受講生に対して知ったかぶりをしたり、規則を課してしまいがちになったりするため、注意が必要です。また、劇的な大げさな表現は、優劣感を与えることがあるので望ましくありません。自らの価値観を押しつけてグループに影響を与えることも、受講生の自発性を妨げることに繋がりがねないので注意が必要です。

カウンセラーの役割を務めるときに、守りたい4つの約束があります。

- ①全員に発言の機会を与えて下さい。軽い話題から入って下さい。
- ②不安と期待の両方を取り上げて下さい。大きな器で安心感を与えます。

③プロセスを作ってください。そこに至るまでの努力、それに携わっていない人達にも声を掛け、繋ぐことを心がけて下さい。少数派にも気を配ることが大切です。

④セミナーの終わりには、きちんと終了宣言をして下さい。セミナーが終了すると受講生は元の生活に戻りますが、プログラムの余韻を強く残して引っ張ると、日常生活に支障を来します。切替えを図って通常の社会生活に戻っていく彼らを、応援しフォローアップしていくように考えることが大切です。RYLA学友会はそのための大切な組織です。

5) 青少年プログラムに対して持つべき心構え

RYLAセミナーのカウンセラーには、「待つ・信じる・支える・励ます」「プロセスを大切に」心構えが必要です。ロータリー活動を通じて培った人間としての資質を活かし、それを伝えるためのカウンセラーシステムとしなければなりません。ロータリアンとして自ら手作りでプログラムに参加することが、若い受講生が抱える問題への答えにもなります。

日本のRYLAセミナーの方式は、国際ロータリーのRYLAに取り上げられ、更にアメリカ企業能力開発セミナーや指導力セミナーに繋がって行きました。それだけの価値を持つプログラムがここにあるのです。知っていると言うだけでなく、自らを、そしてプログラムを開発する努力を継続して下さいようお願い致します。

2. 分科会参加者による意見交換

○西方 洋昭 氏

(2510地区委員長、北海道岩見沢RC)

来週、第19回目のRYLAを開催致しますが、一番の悩みはカウンセラーを誰にやってもらうかです。久々の開催であるため、活字的には頭に入っているが実践経験が無い状態です。カウンセラーに相応しい人柄の人をどのように見つけ、育てれば良いのでしょうか。

●ファシリテーター

どの地区でもカウンセラー選びは大変で、持続的に開催していても毎回決まるのは最後になります。私の地区では、RYLA学友に担当してもらったり、ロータリアンのパートナーの方になって頂いたりしています。出来上がったカウンセラーではなく、プロセスの中で共に学び合う、一緒に泣き笑い、気持ちを共有できる人を送り込むようにします。その素質さえあれば、カウンセラーとしての役目を果たすことは十分に可能です。

○田名 毅 氏

(2580地区委員長、那覇東RC)

RYLAを立上げてから2年間、カウンセラーをさせて頂きました。寄り添う姿勢とロータリアンの資質があればカウンセラーとして役割を充分果たせると思います。カウンセラーに選ばれることは、ロータリアンにとって凄く貴重な機会であり、花であります。皆様も挙ってカウンセラーを希望して頂くと良いと思います。

●ファシリテーター

私の地区や沖縄では、男女2名のペアでカウンセラーを務めてもらうようにしています。女性ならではの提案の仕方もあります。

○栗村 卓家 氏

(2660地区副委員長、大阪西RC)

RYLAの受講対象者は30歳までとなっていますが、大人の場合だと資質形成がほぼ出来上がっているため、リーダーシップ養成には早い時期から取り組むプログラムが必要であると思います。質問ですが、RYLAにリピーターとして継続して来てもらうにはどうしたら良いのでしょうか。

●ファシリテーター

日本では、RYLAセミナーの実施期間が非常に短いのが特徴です。アメリカやヨーロッパでは、一般に2週間くらいの期間を設けていますし、中には1か月くらいの期間を設けて取り組んでいる



ところもあります。スウェーデンでは、小学校2年生くらいから偽情報を見つけるための訓練を行います。小さい時からの指導力養成を意識したプログラムです。日本でも14歳くらいから始めてゆっくり継続して行きたいのですが、この点は今後の課題です。

関連して、インターンシップを含め、どの段階からロータリーが関わるかという問題があります。私は、RYLAに対するロータリーの基本姿勢を再検討すべき時期にあるのではないかと考えています。ご質問を受け止め、今後、研究会の一つのテーマとして取り上げることを検討したいと思います。

第3分科会： これからのRYLAと危機管理

ファシリテーター 黒田 建一 氏
(RIJYEM研修部門委員、RI第2680地区西宮イブニングRC)

第3分科会のファシリテーターを務める黒田建一です。地区では危機管理委員長を務め、RIJYEMでも危機管理の役割を担当しています。よろしくお願いします。

最初に、本分科会のテーマに関係するRYLAにおける危機管理について概括的に説明を行い、その後に分科会参加者の皆さんによる意見交換を行うことにします。最近、青少年交換を端緒にして、国際ロータリーにおける危機管理のためのルールが厳しくなってきましたので、変更されている規則類を正しく理解しておくことが重要です。

お手元に配布したレジュメに沿って説明を進めさせていただきます。

1. RYLA危機管理概説

1) RYLAセミナー参加者の年齢とロータリー章典との関係

ロータリー章典には、「青少年の保護」に関する規定(2.120.1.～2.120.3.)があり、日本で18歳以上の成人を対象にしてRYLAセミナーを実施する場合でも、主としてこれらの規定が適用されることとなります。また、14歳から17歳までの未成年者を対象にして研修会を行う場合には2.120.1.～2.120.3.の外に、章典の41.060.に規定されている「ロータリー青少年交換」も参考にして対応することになると思います。

これらの規定では、青少年の年齢については明記されていません。未成年者を対象にして行う研修で問題が生じた場合には、章典にある青少年保護規定はそのまま適用されますが、成人の場合には、ハラスメントに関する26.120.の適用も検討する場合があります。

章典の2.120.2.には、青少年に対する虐待およびハラスメント、2.120.3.には、青少年の旅

行および宿泊に関する規定があります。RYLAでは1泊2日、あるいは3泊4日等の宿泊を伴う研修を行うことがあります。その際、とくに未成年を対象にして研修を行うような場合には、章典2.12.3.に記してある内容を良く理解しておくことが大切です。

2) RIの動向

最近のRIの動向として、危機管理のための対応を厳しくする方向で制度改正が進められています。たとえば、青少年交換においては、2022-23年度の7月から青少年交換事業を再開するうえで、詳細な危機管理計画を盛り込んだ新たなマニュアルを、今年度中に作成することが条件となっています。この点については、RIJYEMから地区に対して繰り返し連絡が行われていますので、関係の皆様には理解をしてもらっているところです。

危機管理において不祥事が生じた場合には、厳しい措置を講じるようにRIによって規則類の整備が進められています。たとえば、青少年の保護に関する章典2.120.2.「虐待およびハラスメントの防止手続き」については、2020年1月の改正により、青少年交換に準拠する方向性を打ち出して、とりわけペナルティが厳しいものとなっています。

青少年交換では、派遣・受入学生が親元を離れて1人で生活することになり、とくに18歳未満の未成年者が対象となっていますので、ハラスメントによる被害を受けやすい環境になりがちです。実際に、青少年奉仕活動においてハラスメントに関わるインシデントが最も多く発生しているのが青少年交換です。そのため、青少年に対する虐待やハラスメントがあった時には、加害者個人だけでなく加害者がロータリアンの場合、クラブがもみ消し行為等によって対応を誤れば、RIは当該クラブの終結(除名)を決定できるように規定が厳しく改正されました。

RIによる危機管理の厳正化を目指したこのような姿勢は、青少年交換以外の青少年奉仕活動の領

域にも広がってきています。たとえば、保険の問題についても青少年奉仕活動の全般を対象にして適用が義務づけられるようになってきました。こうした動きに対応して、先般、RIJYEMでもローターアクト向けの新しい保険を設けました。これは、ローターアクトが18歳以上の成人による活動であるとは言え、広く青少年に関わる活動であるところから、保険制度を整えておく必要があるとの判断によるものです。

RYLAの場合には既に賠償責任保険についても、RIJYEMによる保険制度（YPLI）があり、利用も進んでいます。宿泊研修は実施期間が総じて短く、また、保険加入が義務づけられていますので、危機管理に関わるトラブルは起こりにくい状況にあります。RIは、危機管理対策の一環として保険加入について強く指導していますので、全国の各地区で取り組みが進んできているところです。

章典の26.120.「会合、行事、または活動におけるハラスメントのない環境」（2019年10月改正）には、ハラスメント問題が発生し、それに対処する行動が的確に行われない場合には、前述した章典2.120.2の方針と同様に、厳しい措置が執られることが記載されています。この章典は改正によって年々内容が厳しくなっている状況にありますので、RYLAを始めとして青少年活動と関わりを持つロータリーの組織運営においても、注意しておくことが大切です。

3) COVID-19との関係

ここ数年続いているCOVID-19のパンデミックは、ロータリーの青少年奉仕活動に対しても大きな影響を及ぼしています。危機管理への影響要因としての疾病問題は、政治的紛争やテロなどと同様に、従来あまり強く意識されていなかった事柄です。最近5年、10年の間に、自然災害などと合わせて従来、認識レベルの低かったこれらの要因に基づく社会問題に対して対応が求められる事象が発生するようになり、私たちは危機管理について幅広く多くの経験をしてきています。

COVID-19のパンデミックは、私たちに危機意識の重要性を再認識させてくれています。RIは、新しい危機管理計画の策定を各地区に求めており、青少年交換の活動再開の実施要件としていますが、その理由はCOVID-19の影響によるところが大きいと理解されます。

4) RYLAセミナーの特徴

RYLAセミナーに関わる危機管理の特徴について整理しますと、次のような点を指摘することができます。

第一に、RYLAセミナーには旅行、宿泊を伴うケースが多いのが特徴です。旅行、宿泊に伴う危機の発生に対する備えが必要です。

第二に、RYLAセミナーへの参加者は、未成年（18歳未満を含む）や30歳以下の若年層が多い特徴があります。そのため監督者は、未成年や青年層の若者を対象にしてプログラムを実施していることについて、十分に理解しておく必要があります。

第三に、セミナーの内容は様々ですが、スポーツなど身体的活動を伴う場合には怪我への意識が必要ですし、宿泊を伴う場合には疾病やハラスメント等について充分意識しておく必要があります。

第四に、各地区では自らが主催するセミナーの性格に応じて、個別に対応を考慮しておく必要があります。RYLAセミナーには多様性があり、RYLA全般に対応する危機管理マニュアルを用意することは困難です。各地区で取り込まれるセミナーの性格に応じて危機管理対策を適切に準備することが求められます。マニュアルは、私たちが危機管理についてシミュレーションを通じて方策を検討するためには有用ですが、実際に発生した問題への対策を包括的かつ詳細に提起するものではないことを理解しておく必要があります。

以上がRYLAに関わって私が考える危機管理の特徴です。ロータリー活動全般に関わる危機管理については、さらに多くの説明が必要で長時間を要しますので、別の機会に委ねたいと思います。

2. 分科会参加者による意見交換

●ファシリテーター

本日の第3分科会には、会場とZoomを合わせて全国の16地区から参加者がいます。最初に、私の説明に対する質問をお受けすることとし、その後、各地区でのRYLA並びに青少年奉仕活動における危機管理対策の実情について、参加者の皆様からご説明を頂きたいと存じます。

1) ファシリテーター報告への質問・意見

○尾坂 明義 氏

(2690地区次期ガバナー補佐、岡山中央RC)

RYLA活動において想定している危機、ハラスメントの具体例について補足説明をお願いします。また、RYLA研修において受講生が怪我をするような事例は発生していませんか。

●ファシリテーター

RYLAに限定せず青少年奉仕活動全体に関わる傾向として、最も多いのがハラスメントです。青少年交換においてロータリアンが青少年に対してハラスメント行為を行うケースが多いようです。そうした場合には、RIJYEMが間に入って指導、調停にあたるようにしており、幸いにこれまで大きな裁判事例になるようなことは起きていません。ハラスメントについては、被害者に対して身体面と同時に精神面でのケアが必要になるケースが多く、慎重な対応が求められます。

RYLA研修中の怪我については、時折発生しています。私が所属する地区でも1～2年ごとに軽微な事故が発生しています。RYLAセミナーには医師が同行して、怪我等の事故が発生した場合には迅速な対応がとれるように措置をしています。希にですが、精神的な失調を抱える受講生がいて、研修中に異常な行動をとるようなケースがあります。そうした場合にも同行している医師に相談して判断を仰ぐことができるため、大変心強く感じます。

○片山 勉 氏

(RIJYEM副理事長、2660地区大阪東RC)

所属する大阪東RCで危機管理委員長を5年間務めています。このような異例とも言える長期の委員長就任となっているのは、2017年頃からRIが危機管理について厳しい指導方針を示すようになり、地区の危機管理活動に知識と経験が必要となっていることが影響しています。地区の危機管理委員会の人事については、継続性を意識した対応が求められる環境になっています。

また、RIの指導、及び私の経験から述べれば、地区でRYLAプログラムを実施する前には、危機管理委員会宛に実施計画書を提出する仕組みを作っておくことが大切です。COVID-19禍中でのRYLAセミナーの開催に対しても、中止またはWeb開催、あるいは、対面式で開催であれば抗原検査の実施を必須化するかどうかと言った対応について、実施主体と一緒に検討を深めることが可能です。

ロータリー活動においてハラスメント問題の発生が増加しています。以前は、ハラスメント問題が表に現れにくい環境がありましたが、最近は相談できる組織や機会が増えてきたこともあり、問題が表面化するケースが増加しています。そのため、地区においても問題への適切な対応力を備えることが課題になっています。ハラスメント問題については、クラブ単独での対処が困難な場合が多いため、私が所属する地区では危機管理委員会の中にハラスメント相談窓口を設けて対応を強化しています。ハラスメント問題への対処について、RIの規約を遵守することは条件ですが、何よりも国内法に準拠する必要があります。

●ファシリテーター

ハラスメント問題への対処については、指摘されたように章典などのRIの規約には従いますが、何よりも国内法を優先させることとなります。青少年交換をめぐる章典と日本の国内法との間には、とくにゼロ・トレランス（軽微な規律違反でも厳しく措置）の扱いについて違いが存在します。たとえば、ハラスメント問題が発生した場合の対

応として、国内法では処罰が決定するまでは被疑者の身分がそのままであることが多い様ですが、章典では問題発生の申し立てがあった段階で被疑者の身分について一端、役職から外すような措置を執ることになっています。危機管理委員会において、日本の国内法とRI章典との違いを理解しておく必要があります。

2) 危機管理委員会の活動状況

次に、RYLAと関わって危機管理委員会においてどのような対応を行っているかについて、地区の実情を紹介して頂くこととします。

○藤原 賢治 氏

(2670地区青少年奉仕員長、徳島プリンスRC)

2670と2680地区では、本年5月26～29日に会場は異なりますが、同一のプログラム内容でRYLAセミナーを開催します。安全・安心なセミナーとするため、とくにCOVID-19に対する安全対策に力を注いで準備を進めているところです。受講生と主催者のロータリアンを合わせた参加者全員に対して事前に参加承諾書に提出を求めて、2週間前からの自分の健康状態をよく把握したうえで参加してもらうこととしています。その際、コロナ対策としてのワクチン接種は参加条件とはしていません。

○北川 博隆 氏

(2680地区RYLA小委員会委員、川西RC)

2680地区で本年5月に実施予定の地区RYLA研修会では、新型コロナウイルス感染症の抗原検査キットを調達してCOVID-19への安全対策を強化する予定です。

●ファシリテーター

青少年交換事業を実施している地区には、必ず危機管理委員会が設置されています。当委員会の活動状況について紹介をお願いします。

○小林 一 氏

(2690地区青少年奉仕担当地区幹事、鳥取西RC)

2690地区でも今年度、RI及びRIJYEMの指導に従って青少年交換に関わる新しい危機管理マニュアルを作成し、規則類を改訂しました。青少年交換やRYLA等の青少年奉仕に関係するロータリアン向けにその内容を周知徹底しておくことが必要です。そこで当地区では、6月に地区危機管理委員会の新旧役員が一堂に会して新しい危機管理マニュアルについて勉強会を開催することにしています。新しいマニュアルでは、安全管理の一貫として保険の制度や手続きについて細かな規約が設けられているため、しっかり勉強しておかなければならないと認識しているところです。

○山口 史朗 氏

(2510地区青少年奉仕委員長、札幌東RC)

青少年交換については、RIやRIJYEMの方針に沿って危機管理委員会が適切に機能しており、RYLA活動を継続的に実施しています。今年度の地区RYLA研修会を来週に予定しており、COVID-19への安全対策に力を尽くすと同時に、傷害保険に加入したりして危機管理対策を講じています。

●ファシリテーター

私の経験では、危機管理委員会の活動を経年的に担うことにより、知り合いが増えて日常的に情報交換を行う機会ができています。危機管理委員会と関係の深い委員会との交流を強め、RYLAを含めた青少年奉仕活動を安全、円滑に進めるための危機管理情報の共有体制を作ることが大切です。

○開 克行 氏

(2720地区青少年奉仕部門長、熊本城東RC)

地区の青少年奉仕活動における危機管理の業務に約10年携わっています。危機管理委員会は、RIやRIJYEMの指導方針に沿って活動を進めてきており、現在はCOVID-19の安全対策に力を注いでいます。RYLA研修会は過去2年間開催できていないため、来週に予定している今年度の研修会は、オンライン方式になりそうですが、是非成功

させたいと準備を進めています。

○嶋村 文男 氏

(2580地区ガバナーエレクト、東江戸川IRC)

危機管理委員会の活動は、当地区では総体的にしっかりできていると評価しています。委員会活動を機動的にして相談機能を高めるために、若い女性委員を含めるような工夫をしています。新しい危機管理マニュアルに沿った活動を来月から実施することにしています。RYLA研修会は、COVID-19のパンデミックが発生してから2年間開催できていないので、健康チェックや抗原検査キット調達等の安全対策を万全にして、来年1月に沖縄県で開催する計画としています。

○土面 尋志 氏

(2760地区RYLA委員、豊橋西RC)

当地区では、RYLAセミナーを例年3月に開催しています。COVID-19のパンデミックによる影響から、2019-20年度は開催を中止しました。2020-21年度は、出席者の半分を対面、残りの半分をWebによる参加としてハイブリッド方式で実施しました。第30回目の節目となる今年の研修会は、COVID-19への安全対策をとって期間1日のWeb開催としました。セミナーへの出席者には傷害保険への加入を前提にしています。

●ファシリテーター

保険については、加入しようとする保険の種類や契約内容について良く理解して対応することが大切です。RIJYEMでは、この度ローターアクトに関する賠償責任保険を用意することができました。保険制度は内容が複雑で、適切に対処しないとエアポケットが生じる可能性がありますので、互いに経験交流をしておくことが大切です。出席者の中で、地区での取り組み状況について紹介して下さる方があればお願いします。

○藤原 賢治 氏 (前出)

2670及び2680の両地区では、地区RYLAセミ

ナーに関わって国内旅行保険に傷害保険を付加し、受講生とRYLA学友を対象にして3泊4日の宿泊研修への備えとしています。具体的には、セミナー出席のための旅行期間について、一人当たり1,200円の保険金を拠出しています。また、RYLAセミナー活動の一環で、今年これから実施を予定しているローターアクトによる海岸清掃行事に対して、保険加入を条件として安全対策を講じるように調整したところです。

保険加入について、当然ながらクラブが主催して行う通常の行事には、会員である保険業者等の支援を得てクラブが独自に対応します。地区が主体となってローターアクトやインターアクトの行事を行う時だけ、地区対応となります。その場合、保険加入は年単位で行うことが基本となります。加入する保険の種類や掛け金など、地区として検討しなければならない事項が存在しています。

●ファシリテーター

保険は多種存在するため、その保険がどのような事象に有効なのか、たとえば、国内だけでなく海外での活動に対しても有効なのかと言うように、内容をよく理解して対応することが大切です。RYLAに関わる私の経験でも、加入している保険が発生した事象に対して適応が困難であったり、極端な場合には、加入しているはずの保険に加入していなくて、受講生の怪我への対応ができなくて困ったりしたことがあります。

保険加入をめぐる、これまでに苦い経験をされたことがある地区について、事例紹介して頂けるところがありますか。

○片山 勉 氏 (前出)

私が所属する地区で経験した実例を紹介すると、インターアクトの海外研修に派遣した受講生が、香港でインフルエンザのため予定の飛行機に乗れませんでした。RIJYEMが扱う保険に加入していたのですが、香港がRIの決めた渡航可能地域に含まれていなかったため、適用対象となりませんでした。幸いに翌日の飛行機に乗ることができ

て大きなトラブルにはなりませんでしたが、このような経験を参考にして、当地区ではインターアクトや青少年交換の事業で若者を海外に派遣する際には、地区やクラブの青少年交換委員会に事前に相談するように指導することにしました。

私が所属するクラブでは、COVID-19についても色々な事例を踏まえて指導を行っています。たとえば、ロータリーソング「手に手つないで」を歌唱するときには手をつながない、RYLAでは体を密着させるような研修ゲームは採用しない、ハグはしない、密室での話はやめる、酒席は共にしない等の具体的な指導を行っています。こうした対応は、できれば地区内のすべてのクラブで採ってほしいと考えています。また、RIJYEMが勧めている人格権特約付損害賠償保険は、青少年指導プログラムに関わるロータリアンを守るために加入するものです。青少年交換やRYLA等の青少年奉仕活動における加害・被害の当事者を守るためには、クラブや本人による別途の保険対応が必要です。

●ファシリテーター

地区が加入している保険の中で最も多いのは青少年交換に関わるもので、実際に目的や役割の異なる多種の保険が利用されています。青少年交換委員会の担当者は、書類を見ればその保険がどのようなものかおおよそわかりますから、身近で保険に関する事柄について相談しようとする際には、まず当該委員会の担当者から始められたらいかがでしょうか。

先ほど片山さんからご紹介のあった、青少年プログラムに関する人格権特約付損害賠償保険(YPLI)は、日本では大阪で最初に取り組みが始まった保険ですが、現在では全国の地区で広く利用されるようになってきました。ロータリー青少年活動の分野では、RIによる指導が厳しくなっている状況にあり、保険は必須の存在となっています。日本のロータリー活動では、保険に対する考え方は欧米、とくに米国の水準にまで深まっていない状況と思われ、これからのロータリー活動

にとっては不可欠のものです。

他に保険に関わってご発言はありますでしょうか。

○白井 良夫 氏

(2680地区代表幹事、伊丹RC)

ロータリーの青少年奉仕活動に関わる保険について、RIJYEMから細かく指導を受けることが可能であると聞いていますが、お聞かせ下さい。

●ファシリテーター

ロータリーの青少年奉仕活動の分野で、従来から保険機能として最も弱かったのが、先ほどから紹介されているロータリアンを守るための人格権特約付損害賠償保険です。青少年奉仕活動において、ロータリアンが青少年に対してなんらかに過失によって被害を与え、被害者からの訴訟によって損賠賠償義務が確定したような場合、保険会社が損害賠償金を支払って、ロータリアンは免責の措置を受けることができる内容となっています。国内の34全地区の内の33地区が当該保険に加入しています。ただ、従来の制度ではローターアクターは保険適用の対象外となっていたため、この度、RIJYEMでは新たに保険適用の対象として扱うことができるように、変更して運用することとしました。

このように、RIJYEMでは青少年活動に関わる保険について、できるだけ穴のないように内容の充実を図っています。人格権特約付損害賠償保険については、法人格を持っていないければ保険加入ができない仕組みとなっているため、RIJYEMが法人格を持たない地区を代表して保険に加入することにしています。RIJYEMでは、連絡会を設置して地区におけるRYLAを含めた青少年奉仕活動、並びに保険に関わる問題について相談体制を構築していますので、積極的に活用して下さいませようご紹介いたします。

●ファシリテーター

時間が参りましたので、午前中の第3分科会の部はこれで閉会します。

第1分科会・参加者一覧

班	地区	所属クラブ	役職名	氏名	参加方法
第1班 (17名)	2530	須賀川	地区青少年奉仕委員長	大木 和彦	会場
	2660	東大阪東	地区 RYLA 委員会 委員長	田原さおり	会場
	2680	伊丹	地区 RYLA 委員長、実行委員	田中 賢一	会場
	2680	学友会	RYLA 学友会会長	阪本龍太郎	会場
	2690	出雲	ガバナー補佐	江角 彰宣	会場
	2690	松江南	次期ガバナー補佐	古志 勝俊	会場
	2690	松江しんじ湖	松江しんじ湖 RC 国際奉仕委員長	中村 寿男	会場
	2690	鳥取西	ホスト RC 実行委員	牧浦 康寛	会場
	2540	大曲	青少年奉仕委員長	加賀 美奈	Zoom
	2690	倉吉中央	ガバナー補佐	谷口 宗弘	Zoom
	2690	倉敷中央	倉敷中央 RC 幹事	楠戸登美夫	Zoom
	2700	久留米北	次年度地区 RYLA 委員長	川崎 和子	Zoom
	2710	徳山	次年度青少年奉仕委員長	中野 譲	Zoom
	2740	諫早北	パストガバナー	千葉 憲哉	Zoom
	2750	東京品川	ガバナーエレクト	富澤 為一	Zoom
	2800	山形イブニング	地区 RYLA 小委員会委員長	松岡 友路	Zoom
	RIJYEM	市原	RIJYEM/D2790 危機管理委員長	津留 起夫	会場
第2班 (18名)	2530	白河西	地区 RYLA 委員長	中目 公英	会場
	2660	八尾	地区 RYLA 委員会 副委員長	友田 昭	会場
	2680	神戸東灘	次期青少年奉仕委員長	舟元美智子	会場
	2690	益田西	ガバナー補佐	田儀 政司	会場
	2690	鳥取西	クラブ委員長、実行委員	米村 年博	会場
	2710	広島南	ガバナーノミニー	井内 康輝	会場
	2780	相模原柴胡	RYLA 委員長	清水 寿人	会場
	2510	札幌西	ガバナーエレクト	石丸修太郎	Zoom
	2580	東京四谷	次年度クラブ会長	辻 明信	Zoom
	2680	姫路	青少年奉仕委員長	三木 健義	Zoom
	2690	鳥取北	地区 RA 委員会委員長	塚田 隆	Zoom
	2690	倉吉東	次期ガバナー補佐	廣田 和幸	Zoom
	2690	井原	井原 RC 社会奉仕委員長	片山 浩二	Zoom
	2690	岡山	次年度ガバナー補佐	岡崎 邦泰	Zoom
	2690	岡山西	岡山西 RC 会長	蜂谷 泰祐	Zoom
	2710	防府	次年度 RYLA 実行委員長	西村 健治	Zoom
	2740	長崎西	地区 RYLA 委員	山田 吉盛	Zoom
2820	つくば学園	次年度地区 RYLA 委員長	今川 武彦	Zoom	
第3班 (16名)	2580	東京福生	ガバナーノミニーデジグネート	石川彌一郎	会場
	2640	和歌山北	ガバナーエレクト	森本 芳宣	会場
	2670	学友会	地区 RYLA 学友会会長	大通 龍治	会場
	2680	上郡佐用	RYLA 小委員会委員	池田 雅子	会場
	2690	鳥取	鳥取 RC 青少年奉仕委員長	竹内ひとみ	会場
	2690	井原	ガバナー補佐	筒井 保太	会場
	2690	岡山北	ガバナー補佐	米林 真	会場
	2780	湯河原	次年度 RYLA 副委員長	神谷 一博	会場
	2520	前沢	地区青少年奉仕委員会委員	三浦 滋	Zoom
	2690	岡山丸の内	現ガバナー補佐	古川 武志	Zoom
	2690	倉敷中央	倉敷中央 RC 会長エレクト	道明 道弘	Zoom
	2710	徳山	ガバナーエレクト	石川 良興	Zoom
	2720	日田	ガバナーノミニー	膳所 和彦	Zoom
	2740	長崎中央	地区 RYLA 委員	尾上 信哉	Zoom
	2750	東京三鷹	ガバナーノミニー	宮崎陽市郎	Zoom
	2760	名古屋守山	地区ロータリー奉仕副委員長	長瀬輝代之	Zoom

第2分科会・参加者一覧

班	地区	所属クラブ	役職名	氏名	参加方法
第1班 (13名)	2510	札幌幌南	RRFC(PG)	羽部 大仁	会場
	2580	那覇東	地区 RYLA 委員会副委員長	田名 毅	会場
	2670	学友会	RYLA 学友	長野 佑紀	会場
	2680	三田	ガバナーノミニー	安行 英文	会場
	2690	津山	地区ガバナーエレクト	友末 誠夫	会場
	2690	鳥取西	ホスト RC 実行委員	伊木 恭憲	会場
	2760	学友会	RYLA 学友	西尾 穂香	会場
	2680		RYLA 小委員会 委員	吉井久美子	Zoom
	2800	上山	地区 RYLA 小委員会委員	枝松 祐子	Zoom
	2530	福島中央	地区研修リーダー	芳賀 裕	Zoom
	2740	唐津	地区 RYLA 委員	徳川 清隆	Zoom
	2800	東根	ガバナー	矢口 信哉	Zoom
		RIJYEM	RIJYEM 事務局	斉藤 睦美	会場
	第2班 (12名)	2510	岩見沢	RYLA 委員長	西方 洋昭
2640		和歌山東南	ガバナー補佐	土屋 一博	会場
2660		大阪西	地区 RYLA 委員会 副委員長	栗村 卓家	会場
2680		学友会	RYLA 学友会代表幹事、実行委員	小林 雅美	会場
2690		鳥取	インターアクト地区委員長	高橋 哲夫	会場
2760		渥美	地区 RYLA 副委員長	福井 功	会場
2760		学友会	RYLA 学友	渡邊 真希	会場
2830		弘前西	パストガバナー	工藤 武重	会場
2540		大館南	PG/ 研修委員長	工藤 智教	Zoom
2770		大宮	RIJYEM 研修部門委員	星野晃一郎	Zoom
2800		寒河江	パストガバナー	鈴木 一作	Zoom
2830		十和田	パストガバナー	佐々木千佳子	Zoom
第3班 (12名)		2510	札幌幌南	次期 RYLA 委員長	斉藤 朋博
	2660	大阪帝塚山	Team RYLA 代表	池島 詠美	会場
	2680	伊丹	VTT 小委員会委員、実行委員	前田 隆則	会場
	2690	倉吉	パストガバナー	伊藤 文利	会場
	2690	松江しんじ湖	クラブ会長	幡 宏明	会場
	2690	鳥取西	鳥取西 RC 青少年奉仕委員	千馬 高広	会場
	2760	豊橋ゴールデン	地区 RYLA 委員	牧 岳大	会場
	2780	相模原橋本	RYLA 副委員長	原 幹朗	会場
	2530	喜多方	ガバナーエレクト	佐藤 正道	Zoom
	2720	大分キャピタル	青少年奉仕副部門長	井上 邦広	Zoom
	2800	寒河江	地区 RYLA 小委員会委員	遠藤 伸一	Zoom
	2820	つくば学園	地区 RYLA 委員長	高田 稔美	Zoom

第3分科会・参加者一覧

班	地区	所属クラブ	役職名	氏名	参加方法
第1班 (13名)	2510	恵庭	次期青少年奉仕委員長	西村 英晃	会場
	2640	富田林	地区青少年ライラ委員長	橋本 竜也	会場
	2670	松山	地区 RYLA 委員長	米山 徹太	会場
	2680	西宮イブニング	RIJYEM 研修委員、実行委員	黒田 建一	会場
	2690	鳥取西	青少年奉仕担当地区幹事、実行委員	小林 一	会場
	2740	多久	地区 RYLA 委員長	相浦 封哉	会場
	2830	弘前東	クラブ会長エレクト (次年度地区 RYLA 委員)	工藤 孝子	会場
	2520	北上	地区青少年奉仕 副委員長	小野 智哉	Zoom
	2550	宇都宮北	地区 RYLA 委員長	藤田 克彦	Zoom
	2660	吹田	地区 RYLA 委員会 委員	富永 明	Zoom
	2720	熊本城東	青少年奉仕部門長	開 克行	Zoom
	2830	八戸	ガバナーノミニー	築館 智大	Zoom
	RIJYEM	高槻西	RIJYEM アドバイザー /D2660	近藤 眞道	Zoom
	第2班 (13名)	2510	札幌東	青少年奉仕委員長	山口 史朗
2670		徳島	ガバナーノミニー	吉岡 宏美	会場
2670		坂出東	地区 RYLA 顧問、第3地域ポリオ根絶 コーディネーター	前田 直俊	会場
2690		益田西	パストガバナー	松本 祐二	会場
2690		出雲中央	パストガバナー	古瀬 俱之	会場
2690		鳥取西	ホスト RC 実行委員	児島 良	会場
2760		豊田西	地区 RYLA 委員	土面 尋志	会場
2550		足利わたらせ	地区 RYLA 委員	新井 敏之	Zoom
2580		那覇東	クラブ青少年奉仕委員長	渡慶次 薫	Zoom
2690		高梁	地区青少年奉仕委員会委員、クラブ青 少年奉仕委員長	松本 圭司	Zoom
2700		福岡城南	地区 RYLA 委員長	河野 活	Zoom
2720		大分キャピタル	RYLA 委員長	後藤 真吾	Zoom
2830		むつ	ガバナーエレクト	田中 常浩	Zoom
第3班 (12名)		2580	東江戸川	ガバナーエレクト	嶋村 文男
	2660	大阪東	RIJYEM 副理事長	片山 勉	会場
	2670	徳島プリンス	地区青少年奉仕委員長	藤原 賢治	会場
	2680	伊丹	ガバナー	吉岡 博忠	会場
	2690	松江しんじ湖	ガバナーノミニー、実行委員	石倉 貞昭	会場
	2690	鳥取西	青少年奉仕委員長	田中 好洋	会場
	2500	雄武	地区 RYLA 委員長	橋詰 啓史	Zoom
	2550	宇都宮北	地区青少年奉仕委員長	二十二 修	Zoom
	2690	岡山中央	次期ガバナー補佐	尾坂 明義	Zoom
	2720	熊本りんどう	ガバナーノミニー・デジグネート	三村 彰吾	Zoom
	2740	大村	地区 RYLA 委員	太田 陽子	Zoom
	2820	水戸好文	地区青少年奉仕委員長	川上美智子	Zoom

1. 第1分科会報告：「RYLA って何？」

田中 賢一 ファシリテーター

第1分科会では、最初に、昨日の特別講演と基調講演で紹介された、第2670地区と2680地区が合同で実施しているRYLAの活動について10分間の動画を見てもらい、参加者にRYLAに対する実感を持ってもらいました。その後、故深川純一先生がまとめられた全国RYLA研究会の開催趣意書によって、RYLAにとって不可欠なものは何であるかについて紹介してもらいました。そして、RYLAを行っている地区とそうでない地区とに分かれて意見交換を行いました。

両先生が第一に考えられたのは、受講生の自律についてです。受講生を信頼し彼らを前面に立てて、あるときはプログラムの内容を決めさせることもありました。設立趣意書には、ライラリアンにとって個人倫理の確立が不可欠であることが記されています。先生方は、汚れなき精神を持った人を育てる姿勢がなければRYLAセミナーではない、ロータリアンにとっても同様のことが言えると指摘しておられます。歴史的、世界的な考え方を持ったリーダーを育てることの重要性を強調しておられます。

今井・深川先生のお二人が考えられたRYLAセミナーの根幹となる部分を紹介してもらった上で、RYLAセミナーを実施しておられる地区からの出席者に対し、運営上の問題点や関連する質問を発表してもらいました。受講生募集や予算に関する問題、自律と係わるお酒の問題等について意見発表がありました。飲酒について、2680地区では20歳以上を条件としており、受講生の自主的な管理に委ねています。お酒を積極的に勧めているわけではありませんが、議論を円滑化するためにはある程度許容しても良いだろうという判断です。飲酒については、危機管理に係わる重要な問題を含んでいるため、いろいろな意見が出されました。

運営上の問題として、Zoomについて意見が出されました。2680地区では、Zoomを使って密接な人間関係を築くことは難しいとの判断から、RYLAセミナーは対面によって行うようにしています。しかし、分科会参加者の中にはZoomを使ってRYLAセミナーを実施した経験をお持ちの方がおり、使い方を工夫すれば対面に劣らない成果を挙げることができるとの意見発表がありました。セミナーでのZoom使用については、その可能性と効果的な利用方法について検討を深めていく必要があるようです。

そして、RYLAセミナー終了後、奉仕の実践にどのような効果が現れているかについて質問がありました。今井先生は、卒業生が集うRYLA学友会の設立を構想されました。この点については、昨日の三木先生の講演でも紹介があったところです。意見交換から、学友会を通じた奉仕活動、学友会企画による各種プログラムの実践、さらに、セミナー終了後のスポンサークラブによるフォローアップが大



切であることについて、実際の成果と課題が浮き彫りになりました。

また、RYLAセミナーは形式主義に陥っていないかとの意見が出されました。計画消化のセミナーのためのセミナーになっていないか、セミナーが掲げるリーダー養成の目的に本当に応えているのか、という問いかけです。このような意見に対し、ここで確認すべき重要な点は、まずは、全国RYLA研究会を通じて情報交換、意見交換を行って理解を深めることです。そして、RYLAをロータリーが行うことの意味、RYLAセミナーの本質は何かを明らかにして、研究会参加者がその価値観を共有することです。

以上が第1分科会の概要報告です。



2. 第2分科会報告：「RYLAにおけるカウンセラーシステム」

安行 英文 ファシリテーター

第2分科会では、全国RYLA研究会の意義を明確にするねらいで、最初に、映画の話をしてもらいました。

故人ですが、ポーランドの有名な映画監督にアンジェイ・ワイダ氏がおられます。彼は80歳の時に「カティンの森」の映画を制作しました。ドイツは、1934年にドイツ・ポーランド不可侵条約、1939年にドイツ・ソ連不可侵条約を締結しました。しかしながら、ドイツは1939年9月に締結した不可侵条約を破棄してポーランドに侵攻し、これが第二次世界大戦の発端となりました。ドイツがポーランドに侵攻した理由は、ポーランドに居住するドイツ人を守ることでした。現在ロシアによって引き起こされているウクライナ侵攻とよく似たところがありますね。

ドイツ・ソ連不可侵条約には秘密議定書が存在していて、両国はそれによってポーランドの東西から侵攻を開始しました。両国軍によって追われたポーランド人は東部のブク川で鉢合わせすることになり、映画はこの場面から始まっています。ソ連軍は侵攻した後、ポーランド兵を連行しました。その後、国境近くの元ソ連領のカティンの森で大量のポーランド軍将校が虐殺されていたことが判明します。映画はこのような史実に沿って展開していきます。

ポーランドにヴィスワヴァ・シンボルスカと言う詩人がおられます。『終わり始まり』の詩書を著した女性で、ノーベル文学賞を受賞しておられます。本書の中に「俺は何でも知っているから」という奢りについて記されています。奢りは、紛争の発生に繋がる要因とも共通するところがあります。紛争の発端には宗教やその他の明確な理由が存在しますが、紛争が続く中でその理由が次第に曖昧になり、やがて正義とは何かと言うことすらわからなくなってしまいます。知らないことを認識できていないために、そうした紛争が起きてしまうことをシンボルスカ氏は指摘し



ています。

この話題を全国RYLA研究会に転じて述べるならば、私たちはRYLAをよく知っているつもりでいても、実は知らないことがいっぱいあるのです。我々の2680地区では、RYLAについて活動実績を重ねてきていますが、しかし、研究して学んで研鑽を積まなければわからないことがたくさんあります。ポーランドのアンジェイ・ワイダ監督やヴィスワヴァ・シンボルスカ氏は、実はそのことの重要性を教えてくださいているのです。全国RYLA研究会が発展するためには、地区やクラブにおいていっそうの研鑽を積んで、RYLAが青少年のリーダー養成にとって大切なプログラムであることを実証していく必要があります。

そこで、こうした目標に沿って取り組みを進めるためにカウンセラーシステムはどうあれば良いかについて提案をさせて頂きました。大切なのは、プログラムの実行にロータリアンが積極的に関わることです。

実は、私は2680地区の第6回RYLAセミナーの受講生です。セミナーに参加して最初に思ったのは、なぜ自分かこうした場に居るのかということでした。しかし、寝食を共にする中で大人のロータリアンが受講生である私達に一生懸命尽くしてくれる姿を見ました。「君たちはいま何を考えているのか、君たちにできることを考えてみて下さい」と問いかけてくれたのが、プログラム協力者であるロータリアンでした。「素晴らしい人達がある、世の中捨てたものではない、ロータリーは素晴らしいところである」、そのことを実感した瞬間でした。青少年のリーダー養成に一生懸命に取り組んでくれる人達は、ロータリー以外には居ないことを確信しました。このような経験から私とRYLA、ロータリーとの関係が生まれ、現在に繋がっています。

私はいま2680地区のガバナーノミニーですが、決して役職に相応しい人間ではありません。しかし考えてみると、自律心を持って生活し、奉仕することの大切さを教えてくれたのはロータリーです。若い人たちのために夜も寝ずに若い受講生のために膝をつき合わせて話してくれたのがロータリアンとロータリアンの奥様でした。この経験が私にとって人生の大きな転機となりました。

そのときに故深川先生から与えられたのは、「奉仕とは何か」と言うテーマでした。そのように問われた私にとって最も関心の高かったのは、当時を生きることと直結するテーマであって、奉仕は二の次三の次のものでした。世の中に人のためになることを第一に考える人があることなど考えたこともありませんでした。人を育成することが奉仕であることを初めて考え、そのために多大な努力が必要であることを知ったことは衝撃でした。2680地区では、41回連続してきたRYLAセミナーがCOVID-19により中止を余儀なくされ、現在、第42回目の開催に向けて準備中です。以上が、2680地区で取り組んでいるRYLAセミナーの状況です。

カウンセラーシステムでは、ロータリアンがプログラムにどのように係わるかがポイントとなります。プ



プログラムの実施期間の長短に係わらず、プログラムを預かっていると、参加している受講生の疲れ方、エネルギー、心の持ち方は、時間軸に沿って「への字」を描いて高まり、期間の半ばを過ぎたあたりのピーク点から右側に向かって落ちて行くことに気付かされます。プログラムを教える人たちの心のありようも同様の動きをたどります。ですから、プログラムを作るときには「への字」を意識して考えることが大切です。最初の導入部分はゆっくりと進み、プログラムの半ばから右に少し離れたところにピークを形成するように研修計画を作成して欲しいとお伝えしました。

プログラム実施時のカウンセラーにとって、受講生に寄り添うことが最も大切な役割です。プログラムの進行中にはいろいろな場面が現れますが、カウンセラーはその場面に居る受講生に対して真摯に向き合うことが大切です。その姿勢が受講生の成長を促すことに繋がります。ですから、ロータリアンには、カウンセラーがこのような役割を効果的に果たすことができるよう、環境作りのお世話をすることが求められます。

ロータリアンには、RYLAセミナーが円滑に進行するように行程の全てに亘って支援することが求められています。そして、こうした役割を統括するのがスーパーバイザーです。受講生とともに喜びと感動を分かち合うことができるようなセミナーにすることがロータリアンの務めです。私たちが、他機関では扱えない独自のプログラムを実施していることの意味を理解することが大切です。

以上の報告を受けて、分科会出席者から「カウンセラーの役割は難しいので簡単に受けることができない」と言った質問や意見が出され、意見交換を行いました。



3. 第3分科会報告：「これからのRYLAと危機管理」

黒田 建一 ファシリテーター

第3分科会では、最初にファシリテーターの私から話題提供をさせて頂きました。

RYLAでは、青少年である若い人を対象にして活動を行います。本年4月の法律改正により、日本では18歳以上を成人として扱うように制度変更され、それによってRYLAの活動対象の性格が多少変わりましたので、その事項について紹介しました。

RIは最近、青少年活動に対して厳格な指導方針を採るようになってきています。ロータリー章典の中(2.120.)に「青少年の保護」に関する規定がありますが、その内容が最近5年間で厳格化されてきています。とくに、ペナルティに関する手続きや結果についてその傾向が顕著です。ケースによっては、ペナルティによってクラブがRIから終結(除名)され、存続ができなくなる可能性が生まれています。

RYLAでは宿泊を伴う研修機会が多いところから、ロータリー章典(2.120.、26.120.、41.060.)において、これに関連する危機管理情報について説明を行いました。危機管理と関わって重要なのは、

章典の「会合、行事、または活動におけるハラスメントのない環境」(26.120.)です。RIでは、以前は青少年奉仕活動を中心にハラスメント問題を考える傾向にありましたが、近年ではハラスメントは青少年奉仕に限らず、ロータリー活動に広く関わる事項として取り扱われるようになりました。基本的には、青少年奉仕と同様に手続きを定めてクラブ、地区、ゾーン、RIの4段階の構造を採って規定を設けています。青少年に対してハラスメント行為を行った人に対するペナルティばかりでなく、ハラスメント問題を起こしたクラブに対する除名の扱いまで含めて厳しい規定が設定されています。

次いで、危機管理とCOVID-19について説明を行いました。COVID-19のパンデミックによる影響は、RYLAを含むロータリー青少年奉仕活動の全般に及んで現れており、RIによってクラブに対して作成が求められている新しい危機管理計画においても、その影響が認められます。

ファシリテーターからの以上のような話題提供を行った後、全国各地区からの参加者による交流を行いました。ファシリテーターの説明に対する質問を受けてから、危機管理に関する地区での取り組み状況について説明を受け、意見交換を行いました。対面とWebによる分科会への参加者は、16地区から39名でした。

最初に、危機管理委員会の活動状況について取り扱いました。数地区から状況説明を受けましたが、その限りでも地区間にはかなりの差異があることが明らかになりました。危機管理委員会の活動をめぐる全国の状況を正確に把握するためには、別途、アンケート調査等を実施する必要がありますが、幸いに昨日、「全国RYLA連絡会」を設置して頂きましたので、これからはそうした取り組みが可能になるものと期待しています。地区において青少年交換を実施するには危機管理委員会の設置が不可欠で、RYLAの活動にとっても委員会の充実が重要であることを確認しました。

次に、RYLAの活動状況について取り扱いました。参加者による状況説明を通じて、コロナ禍中にありながら、安全対策に努力を傾注してRYLAセミナーの開催が取り組まれている様子が明らかになりました。セミナー参加に対してワクチン接種を義務づけている地区はありませんでしたが、会場での抗原検査の実施を検討している地区が複数ありました。また、安全対策に配慮して対面方式による開催をやめてWeb方式を採って開催している地域が複数紹介されました。RYLAセミナーの実施にあたり、地区では出席者に対する承諾書の提出、健康チェック、抗原検査、開催方式の調整等によりCOVID-19への安全対策が採られており、加えて保険加入等による危機管理への対策が講じられている状況を確認することができました。RYLAセミナーの充実と継続実施に向けた各地区での取り組み状況について説明を受け、経験交流できたことは大変有意義でした。

次いで、危機管理に関わる保険の問題について取り扱いました。青少年交換を実施している地区では、これまで保険について厳格に対応してきています。旅行保険に加え賠償責任保険に加入したりして、複数の保険を組み合わせることにより対策の充実が図られています。青少年交換を実施していない地



区に対してもRIJYEMから情報提供が行われているため、地区危機管理委員会が多くの情報を持つようになっていると捉えています。

最近5年ぐらいの間に保険対応の状況が変わってきています。損害賠償保険については、青少年交換だけではなく、広く青少年奉仕活動に関わって利用されるようになってきました。ロータリー青少年交換における人格権特約付損害賠償保険（YPLI）も、全国の地区で利用されるようになってきました。この度、ローターアクトがロータリークラブの仲間入りをするようになりましたので、RIJYEMではローターアクト向けの保険を準備したところです。

YPLIにどれぐらいの地区が加入しているかという質問がありました。全国34地区のうちの33地区が加入しています。こうした状況を反映して、保険に関して地区レベルでも多くの情報を収集して危機管理対策に結びつけるようになってきました。RIJYEMを含めて、今後とも各種の新しい保険商品が提供されるでしょうから、新設したRYLA連絡会等を通じて保険に関する情報交換や経験交流を行うことができれば効果的であると考えます。

第3分会では、以上のような内容について取り扱いました。全体として、危機管理の内容は多様性に富んでおり、従来はハラスメント問題を中心に取り扱うような傾向がありました。ところが、最近10年ぐらいの間に災害や、疾病、テロなどの新しい問題が生じて、取り扱う内容が幅広く複雑になってきました。RIが作成した青少年保護の手引書の中には、幅広い詳細な内容が記載されています。地区においては、これらの情報収集の機会を有効に活用して危機管理の対応を進めていかなければなりません。RIJYEMではそのためのお手伝いをさせていただきますので積極的にご活用下さい。



分科会を統括する 3 名のファシリテーターによって、分科会報告を踏まえバスセッション・テーマが次のように提示された。

1) 第 1 分科会：「RYLA って何？」 田中 賢一 ファシリテーター

① RYLA セミナーを通してロータリーは青少年に何を求めようとしているのか？

なお、事前には下記の候補テーマを準備した。

- ・ RYLA セミナーとはどんなものか？
- ・ RYLA セミナーに必要な不可欠なものは何か？
- ・ RYLA セミナーをどのように運営するか？運営上の問題はないか？特にズームを使用する場合に問題はないか？

2) 第 2 分科会：「RYLA におけるカウンセラーシステム」 安行 英文 ファシリテーター

① RYLA ではどのような人物像を創り出そうとしているのか？－ RYLA の価値観に基づいて－

3) 第 3 分科会：「これからの RYLA と危機管理」 黒田 建一 ファシリテーター

下記の中から自由に選択してテーマとする。

- ① 自地区では危機管理についてどのような体制をとっているか？その体制（特に危機管理委員会）は実際に機能しているか？
- ② 青少年交換以外の青少年活動において、危機管理問題は、それが重要であるという抽象的なレベルを越えてどの様に理解されているか？
- ③ 章典や青少年手引はどれ位知られ理解されているか？
- ④ ロータリー青少年活動における損害保険はどの様なシステムとなっているか認識されているか？
- ⑤ いくつかの点について認識や理解が充分でないとすれば、今後どうすればよいと考えるか？

バズセッションは、三つの分科会のファシリテーターによって提示されたテーマに沿って、分科会出席者をそれぞれ3班に編制して実施した。バズセッションの結果については、「分科会発表に基づくフォーラム」の前半部分で、各班のファシリテーター担当者によって概要報告が行われた。本書の「分科会発表に基づくフォーラム」「バズセッションの概要報告」の部分を参照されたい。本来であれば、バズセッション全体を文章化して取りまとめる必要があるが、紙面容量が大きくなるため、概要報告にとどめることをご寛容願いたい。

バズセッションのファシリテーターを務めて頂いたのは、下記の方々である。

なお、第1分科会・第2班のバズセッションに参加された舟元美智子氏（2680 地区次期青少年奉仕委員長、神戸東灘 RC）により、ICレコーダーから文章化して詳細な原稿取りまとめを行って頂いた。バズセッションにおける班活動の状況を示す具体例として、当該班に限定して結果を掲載することとする。舟元氏のご協力に対し、記して感謝申し上げます。

<バズセッションのファシリテーターをお務め頂いた方々>

第1分科会

- 第1班 田原 さおり 氏（2660 地区 RYLA 委員長、伊丹 RC）
- 第2班 清水 寿人 氏（2780 地区 RYLA 委員長、相模原柴胡 RC）
- 第3班 石川 彌八郎 氏（2580 地区ガバナーノミニーデジグネート、東京福生 RC）

第2分科会

- 第1班 安行 英文 氏（2680 ガバナーノミニー、三田 RC）
- 第2班 小林 雅美 氏（2680 地区 RYLA 学友会代表幹事、学友会）
- 第3班 前田 隆則 氏（2680 地区職業研修チーム小委員会委員、伊丹 RC）

第3分科会

- 第1班 黒田 建一 氏（RIJYEM 研修部門委員、2680 地区西宮イブニング RC）
- 第2班 山口 史朗 氏（2510 青少年奉仕委員長、札幌東 RC）
- 第3班 藤原 賢治 氏（2670 地区青少年奉仕委員長、徳島プリンス RC）



＜第1分科会第2班 バズセッションの内容＞

ファシリテーター **清水 寿人** 氏

(2780地区RYLA委員長、相模原柴胡RC)

○清水 寿人 氏 (ファシリテーター)

2年前より2780地区のRYLA委員長を仰せつかっています。今日は勉強させて頂くつもりで参加させて頂きました。どうぞ、よろしくお願い致します。なお、当地区では、20年位RYLAを行っていません。

先ずは、自己紹介、RYLAの状況・実情についてお話し下さい。

○井内 康輝 氏

(2710地区ガバナーノミニ一、広島南RC)

当地区では、過去3年間(2019-20、2020-21、2021-22)、RYLAセミナーは中止されてきました。ガバナーノミニ一の役割として、2022-23年度からRYLAセミナーを復活させる予定にしており、全国のRYLAの情報を得るために参加しました。

○中目 公英 氏

(2530地区RYLA委員長、白河西RC)

2021-2022年度、地区の青少年奉仕委員会のRYLA委員長を努めています。新型コロナウイルス感染症により過去2年間、地区のRYLA研修会は感染拡大防止の観点から中止となりました。今年度は、3年連続の開催中止は何としても避けてもらいたいとのガバナーからの要請で、Zoomに

よるオンライン方式で半日研修として実施しました。

○米村 年博 氏

(2690地区大会実行委員・ホストクラブ会長、鳥取西RC)

当地区では、15年位RYLAは行っていません。

○友田 昭 氏

(2660地区RYLA委員会副委員長、八尾RC)

私は、大阪府南東部にある2660地区八尾RCの友田昭です。よろしくお願い致します。

○舟元 美智子 氏

(2680地区次年度青少年奉仕委員長、神戸東灘RC)

本日は記録係をさせて頂きまますので、よろしくお願い申し上げます。

○田儀 政司 氏

(2690地区ガバナー補佐、益田西RC)

私自身、長期間に亘りロータリー財団関係の地区補助金小委員会に所属していましたが、RYLAに係わったことがありません。加えて、地区でどのような活動をしてきたのか知識を持っていませんので、RYLAの勉強をさせて頂くつもりで参加しています。

●ファシリテーター

午前中の第1分科会「RYLAって何？」という話を聞かせてもらいました。この分科会の皆さん



は、15年とか20年間RYLAを行っていないなど、あまり経験のない方ばかりのようです。2680地区の統括責任者・田中賢一ファシリテーターから「RYLAセミナーを通して、ロータリーは何を青少年に求めようとしているのか」というお題が出ました。

皆さんの地区でこれまでどのようなRYLAの活動をされ、皆さんがどのような考えでRYLAに参加して来られたのかお話し下さい。

○井内 康輝 氏 (前出)

2710地区での2011-12年度からのRYLA資料を手元に持っています。この10年間、ガバナーの依頼によりクラブ単独、あるいは複数クラブの合同で1泊2日のセミナーを提供してきました。宿泊地は名勝地が多くなっています。青少年に求めているものが何かは、明確とは言えないのが実情です。目標が明確ではないため、参加者募集もうまくいっていないと感じています。

○中目 公英 氏 (前出)

2530地区では、地区全体で1泊2日によりRYLA研修会を実施してきました。RYLAは、青少年たちが地域の未来を切り開くリーダーシップを身に付けられるように、短期集中研修会として実施しています。

○米村 年博 氏 (前出)

5・6年位前まで、ロータリーメンバーの会社の社員1ないし2名が1泊2日でRYLAセミナー

に参加していましたが、今では派遣する社員もいなくなっていると個人的に思っています。私が所属するクラブには、鳥取青年会議所で揉まれた会員が一定数あり、異業種交流を経験している人が多いのが特徴です。

○友田 昭 氏 (前出)

当地区では、春と秋2回RYLAセミナーを開催しています。先日5月3日から5日の2泊3日で、春のRYLAセミナーを開催しましたので、その事業についてご紹介します。テーマは「気づきから起こす行動力」で、会場は大阪府立青少年センター、参加対象は各クラブの推薦による18歳から30歳までの一般男女、及びローターアクト、財団奨学生、米山奨学生、ROTEX、ロータリアンの子弟、従業員などで、50名が参加しました。研修内容はワークショップ、グループワーク、マリンプログラム、基調講演でした。

○舟元 美智子 氏 (前出)

2680地区は、2670地区と合同で余島にてRYLAセミナーを開催してきました。COVID-19の感染拡大により、約2年間中止していましたが、今年は5月26から29日の期間、3泊4日で神戸ポートピアホテルにおいて、当地区単独のRYLAセミナーを行います。

●ファシリテーター

RYLAの主催はクラブですか、地区ですか、グループですか。輪番制などで行っていますか。



○井内 康輝 氏 (前出)

2710 地区では、地区としての主催で、ガバナーからのホストクラブの指名をへて、実行委員長のもとで実施しています。

○中目 公英 氏 (前出)

2530地区では、地区単位で地区青少年奉仕委員会のRYLA委員会が中心となって企画立案し、地区内の全クラブから研修生を募集して実施しています。地区の青少年奉仕委員会のRYLA委員会が指導力を持っています。

○米村 年博 氏 (前出)

地区で行っています。

○友田 昭 氏 (前出)

ホストクラブで行っています。大きなクラブは会員が200名ほどいます。小さいクラブは20名ほどですが、輪番制で夫々が工夫して地区が指導しています。

○舟元 美智子 氏 (前出)

当地区は、通常は2670地区と合同で、地区RYLA委員会が中心となって開催しています。

●ファシリテーター

Zoom参加の皆さんは如何ですか。

○三木 健義 氏

(2680地区青少年奉仕委員長、姫路RC)

舟元さんと同じで、2680地区は地区RYLA委員会の指導で開催しています。

○辻 明信 氏

(2580地区次年度クラブ会長、東京四谷RC)

RYLAについて一切知らないなので、勉強させて頂きます。

○西村 健治 氏

(2710地区次年度RYLA委員長、防府RC)

当地区では、3年ぶりに次年度に開催することになっています。3クラブ合同で開催する予定で、ガバナーやガバナー補佐と協議しながら準備を進めています。4年前の経験者が少なくなり、持ち回り開催の担当クラブが30年待ちでは委員会がぼけてしまうように思います。担当者が使命感で特色のある案を練っているところです。

●ファシリテーター

私は入会して20年ですが、入会した時にRYLAがなくなりました。地区の青少年交換、インターアクト (IA)、ロータリーアクト (RA) の委員長を15年間努め、RYLA委員長にもなりました。RYLAを勉強してみて、青少年交換、IA、RAと似ていると思いました。何故RYLAを実施しなければならないのか考えましたが、ガバナーから全国34地区のうちRYLAを行っていない4地区に入っているとされました。

ロータリーの大きなテーマですが、何故RYLAは行わないといけないのか。テーマ、内容はどの



ようにして決めていますか。

○井内 康輝 氏 (前出)

文章上には目的が明確に書いてありますが、プログラムとマッチしているか、指導しているファシリテーターとの考えが一致しているか、といった点がはっきりしません。青少年奉仕といえば、IA、RA、青少年交換とRYLAも一緒だと言えばそうですけれども。RYLAは、地域社会の中でリーダーシップをとってもらえるような青少年の育成を目指しています。青少年交換は、国際親善や青少年の知識を豊かにすることを目指しています。

目的、理念を学習して揉まれてプログラムを作り、ファシリテーターを決め、RYLA委員会で行動内容をうまく組み立てるように決めて、RYLAを行っていくことが大事だと思います。要するに、RYLAは青少年交換などと異なり、青少年のリーダー育成という意図があると思いますが、その意図とプログラムの内容が一致しているのかが疑問です。

○中目 公英 氏 (前出)

青少年交換、IA、RAをクラブで提唱すればずっと関わりをもつことになります。青少年交換は、交換生を1年間派遣し、同時に相手国から受け入れを行います。そのため、クラブが単独で実施するにはハードルの高い事業と言えます。RYLAは実施期間が短期間集中で、多くても3泊4日、国際ロータリーでも3から10日ですから、プログラムとしては実行しやすいと思います。

ロータリーは、青少年に関心を持ち、青少年の活動を褒め、更なるリーダーシップを発揮できるよう、共に研鑽を積むことを目的としています。2530地区では、RYLA委員会で検討を重ね、その時々で社会情勢で関心が寄せられていることについて、青少年としてどのように向き合うかをテーマにするようにしています。地区RYLA委員会のメンバーは少人数ですので、研修会の運営には青少年奉仕委員会に属するIAやRA、青少年交換委員会のメンバー、並びに、RYLA学友に手助けしてもらい、RYLA研修会を実施しています。今年度は、ローターアクターに大活躍してもらいました。

○米村 年博 氏 (前出)

2690地区で15年ぶりにRYLA行うのかどうか分かりません。単独のクラブでは開催が難しいので、地区で考えてもらいたいと思っています。

○友田 昭 氏 (前出)

2660地区では、次年度のRYLAセミナーを今年の9月23・24・25日の3日間、私が所属する八尾RCがホストクラブとなって開催します。地区RYLA委員会において、1年前から規範、目的に沿ってテーマや募集要項等の実施計画を作り、ホストクラブでは実行委員会を組織して計画を承認し、実施要項に沿ってポスターやチラシを作成します。開催する時期や場所、施設等の詳細については、ホストクラブに一任しています。セミナー実施期間は2泊3日としており、予算計画はホス



トクラブに任せています。受講者は、ロータリーファミリー、米山奨学生、ロータリアンの社員で、各クラブから10名ほど推薦してもらいました。

○舟元 美智子 氏 (前出)

RYLAは、本来テーマは無くても良いものですが、2680地区では講演や受講生募集のために1年前から考えます。因みに、今年の第42回RYLAセミナーのテーマは「価値観～何を大切に生きるか～」です。1年前より開催場所や講師、プログラム、危機管理問題、ディーン、募集要項、チラシ等について、地区RYLA委員会、RYLA学友会、危機管理委員会と相談して企画をしています。

●ファシリテーター

RYLAセミナーの遣り方、予算についてはどうですか。何でもお話し下さい。

○井内 康輝 氏 (前出)

2710地区では、次年度に3年ぶりの開催を計画しています。RYLA担当クラブは輪番制ですので、30年おきに回ってくることとなります。そのときには、事前にガバナーやガバナー補佐と協議を行って計画を練り、地区委嘱の使命感をもって開催にあたることとなります。

○中目 公英 氏 (前出)

地区のRYLA研修会は、1泊2日間の短期で実施しています。講師を2～3名招聘してお話を頂き、その後研修生たちがグループディスカッションをします。予算は、地区のRYLA委員会からの資金と、研修生を派遣する各クラブからの参加費とで、凡そ百万円以内で実施しています。

○友田 昭 氏 (前出)

2660地区は、クラブ輪番制で春秋2回開催しています。2、3年前にホストクラブが決まり、ホストクラブから地区委員を選出してRYLAセミナーの準備をすることになっています。ホストクラブでは、1年前に実施要項を策定し、地区

RYLA委員会と協力して開催準備を進めます。財源は地区予算と参加登録料で賄います。

○田儀 政司 氏 (前出)

2690地区では、以前に「オーソリティーとリーダーシップ」をテーマに取り上げ、ディスカッションしたことがあることをお聞きしています。ロータリークラブの目指すリーダーシップを明確にする方法として、オーソリティーとリーダーシップを比較対照させてディスカッションするのは、とても理解しやすいテーマ設定であったかと思いません。

●ファシリテーター

ライラリアンでロータリアンになった人はいますか。

○井内 康輝 氏 (前出)

2710地区ではそのような例は聞いたことはありません。

○中目 公英 氏 (前出)

過去の研修生をきちんとフォローしていないのではっきりとは申せませんが、数名はロータリアンになった方もいます。

○友田 昭 氏 (前出)

はい。私はローターアクトに入会していて、その時RYLAセミナーを受けました。

○舟元 美智子 氏 (前出)

当地区の安行英文ガバナーノミニエ（第2分科会統括責任者）は、ライラリアンです。

●ファシリテーター

RYLAでのアルコールに関してお話し下さい。

○井内 康輝 氏 (前出)

これまでのRYLAでアルコールを出したことはないと思います。個人的にもアルコールは必要

ないと思います。

○中目 公英 氏 (前出)

2530地区のRYLA研修会では、研修生もロータリアンにも禁酒をお願いしています。

○友田 昭 氏 (前出)

参加対象が18歳からなのでアルコールは出していません。

○舟元 美智子 氏 (前出)

当地区では、募集する研修生は20歳以上となっており、飲酒はロータリアンも含めて自由選択となっています。

●ファシリテーター

RYLAについて何でも自由に発言して下さい。

○井内 康輝 氏 (前出)

全国 RYLA 研究会への提言 (深川純一氏) を読んで リーダーシップに関してまとまった話をしてもらえ、講演と、グループワークとしてリーダーシップをテーマに話し合うことが必要と思います。いきなり地域社会、国際社会に貢献するリーダーシップについて語り合うことは難しいため、青少年にとって身近な話題から徐々に進めていくのがよいと思います。

○中目 公英 氏 (前出)

リーダーシップとは指導力です。何をどうやって指導するかは、人それぞれの考え方によります。RYLAに参加するような若い人たちは地域で目立っている人です。人間として大成したような大人が求めるようなリーダーシップを若者に求めている訳ではなく、学級で仲間を引っ張っていくのも、その年代のリーダーシップです。若者らしいリーダーシップを褒めたたえてRYLAの研修機会を与え、リーダーシップに磨きをかけてあげるだけでRYLAの目的は達していると思います。RYLAは、青少年の研修生ばかりでなく、ロータリアン

自身のリーダーシップを研鑽することにも大いに寄与していると言えます。

○友田 昭 氏 (前出)

5月に実施したときのテーマは「リーダーシップについて」でした。当日、模造紙を渡し、各班に分かれて一人一人が思っていることを10分間の中で発表してもらったプログラムでした。私が5年前に参加した折は、別れを惜しむほど感動しました。

○舟元 美智子 氏 (前出)

RYLAセミナーを一度もリアルで体験していませんので、次回、余島でのリアル体験談を皆様にご報告できたらと思います。

●ファシリテーター

本日は、Zoomを含めてバズセッションにご参加頂きありがとうございました。これが何かのきっかけになって、皆様のRYLAセミナーが円滑に、また盛大に行われることを願ひまして、閉会とさせていただきます。

分科会発表に基づくフォーラム

ファシリテーター **安行 英文** 氏 (前出)

フォーラムの開始に先立って、三つの分科会で実施されたバズセッションにおいてどのような内容が話し合われたのか、各班のファシリテーターから簡単に紹介をお願いします。

1. バズセッションの概要報告

1) 第1分科会：「RYLAセミナーを通してロータリーは青少年に何を求めようとしているのか？」

(1) 第1班 **田原 さおり** 氏

(2660地区RYLA委員長、伊丹RC)

「RYLAセミナーを通してロータリーは青少年に何を求めようとしているのか」のテーマで意見交換を行いました。地域で貢献できる人材の育成、仕事に対するリーダーシップ、ロータリーが目指す奉仕の理想、RYLAは各地区で様々な取り組みがされていて、目的や課題に少しずつ違いがあるので一つに絞るのは難しい、と言った多くの意見が出されました。最後に、他人を思い他人に尽くす、RYLAの真髄を目指して活動する受講生同士の出会いの場とし、奉仕の心を芽生えさせてもらうことが最も大切なことであろう、とまとめを行いました。ロータリアンは、そうした目標を持って参集した受講生が、セミナーを出会いの場とすることができるように支援する役割を担っていることを共に確認しました。

(2) 第2班 **清水 寿人** 氏

(2780地区RYLA委員長、相模原柴胡RC)

与えられたのは難しいテーマですが、参加者の協力を得て討議を進めることができました。最後に、「地域社会、国際社会に奉仕する青少年のリーダーを育成することがRYLAの主旨である」と提言された深川先生の教えに学び、その理想に向かって進んでいくことが大切であるとまとめを行いました。

(3) 第3班 **石川 彌八郎** 氏

(2580地区ガバナーノミニーデジグネート、東京福生RC)

テーマに関わって、そもそもロータリーの精神である「奉仕の理想」に依るならば、活動に対して何かを求めるかではなく、何をするか、信ずると言う観点が大切です。とは言え、現在の若者は学校で勉強ができ、知識を豊富に持っているけれども、自分で考えて決定し行動する能力が総じて弱いので、RYLAでは青少年が自ら考え決定して行動し、世の中のためになる人としての成長を目指すことが大切であるとの指摘がありました。他方、今の若者をそのように一面的に捉えることには問題があるとの指摘がありました。また、私たちロータリアンは若者と接触する機会があまり多くないので、RYLAを通じた若者との出会いを大切にすべきであるとの指摘もありました。班全体で一致したのは、参加するロータリアンの役割として大切なのは、RYLAの場で若者が発言したいことを的確に聞いてあげることであるということでした。

2) 第2分科会：「RYLAではどのような人物像を創り出そうとしているのか？ RYLAの価値観に基づいて」

(1) 第1班 **安行 英文** 氏 (前出)

第2分科会が掲げたテーマは、第1分科会のテーマと重複する部分が多くあります。バズセッションを通じて、地方とともに歩み、ふれ合いを大切にして活動することの大切さを学びました。出席者の中に学友会メンバーがおられ、その方からRYLAを通じて成長することができたとの発言がありました。そして、映画鑑賞により参加者が感じたRYLAが目指す人物像について意見交換を行いました。RYLAでは個人による成長を尊重してそれを支援することに趣を置きますが、人の成長にとって社会的なつながりが大切ですから、そ

の点を含めた人物像の形成を目指していることを確認しました。

(2) 第2班 **小林 雅美** 氏

(2680地区RYLA学友会代表幹事、学友会)

テーマがRYLAの価値観に基づく人物像となっていますので、まず、リーダーシップの発揮ができ、ロータリーの精神を身につけた人であることが求められます。ロータリーの精神と言う場合には、職業倫理を身につけていることが大切で、嘘をつかないことが求められます。また、RYLAでは簡単ではないが、受講生に寄り添って支えることが重要であることを、カウンセラー経験者が強調しておられました。受講生については、来る人拒まずの考えで、自らの成長を求めて来る人を温かく受け入れる姿勢が大事であるとの指摘がありました。学友生からは、RYLAで得た知識や経験を地域に向かって活かし、発揮できる人であることが大切であるとの意見が述べられました。

セミナー分科会に学友生をヤング・カウンセラーとして位置づけていて、学友生が活躍するその姿を見てRYLAに参加するようになったと発表された方がありました。また、ローターアクトによるロータリーファミリーの経験を通じてRYLAに参加するようになったとの発言がありました。ロータリーが青少年のリーダーシップ養成に貢献するケースには、いろいろあることを認識させられました。

また、RYLAセミナーを毎年には開催していない地区から、セミナー参加を通じてどのようなリーダーシップが身についているか知りたいとの質問がありました。リーダーシップの内容を一概に述べることはできませんが、セミナー参加者を募る場合には、ロータリーファミリーや事業所の代表者に対して働きかける方法を採用することが有効です。何よりも、ガバナーを筆頭とする地区の指導者が、RYLAセミナーの開催に積極姿勢を示すことが欠かせない条件です。青少年を育成できないクラブは衰退するとの指摘がある通り、青少年のリーダーシップ養成の重要性を認識してこれからの学友会活動にあたりたいと考えます。

(3) 第3班 **前田 隆則** 氏

(2680地区職業研修チーム小委員会委員、伊丹RC)

最初に、参加者が所属する地区でのRYLAの開催状況について確認しました。まったく開催できていない地区、数年おきに開催している地区、年に2回開催している地区など、いろいろであることが確認できました。年度初めに地区ガバナーが開催決定を判断している地区もあるそうです。COVID-19のパンデミックの影響によりここ数年、セミナー開催に苦労を強いられる状況にあります。その対応として、やむを得ず開催中止としているところ、Webや対面により開催期間を1日に短縮して実施しているところ、通常通り対面で2～3日の研修期間を確保して実施しているところなど、地区の条件に応じた開催方法が採られていることが紹介されました。

テーマであるRYLAの人物像に関しては、柔軟な発想ができる人、全体を見て発言し行動できる人などが指摘されました。受講生に参加して良かったと言ってもらえるようなセミナーにすることが重要で、目が輝いている受講生の姿を見せることが望ましいとの発言がありました。集団の中で自分を見つけ、自己を掲げて人への思いやりを持って行動できるようなリーダーを養成することが期待されるとの指摘がありました。RYLAを通じてたくさんの気づきを持つことが重要です。

受講生の参加をお願いした会社の経営者の方から、RYLAセミナーへの出席を通じて仕事に対する社員の積極的な姿勢が現れるようになり、毎年、社員を受講させるようにしているとのお礼の言葉を聞いたことがあります。

最後に、RYLAセミナーから最も多くを学ぶのはロータリアンではないか、ロータリアンが一生懸命動いている姿から受講生が多くの事柄を学んでいるのではないかと、言うことを申し添えて報告とします。

3) 第3分科会：「これからのRYLAと危機管理」

(1) 第1班 **黒田 建一** 氏 (前出)

第1班では、危機管理委員会の活動状況、危機管理規定の理解、危機管理と保険の三つの課題を取り上げました。

一つ目の課題として、危機管理委員会がどのように機能しているかについて参加者から報告を行っていただきました。

危機管理委員会は、問題が生じなければ本格的な活動がないため、何をもって活動状況を把握するのか、評価の難しいところがあります。COVID-19のパンデミックへの対応について、ワクチン接種をRYLAセミナーへの出席条件とするか否かが議論されることがありますが、実際には法律に基づいて判断することは困難です。出席者からは、こうした状況があるため、RIJYEMに対して判断基準の提示を求める意見が出されました。しかし、RIJYEMではこのような要望に直接応えることはできません。今回のRYLA研究会のような場で、各地区での対応状況について情報交換を行うことが対策を考えるための有効手段になると捉えているところです。青少年交換委員会では、地区で問題が生じた場合には、他地区に相談して対策を見いだすことを一般的に行ってきていますので、こうした手法がRYLAにおけるCOVID-19対策を考える際にも有効であると捉えています。

二つ目の課題として、危機管理規定の理解について発表してもらう機会を作りました。

「ロータリー章典」と「青少年保護の手引」には、ロータリーにおける危機管理について規定が整理されています。実際の危機管理の場面では、これらに記載されている規則が判断基準になりますので、危機管理規定の理解の程度について地区の実情を紹介してもらいました。「ロータリー章典」と「青少年保護の手引」をすべて読んで理解しておられる地区は多くはないようです。しかし、危機管理に関わる問題が生じた場合には、関係の規則類を参考にしなければならないため理解しておく必要があります。こうした観点から、“My Rotary”によって提供されるインターネット情報を活用するのが比較的簡単で便利であることを

確認しました。

三つ目の課題として、保険に関わる問題を取り上げました。

保険は、一括して取り扱われることが多いのですが、実際場面では保険がどの事案に対してどのように有効性を持つかが問われることとなります。出席者に青少年奉仕活動、RYLAに関わる保険の実際適用について地区での実態を発表してもらったのですが、総じて詳しい理解がなされていないようです。RIJYEMやクラブで取り扱っている保険について、詳しい学習をしてもらう機会を次年度以降、改めて作って行きたいと考えているところです。

(2) 第2班 山口 史朗 氏

(2510青少年奉仕委員長、札幌東RC)

第2班では、与えられた五つの課題を横断的に扱うこととしました。最初に、危機管理の現状、「ロータリー章典」と「青少年保護の手引」にまとめられている危機管理規定への理解の状況について発表してもらい、次に、それらの対応状況が充分でない場合にはどのような対策を考えているかについて、各地区から発表してもらいました。

最初に、第2分科会の安行英文ファシリテーターがヴィスワヴァ・シンボルスカ『終わり始まり』から引用して、知らないことを自覚して研鑽を積むことの重要性を指摘された点が示唆的でした。危機管理について知っているつもりでしたが、知らないところが多くあり、努力していかなければならないことを改めて認識したとの発言がありました。

次に、RYLAセミナーのWeb開催について意見がありました。当初、ハイブリッド方式による開催が計画されていたが、直前の1週間前になってWebでの開催に変更されたため、運営が心配された。しかし実際に行ってみると、カウンセラー等の力量が効果的に発揮されて、Web方式でも立派な成果を上げることができたので今後の参考になった、との発表がありました。

また、危機管理への対策として初動対応を迅速かつ的確に実施することが大切で、とくにハラス

メントについてはそのことが重要であるとの発表がありました。発生が予想されるケースを想定して事前に訓練を行っておくことにより、適切な初動対策をとって問題を拡大させないことが可能であるので、RYLAにおいても同様の準備を行っておくことが大切であると指摘がありました。

ジェンダーについて、大変興味ある意見が述べられました。体は男性であっても心は女性の特性をもつ受講生があり、宿泊室の割り当てに苦慮したのが、幸いにRYLAの開催が中止となったのでその場は事なきを得た。問題への対処にノウハウの蓄積がないので、今後に向けて助言・指導をお願いしたいとの要望が出されました。

最後に、各地区で色々な問題を抱えながら活動を行っているところであるが、COVID-19禍中での開催となった今年度のRYLA研究会の2日間を通じて、有意義な研修を行うことができた。とくにRYLA連絡会が設置されたので、情報共有の推進が期待されるし、そのためにデータベース機能を活用して会員が容易に情報利用のできる環境の整備を進めてほしいとの意見が出されました。

(3) 第3班 藤原 賢治 氏

(2670地区青少年奉仕委員長、徳島プリンスRC)

最初に、危機管理委員会の機能の実態について、出席者から地区の実情を報告してもらいました。危機管理委員会は、青少年交換を軸にしながら活動体制の整備を進めている状況にあることが、多くの地区から発表されました。そして、RYLAを含めたインターアクトやローターアクト、ロータリー章典が定める新世代に対応した活動の推進方向について、私の地区の事例を交えて話題提供をさせてもらいました。RYLAや関係するインターアクト、ローターアクト等の活動に携わっている地区委員にとって、地区の実態に即した危機管理のガイドラインや計画マニュアルを作成し、それに沿った活動を着実に進めることが重要であることについて意見を述べさせてもらいました。

次に、RYLAを含む青少年奉仕活動に関わる保険について意見交換を行いました。その中で、米山記念奨学会、RIJYEMが取り扱っている保険に

ついて質問が出され、回答させてもらいました。発言の中で、RYLAで利用可能な保険について、一覧表による資料提示の要望が出されましたので、紹介させていただきます。青少年奉仕活動の各プログラムに見合ったマニュアルが作成され、その中に国内外旅行保険、傷害保険等を含めて、保険に関する具体的な解説がなされるよう期待するとの意見が出されました

4) パネルディスカッション

ファシリテーター 安行 英文 氏

(2680地区ガバナーノミニー、三田RC)

パネリスト 黒田 建一 氏

(RIJYEM研修部門委員、2680地区西宮イブニングRC)

田中 賢一 氏

(2680地区RYLA委員長、伊丹RC)

阪本 龍太郎 氏

(2680地区RYLA学友会会長)

* (以下、敬称略、名字のみ表示)

●ファシリテーター

日本でRYLAの活動が開始されてから約50年になります。ロータリー活動の中でRYLAの位置づけは必ずしも大きくありません。しかしながら、RYLAはロータリー活動の中で青少年教育と言う立場から特色ある活動を担っています。ロータリアンが組織活動を通じて成長を遂げるのと同様に、RYLAでも受講生の背中を少し押してあげることによって、彼らの成長に繋がるような活動を心がけることが大切です。これからのフォーラムでは、RYLAの発展と学友の成長の課題を中心にパネリストの方々と共に検討して、本日の分科会のまとめとさせていただきます。

冒頭ではありますが、RYLAの先駆者である今井先生からお聞きした失敗談を紹介させていただきます。香川県坂出市の瀬戸内海に浮かぶ余島という小さな島があり、そこに研修施設「神戸YMCA余島野外活動センター」が設けられています。先生は、肢体不自由児を対象にして余島でキャンプを実施されました、施設は、肢体不自由児向けに

特別の環境を備えたものではなく、周りには坂や障害物があり、側にある海岸は潮の流れが早く海水浴ができないような状況で、彼らの研修にとって条件が良くありません。

あるとき研修生を集めて海岸に夕日を見に行かれたそうです。研修生に「みんな見てごらん、素晴らしい夕日だね」と言った途端、しまったと思われました。研修生の中に目の不自由な人があったからです。目の不自由な人に夕陽がきれいだと発した自分を責めたそうです。しかし、その研修生は「先生、きれいな夕陽やね」と応えてくれたそうです。人の心が通じる、そして、人の成長を促すと言うことは、そのような行為がとれるようになることであり、ロータリアンに共通するところだと思います。通じ合う心を持って、互いに感じ、許し合うことによって人は成長するのだと思います。昨日からの2日間の研究会を通じて、RYLAがそのような場所であってほしいと改めて感じたところです。そのためには、RYLA研究会が参加者と共有できる情報を持ち、迎え入れる人から「きれいな夕陽やね」と応えてもらえるようにすることが大切であると考えます。

第1から第3分科会の皆様、ご協力ありがとうございました。これから与えられたテーマ「RYLAセミナーとは」、及び「RYLAセミナーの成果としての学友会活動」に沿って、RYLAの可能性の視点を交え、パネリストの皆さんと意見交換を行い、理解を深めることとします。

最初に、学友会代表の阪本さんからRYLA学友会の役割について、RYLAのロータリーへの貢献、RYLAが自身の成長に果たした役割等を交えてお話しして頂きます。

○阪本

2680地区のRYLA活動の実態については、この2日間の研究会を通じて重ねて紹介されているので、そこに含まれていない事項について紹介させていただきます。

私たち受講生は、RYLAセミナーの中で繰り返し教えられたことがあります。それは、RYLAを

通じてリーダーの中のリーダーとして成長してほしいと言うことです。その意味するところをよく理解できないまま研修を終えていたのですが、実はその意味を学友会のメンバーが共に考え、認識を深め合うことが実はRYLAの役割であると考えようになりました。

私がRYLA学友会の会員になろうと思った契機は、5万円の受講費用を出してもらい、研修の機会を与えてもらったことへの感謝の気持からでした。私が初めてRYLAに参加したのが、今井先生にとって最後となる研修の場でした。そのセミナーを通じて今井先生の呼びかけに応えたいと思いました。それは、これからの社会はもっと大きく速いテンポで変化して、そこから大きな問題が生まれるであろう。それらの問題解決に向けて、僕たちロータリアンと行動を共にしてくれないかという呼びかけでした。先生が語られている未来は、自分にとっての未来でもあるので、行動を共にしたいと考えたのです。

学友会に入って分かったことは、出会った仲間が同じ気持を持って活動していることでした。その気持に対する理解を深め、切磋琢磨しながら、人生を通じて行動して行こうと決めました。自分にとってのRYLA学友会の存在意義は、このような点であると考えています。

●ファシリテーター

実際の活動として行っておられるのはどのような内容でしょうか。

○阪本

学友会は、RYLAセミナーを受講した学友のためのもので、会員は全員がセミナーの受講生です。会員としての最も大切な活動は、年1回開かれる総会への参加です。そこに出席されたロータリアンの指導や支援を受けながら、受講生同士の絆を深めて研修を続けます。セミナーが開催されず受講生がいなくなれば、RYLA学友会の存続が難しくなるため、組織が役割を果たすためにはセミナーを継続することが不可欠です。RYLAセミ

ナーの受講生に対する支援は、学友会に課せられた重要な責務です。

実は、RYLAセミナー支援と学友会総会開催の役割から先のことですが、「リーダーの中のリーダーになる」ための切磋琢磨の場を自分達で作っていくことが、学友会に与えられた大切な使命であると捉えています。学友会が主催して独自に実施している行事が三つあります。

一つ目は「囲む会」の開催です。これは余島でのRYLAセミナーの開催を支援して下さっているロータリアンの方々と交流し、話し合う場です。年に1、2回開催するようにしています。実は、深川先生を囲んで実施したかったのですが、それができなくなったため、今井先生の協力により3回を実施し、現在は安行様の協力を得て取り組んでいます。

二つ目は、「学友キャラバン」の実施です。これは、受講生の中で人生をかけて本格的にボランティア活動を行っている人を、学友を募って訪問して研修する取り組みです。たとえば、自然農法によって米栽培を行い、収穫した米でお酒を造っている丹波地域の酒蔵を訪問して研修を行います。

三つ目は、「RYLAキャラバン」です。RYLAで学ぶ講義は、通常であれば出席者しか受講することができません。そこで、評価の高かった講義を取り上げて、現地に出向き資料を用いて受講できなかった学友と一緒に学ぶ取り組みを行っています。

学友会ではこうした行事を企画し、学友と共に学ぶようにしています。

●ファシリテーター

ご報告をありがとうございました。ファシリテーターとして、この会場に参集しておられる皆様を代表して、黒田先生に質問があります。学友会代表の阪本さんが紹介して下さったようなRYLAの受講生及び学友を組織した活動を、ロータリークラブとして組織的に発展させることはできないのでしょうか。

○黒田

RYLAクラブの組織があるのは全国で2680地区だけです。一般のロータアクトクラブと比べても大変レベルの高い活動を行っていて、実績を重ねてきていますから、ロータリークラブに昇格することは十分に可能であると考えます。

○田中

私も黒田さんと同様に評価しています。今年度当初、ロータリークラブへの昇格を検討したのですが、どのような組織形態をとるのかを検討しているうちに時間が経ってしまいました。一般のロータリークラブ、あるいは衛生クラブなど選択肢がいくつかありますので、相応しい形態をとって組織を発展させることは可能であると思います。

●ファシリテーター

2680地区のRYLA学友会は、お聞きになったように、高い水準で活動を行い優れた実績を挙げてきていますので、ロータリークラブとして位置づける可能性は十分に備えていると捉えられます。ロータリークラブへの発展的な組織転換について、検討して頂ければ幸いです。地理的条件からセミナーへの参加が難しい状況にある学友生や元受講生にとっても、今は情報利用の環境が発達していますので、Webによって日常的な交流を行うことは十分に可能です。

○黒田

私も同じ考え方をしていますが、ただ、同じ学友会のメンバーの中にロータリークラブへの移行を肯定的に考える人がある一方で、現状維持を評価する人もあるわけで、やはり独立した組織である学友会としての考え方を尊重することが大切であると考えます。

●ファシリテーター

阪本さん、田中先生や黒田先生の意見をどのように受け止めておられますか？

○阪本

お二人の先生、及びファシリテーターからご紹介があったような形でプロポーズを頂いていることを大変ありがたく受け止めています。2680地区のRYLA学友会は、RIIによる認証を受けた組織です。ロータリーファミリーの一員であることを自覚し、責任を果たすことを意識して活動を行っています。ロータリークラブに組織転換を図って活動を行うことへの推奨はありがたいのですが、メンバーの中にはロータリークラブにはならず、外部組織として活動を行い、そこでの成長・発展を指向する人が一定数あります。RYLA学友会は、奉仕を軸にしてクラブとの架け橋の役割を担って活動していますので、当面は現状の形態で活動を継続することになると考えています。

●ファシリテーター

阪本さんによるRYLA学友会の活動方向の考え方に関するお話の中で、セミナーを終えてからの自己の成長・発展について紹介がありました。英語で言うプレントイス (prentice) ですね。関連して、田中さんにお聞きしたいのですが、ライラリアンとしての活動を終えた後の、自己の成長・発展についてはどのように考えればよろしいでしょうか。

○田中

RYLA学友会を巣立った後に、RYLA委員会の正式メンバーになってもらうとか、あるいはオブザーバー参加してもらうとか、ロータリーへの協力のあり方については色々な形が考えられます。

○黒田

私は、RYLAセミナーを終えたところがライラリアンとしての出発点であると理解しています。セミナーを終了してから学友会に入るのか、それとも職場や地域で活躍するのか、受講生個人の判断に委ねることになると思います。そういう意味では、セミナーを終えてから後の行動が重要であって、深川先生や今井先生が提示された指導方

針を尊重しながら受講生の成長・発展を見守り、支援していくことが大切であると考えています。

○田中

ファシリテーターからご紹介のあったプレントイスの用語は、日本語では「奉公人」として理解する訳ですが、ここではどのような意味で使用しておられるのでしょうか？

●ファシリテーター

英語のプレントイスは、日本語では「年季奉公人の」「未熟な」という意味に訳されます。YMCAのリーダー養成などは、研修のステップが20段階ぐらいあります。リーダーとなるためには、研修を受けて、つまりアプレントイス (見習い、実習生) として研修段階を進めてリーダーとしての認証レベルを高め、最終的に一人前になるプロセスをとります。研修の過程では、見習いとして厳しいルールを身につけ、人との接し方を覚えなければなりません。この点で、RYLAでは受講生がセミナーを終えてから後にも、さらに成長・発展するためのプログラムが備わっているのでしょうか。このような意味での発言でした。

○阪本

学友会のメンバーにとって、RYLAの先にある研修終了後の自己成長にどのように取り組むかという課題は、とても大切なものです。成長のプロセスとしては、ロータリアンになることが一つの選択肢です。私の場合には、余島RYLAセミナーから実に多くを学ぶことができましたので、現段階でロータリアンとなることは、余島RYLAの活動を続けることを意味します。これは個人の考えであり、全体としては一般化しにくいものです。RYLAでの指導に依れば、RYLAの先にある自己成長は「リーダーの中のリーダーになる」こととして換言できるかもわかりません。

私たちは、「リーダーの中のリーダー」と合わせて、「スーパーバイザーになりなさい」と言う類似の表現について教えられました。スーパーバ

バイザーとは、超えた先を見る力を備えた人として理解しています。先ほどの分科会で紹介させてもらったように、ロータリーには青少年指導者育成に関わる優れたプログラムがあります。インターアクトは、ロータリーが設定した現場で奉仕について体験し、世界を知るための活動を行います。ローターアクトは、メンバーが自律的、自主的に活動する場です。RYLAは、理想的なロマンにあふれたプログラムで、未来を創造することが一番のテーマであると考えています。昨日の三木先生の講演にもあったように、現存する問題を把握し、これから起こりうる問題を予測して未来を創造するための、未来を見つめる力を育むのがRYLAの役割であると理解しています。

スーパーバイザーを目指そうとすると、希望を覚えるのは皆さんのようなロータリアンの姿です。日々、様々な社会問題に立ち向かう中、暗闇で悩みながらチャレンジしておられるその姿こそが、学友会メンバーにとって一番の教材になっています。私たちにとっては、ロータリアンの皆様と共に未来に向かって進むことが、活動の原点であると考えています。

●ファシリテーター

よく見ておられますね。そうすると、若い人たちに対するロータリアンの姿とはどのようにあれば良いのでしょうか？

○田中

深川先生が話しておられたように、RYLAの王道はライラリアンの個人的倫理の確立であると言うことを念頭に置けば、我々ロータリアンにも同様に個人的倫理を追求していることが求められます。そうでなければライラリアンに示す姿にはなりません。ロータリアンが汚れなき魂をもち、高潔性をもって日々の活動に向かわなければ、プログラム推進への役割を担うことができないと考えています。

これも深川先生が話しておられたことですが、カウンセラーの役割は自身の人格を通じてロータ

リーの考えを受講生に学んでもらうようにすることにあると言う点も重要です。そうすると、人格とは何かと言うことになりますが、余島の碑には今井先生の「愛の燃えるところ余島」の言葉が刻まれていますし、深川先生は「職業奉仕とは職業に愛を込めること」の言葉を残されました。これらの教えに基づけば、「自分と同じように人に愛情を持つ」ことが大切であり、この想いを自分自身への戒めとして日々を過ごしています。

○黒田

今のお話を、ロータリアンの次元を超えたものであるとお聞きしていました。人にはそれぞれ個性がありますが、ロータリアンに共通して求められるのは高潔性であり、その自覚を持って奉仕や親睦の活動に取り組む姿勢が求められています。

●ファシリテーター

言うならば模範でしょうか。人の琴線に触れるような行動、後ろ姿を通じて若い人たちに影響を与えることがあるだろうと思います。ロータリアンであることと同時に、人として備えておかなければならない中核的な価値観、資質についてお話があったと思います。そして、ロータリーとRYLAには根底で共通する部分があって、そこからリーダー像も浮かび上がってくるのではないかと思います。

お話の中で、ロータリーの倫理について触れられましたが、倫理に関わってRYLAではそれをどこまで追求することができるのでしょうか。ロータリーにおける倫理に関して、次期の国際ロータリー会長であるジェニファー・ジョーンズ氏がDEI (Diversity-Equity-Inclusion、多様性－公平性－包含性) の考え方を提示しています。

○黒田

私は、倫理についてこれまでのRYLAセミナーで重ねて紹介してきました。昨日の講演でも触れたように、倫理については倫理学を中心に学問的な理解が深められており、たくさんの学者や文献

が存在します。実際に、学ばば学ぶほど奥が深まります。RYLAセミナーでは、知識的な事柄を学ぶ要素も求められているところから、私はこれまで学問的、科学的な成果に基づきながら説明を行うように努めてきました。

DEIについては、2680地区では滝澤功治ガバナー（2011-15年度、現第3地域ロータリーコーディネーター、神戸須磨RC）の時に検討したことがあります。その折に多様化委員会を設置して、随分勉強をしました。いま取り上げられているDEIは、経営学的な性格の強い内容となっておりますが、私たちが勉強した時代には生物的多様性を踏まえて、ようやく人間の問題として哲学的な観点から議論が行われるようになっていました。地区では、今年度のRIの基本方針を受けてDEIに関する委員会が再び設置されました。そこでどのような議論が行われて理解を深めることになるのか、注目しているところです。

●ファシリテーター

DEIはロータリー、並びにRYLAにとって、倫理性と関わって理解を深めていかなければならない大切な課題ですので、これからの取り組みに期待したいと思います。エシックス（Ethics、倫理）を行動に移すとエートス（Ethos）になります。行動様式はエシックスによっています。倫理を理解し、それを行動に移していくのがエートスです。倫理は大切なもので、ロータリーではそれを重視して追求するわけですね。

最後に、RYLA学友会の代表である阪本さんが、学友生としての自分自身の将来像、そして、これからの活動についてどのように考えておられるのか、お聞かせ下さい。

○阪本

余島が青少年育成の目的で利用されるようになったのは、今井先生の尽力に依るところが大きく、最初は肢体不自由児のキャンプから始まりました。それより前から、今井先生は平和キャンプ実施の意向を持っておられたとお聞きしていま

す。ですから、平和キャンプと同じ思いでRYLAセミナーが一步一步、着実な歩みを重ねてきているのだと理解しています。

ロータリアンの皆さんは、不可能への挑戦を続けておられます。そのチャレンジの過程で葛藤しておられる姿から、我々は多くを学んでいます。今井先生がRYLAセミナーへの参加を呼びかけて下さったのもそのような意図からであったと考えています。理想を実現する努力を私たちは日々行っていますが、未来のことを考えるとそこには世界平和という共通の目標が存在することに気付かされます。

先ほど取り上げられた倫理と関わって、余島の活動の中で心打たれる経験をしたことを想起します。私は、かつてYMCAの研修活動で余島に通っていたのですが、RYLAセミナーを機に20年ぶりに余島に戻りました。久方ぶりの余島でしたが、その折、私に声をかけて下さった方がありました。それが三木先生でした。私が直接、先生にお会いするのは初めてのことでしたので、名前を呼んで声をかけてもらったことに驚き、嬉しく思いました。後から考えてみると、カウンセラーや運営に関わるロータリアンの皆さんが、RYLAセミナーの受講生の名前やプロフィールをすべて覚えておられると言う文化が、余島にはあります。RYLAセミナーの準備のために、私の隣で講師の田中先生が担当班の受講生の名前を一生懸命覚えようとしておられる姿を印象的に覚えています。

そのような姿に受講生は心打たれます。どうすれば相手が喜んでくれるのか、人としての思いやりの世界を大切にすることが余島の活動の原点にあると思います。すべての人がそうした一つ一つの思いを積み重ねることによって、世界平和が実現するものと信じています。平和を目指した実践活動の目標に沿って、これからも余島でのRYLAキャンプの実践に関わっていきたいと考えています。

○ファシリテーター

時間が参りましたので、これでフォーラムを終

了することとします。

簡単にフォーラムのまとめを行うと、第一には、RYLAセミナーの効果的な方法の一つとして、研修場所には非社会的な場所を選ぶことです。日常の社会生活を行う空間と切り離れた場所で研修を行うことにより、大きな成果を挙げることができます。離れ島でなくてもホテルでもかまいません。社会的なインフラから切り離してRYLA研修を行うと効果が高まります。

第二に、RYLAは大きな発展性を持ったプログラムです。RYLAの発展性を考えるとき、そのプログラムを紛争の解決のために使うことが可能です。たとえば、戦争状態にある二つの国が、同じ

プログラムによって行動を共にすることにより、紛争解決に役立てることが出来ます。“Seeds of peace”と言われるこの活動は、アメリカがイスラエルとパレスチナの間に入って実際に行っています。日本もこうした行動をとることができるはずで

です。発展性を持ち、発展途上にあるRYLAプログラムを、私たちは年に1回ですが全国研究会に集い、より充実したものになるよう育てていきたいと思ひます。昨日から2日間をかけて実施した全国RYLA研究会が、皆様にとって大きな糧になるようお祈りしてお礼のご挨拶とさせていただきます。



講 評

三木 明 (ロータリー財団管理委員)

皆様、二日間お疲れ様でございました。この度の第14回全国RYLA研究会の実施にあたり、第2690地区の岩崎陽一ガバナーを始めとする地区の関係者、並びに、鳥取西ロータリクラブの皆様にご尽力を頂いたことに厚くお礼を申し上げます。お陰様で、研究会を成功裡に開催することができました。そして、北は北海道から南は鹿児島まで、全国各地から大勢の方々が会場に参集され、また、Zoomによって多数、研究会に参加して下さいました。お礼を申し上げます。

小林一第2690地区青少年奉仕担当幹事による地区青少年奉仕活動の報告によって研究会の口火を切って頂き、黒田建一RIJYEM研修部門委員は、膨大な量の文献を読み解き自家薬籠中のものとして、RYLAの真髓を語って下さいました。本当にありがとうございました。ご参加の皆様が、ロータリーの青少年奉仕のために日々、研鑽されているお姿を垣間見ることができ、感激致しました。

併せて、全国研究会の一環で開催した全国青少年奉仕委員長会議において、RYLA連絡会を設立することができたことにお礼を申し上げます。この機会を逃すと、当分の間設置が困難になると考えていましたので、無事に設立して頂いたことに感謝申し上げます。これによって皆様との交流を促進し、情報収集と情報提供を本格的に行うことができるようになりました。皆様とともにRYLAの推進にあたって参りますので、どうぞ積極的にRYLAに取り組んで頂きたいと存じます。これまでRYLAを行って来られなかった地区があるようですが、これを機にアプローチして頂きたいと思います。また、コロナ禍により、しばらく活動を休止しておられる地区もありますが、活動再開に向けて遠慮なく新設の連絡会をご活用下さい。

今年度の分科会では、RYLAが直面している大切な課題を取り上げ、RYLAとは何か、カウンセラーシステム、危機管理をテーマに設定しました。三つの分科会では、田中賢一、安行英文、黒田建一の3名をファシリテーターとして検討を行いました。分科会に共通して指摘できるのは、私たちは若い人たちと関わる中で本当に彼らをリーダーとして養成できているかどうかを、改めて問い直してみる必要があると言う点です。

バズセッションの会場も拝見しました。参加された皆様がRYLAについて熱心に議論しておられる姿に感動しました。多くのロータリアンやローターアクターが、何故このように熱心にRYLAについて学んでおられるのかを考えると、青少年リーダー養成プログラムを通じて若い人たちが成長するだけでなく、その活動に関わるロータリアンやローターアクターも一緒に成長していることを認識することが大切であることを、改めて感じた次第です。

第3分科会では、RYLAにおける危機管理について取り扱われました。RIは近年、青少年保護の問題について厳しい指導方針を示しています。以前は、青少年保護は大きく取り上げられることはありませんでしたが、現在では社会情勢を反映して重要な問題となっています。青少年を守るだけでなく、ロータリアンやローターアクター、ライタリアンとして色々な形でロータリーに関わる人たちを守っていかなければならない、その必要性和重要性を学ぶことができました。

今日、ここで得られた感激、感動を、皆様が所属される地区やクラブにお持ち帰り頂き、これからの活動に役立てて頂きたいと思います。

最後に、次年度の全国RYLA研究会は、第2510地区（北海道西部）の羽部大仁パストガバナーのお力添えにより、北海道札幌市で開催することとなりました。ありがとうございます。皆様とお会いできるのを楽しみにしていますので、是非ご出席下さい。次次年度の全国大会の開催についても調整ができています。皆様方のご支援によって研究会を継続して参りますので、温かいご協力をお願い致します。

大会参加者数

地区	参加者数	地区	参加者数
第 2500 地区	1 名	第 2700 地区	2 名
第 2510 地区	6 名	第 2710 地区	4 名
第 2520 地区	2 名	第 2720 地区	5 名
第 2530 地区	4 名	第 2740 地区	5 名
第 2540 地区	2 名	第 2760 地区	7 名
第 2550 地区	5 名	第 2770 地区	1 名
第 2580 地区	6 名	第 2780 地区	3 名
第 2640 地区	3 名	第 2790 地区	1 名
第 2660 地区	6 名	第 2800 地区	6 名
第 2670 地区	6 名	第 2820 地区	3 名
第 2680 地区	17 名	第 2830 地区	5 名
第 2690 地区	47 名	RIJYEM 事務局	3 名

合計 150 名 (会場 71 名・Zoom 79 名)

第 14 回全国 RYLA 研究会役員

大会役職	所属 RID	RC 役 職	氏 名	所属クラブ
大会委員長	2750	RI 理事	辰野 克彦	東京西
大会副委員長	2690	RI 理事エレクト	佐藤 芳郎	岡山南
大会副委員長	2690	ガバナー	岩崎 陽一	鳥取西
大会副委員長	2680	ガバナー	吉岡 博忠	伊丹
委 員	2580	RIJYEM 理事長	鈴木 孝雄	東京池袋
委 員	2680	第3地域ロータリーコーディネーター	滝澤 功治	神戸須磨
委 員	2690	ガバナーエレクト	友末 誠夫	津山
委 員	2680	ガバナーエレクト	阪上 栄樹	宝塚中
顧 問	2680	TRF 管理委員	三木 明	姫路
顧 問	2680	パストガバナー	安平 和彦	姫路
実 行 委 員	2680	ガバナーノミニー	安行 英文	三田
実 行 委 員	2690	ガバナーノミニー	石倉 貞昭	松江しんじ湖
実 行 委 員	2680	全国 RYLA 研究会地区実行委員長	黒田 建一	西宮イブニング
実 行 委 員	2680	全国 RYLA 研究会地区実行副委員長	田中 賢一	伊丹
実 行 委 員	2690	鳥取西 R C 会長	米村 年博	鳥取西
実 行 委 員	2690	青少年奉仕担当地区幹事	小林 一	鳥取西
実 行 委 員	2680	RYLA 小委員会 委員	北川 博崇	川西
実 行 委 員	2680	地区代表幹事	白井 良夫	伊丹
実 行 委 員	2680	次期地区代表幹事	古川 彰治	宝塚中
実 行 委 員	2680	青少年奉仕委員会 委員長	三木 健義	姫路
実 行 委 員	2680	RYLA 小委員会 委員	池田 雅子	上郡佐用
実 行 委 員	2680	VTT 小委員会 委員	前田 隆則	伊丹
実 行 委 員	2680	RYLA 学友会 代表幹事	小林 雅美	RYLA 学友会

第14回全国RYLA研究会ホストクラブ委員会
(鳥取西ロータリークラブ)

委員会役職	氏名
委員長	米村 年博
副委員長	小林 一
副委員長	田中 好洋
幹事	森原 義博
会計長	葉狩 弘一
委員	吉田 博
委員	田中 章夫
委員	山下 卓治
委員	森下 哲也
委員	倭島 昭博
委員	油谷 博文
委員	児島 良
委員	岡本 安量
委員	牧浦 康寛
委員	大田原俊輔
委員	米花 廉友
委員	伊木 恭憲
委員	大竹 実
委員	千馬 高広

第14回全国RYLA研究会 全国RI地区を対象に実施したアンケート調査の結果

1 本年度RYLAセミナー実施について（実施する予定も含む）

- ① 実施（実施予定） 12地区
- ② 中止 12地区

2 実施（実施予定）の場合、Zoomの使用について

- ① 使用した（全面使用） 6地区
- ② 使用しない 3地区
- ③ ハイブリッド 3地区

3 開催日数について

- ① 1日間 8地区
- ② 2泊3日 2地区
- ③ 3泊4日 2地区

4 プログラムの内容について

講演及びグループディスカッションを内容とするものがほとんど。

5 COVID-19対策について（留意した点）

広い会場、消毒、マスク、検温、抗原検査

（注：アンケート調査は、国際ロータリーの国内全地区を対象にして、研究会の開催に先行して実施しました）

RYLA セミナーテーマ（実施予定・中止を含む）

2520	「キャリアオーナーシップを持てる自分になるために！」 キャリアオーナーシップ=自らのキャリアについて、主体的・能動的に考え行動すること 世の中が大きく変化する中で、求められるリーダーシップのあり方とは？ 「何になりたいか」よりも「どうありたいか」を考える2日間のプログラム 対象はインターアクター、ローターアクター等の大学生や若手職業人、
2530	SDGsの理念に合致する事業をリーダーとして企画してみよう
2560	新しい生活様式での人間関係を考える。
2640	生存・生き残る
2650	人は、人のために
2670 2680	価値観～何を大切に生きるか～
2720	次世代リーダーとしての職業観を磨く
2730	「職場における神コーチング」
2750	Individual Identity
2760	チェンジ me
2790	コロナ禍で 自然災害を乗り越える 今だから考えられること 出来ること

プログラムの内容（実施予定・中止を含む）

2530	イ) 「パフォーマンスを引き出す為に出来ること」(大内克泰氏講演) ロ) 「ゴミ拾いから始まったSDGs」(鈴木文健氏講演) ハ) グループディスカッション ニ) ディスカッション発表
2560	研修Ⅰ 講演 「これからの人間関係とリーダーシップ」 研修Ⅱ 講演 「今だからこそ自分と向き合おう」～坐禅のすすめ～ 研修Ⅲ 講演 障害のある人ない人が共に作る「あしたにつながる花」 ～ポストコロナ時代の市民運動：やさしい社会に向けて～
2640	体験実習、座学講習
2650	講義・班ミーティング・エクスカージョン
2670	組織キャンプ手法による パストガバナー2名による講義 外部講師2名による講義 フォーラムテーマに基づいた班分けされた受講生によりバズセッションをし各班 フォーラム発表・カウンスルファイアー 等

2680	開講式→初回講義→オープニングパーティ 講演 2 コマ→思索の時間→リクリエーション→班単位バズセッション バズセッション→フォーラム→カウンスルファイアー→最終講義→閉講式
2720	講演（2回）・グループディスカッション 化石採取・漁師体験・調理実習・バーベキュー
2730	「鬼滅の刃の登場人物、水柱 富岡義勇、炎柱 煉獄杏寿郎、音柱 宇髄天元の3名のそれぞれが持つリーダーとしての素質とは何か答えよ。また、それを踏まえて理想のリーダー像とは何か答えよ。」を協議テーマに、5、6名程度の班に分かれ、ディスカッションを行い、答えの無い答えを時間内に導き出してもらいます。
2750	講演・セッション他
2760	基調講演 2 名 4 本（事前視聴） 全体会と YouTube におけるプレゼンテーション（成果発表） 分科会でのディスカッション、ワークショップ（成果発表に向けて）
2790	基調講演 2 本、HUG（避難所運営ゲーム）

Zoom をどのように使用しましたか？

2530	Zoom のブレイクアウトルームを用い、研修生たちを 4 つのルームに分けて、 テーマについてグループディスカッションをしました。 その後、また研修生が集まり、グループディスカッションの発表会を行いました。
2560	メイン会場にスタッフだけ集まり、参加者は個々に Zoom をつないでもらった。 開会式の宣言・挨拶等 Zoom を使用。閉会式も同様 講演等もすべて Zoom を使用、運営等はメイン会場にてオペレーションを行った。
2670	開催会場が 2 地区で異なるため、外部講師の講義はオンラインによる講義を実施 (同日同時刻開催)
2680	2670 地区と講演等の共有で使用予定
2730	講師を東京から Zoom を使って講演頂く予定です。地区内 2 か所で同日、同プログラムで実施し同時間に講演を受講します。
2750	3 日目式典（受講生成果発表、Awards 授与式）を Rotarian に Zoom 配信
2760	全体会（開校式と閉講式）は受講生もロータリアンも全員参加の Zoom ミーティング。 分科会（1 分科会 7～9 名）毎に、事前に LINE グループを作り、セミナー当日は長時間 Zoom ミーティングを行った（ほとんどの分科会が昼食時も Zoom を繋げていた）。 基調講演（2 名×2 本）と成果発表（7 分科会）は YouTube 配信を活用した。

COVID-19 対策としてどのような点に留意されましたか？

2530	地区の危機管理委員会から、地区行事は全てオンライン開催することと決定された。 1 泊 2 日間のリアル研修会から、Zoom によるオンライン半日研修会に、急遽プログラムを変更して開催しました。
------	---

2560	全面リモートなので、メイン会場のみでの対策になるが、広めの会場を用意し、全員マスクの着用、手の消毒、スタッフの席の間のパーティションの設置・換気の徹底等を行った。
2640	事前健康チェック、 セミナー期間中毎朝抗原検査実施
2650	毎日の抗原検査・検温・手指の消毒他
2670	当地区の危機管理計画に則り、RYLA セミナー危機管理ガイドラインによる開催会場・施設でのサーマルカメラによる検温（最低3回/日記録）定期的な換気、ソーシャルディスタンス、マウスシールド活用等々
2680	ホテルでの開催 人数上限設定 検温 マスク着用・手洗い励行 抗原検査の実施
2720	配信会場のロータリアンの抗原検査
2730	ディスカッション参加者はマスク着用、抗原検査実施、手指消毒、黙食等を行う予定です。
2750	日本政府及び東京都の認識、宿泊設備の使用レギュレーション
2760	昨年（2020-21年度）はリアル討論とZoom会議のハイブリッド方式で三密回避に努めたが、今年（2021-22年度）は開催10日前に宿泊を断念して、受講生が来場しないRYLAセミナーに変更した。
2790	会場と連携して、広い会場で開催・消毒等を徹底する

RYLA セミナーを実施するかどうかどのような基準で決められましたか

2500	2021年9月11日・12日で開催予定でしたが、参加者のCOVID-19の感染拡大防止を優先と考え、5月上旬に委員で協議し中止を決定しました。
2530	過去2年間、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、当地区のRYLA研修会が中止となっていた為、今年度は如何なる方法を採用しようとも、必ず開催実施すると、年度始めから決めていました。
2560	セミナーを開催することを第一に考える。 COVID-19の感染状況に合わせて、開催形式を変更できるように規模の縮小（宿泊をせず1日開催・参加人数の縮小）を図る。 一部リモート形式の導入（場合によっては全面リモートも考える） 10月開催なので形式の決定は遅くとも7月末までに決定する。
2640	地区危機管理委員会の基準による
2650	コロナ感染者数の動向・宿泊施設の対応・事前アンケート・委員会メンバーによる各地域の状況
2670	COVID-19感染拡大による政府方針・都道府県方針（最優先厳守）
2680	区域内の行政発出の宣言の有無及び周囲感染状況
2690	2021年9月11日・12日で開催予定でしたが、参加者のCOVID-19の感染拡大防止を優先と考え、5月上旬に委員で協議し中止を決定しました。

2700	蔓延防止措置などの行動制限がない場合には感染状況を総合的に判断し、決行基準として受講生定員 40 名の最小決行人数を 20 名と設定した。
2710	コロナウイルスの感染状況を踏まえて総合的に判断し中止となりました。
2720	コロナウイルスの感染状況を踏まえてオンラインに変更
2730	政府の緊急事態宣言及びまん延防止等重点処置の発令または、各県独自の行動規制が中止の基準として考えています。
2740	国の蔓延防止等考慮
2750	日本政府及び東京都から発信される緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の状況
2760	<p>大前提としてガバナーの判断に従う(そのため開催 10 日前に急遽プログラムを変更)。コロナ感染状況を見守りつつ、副委員長の意見を聞いて、最終的に委員長が決めた。委員長はクラスター発生の可能性、行政による制限、受講生の推定意思から総合的に判断。</p> <p>今回は、県教委による高校生の外泊禁止を受けたガバナー判断により、社会人も含めて、宿泊を伴わない完全 WEB 開催へと変更した。</p>
2790	当初は 2/5 の予定でしたが、感染者多数の為に延期開催
2800	ガバナー、委員長の指示、危機管理委員会作成 BCP ガイドラインによる判断基準



開会



佐藤芳郎 RI 理事エレクト挨拶



ホスト地区ガバナー挨拶



RID2690 青少年奉仕報告



特別講演



基調講演



青少年委員長会議



夕食会





分科会



分科会報告



バズセッション



フォーラム



講評

第 14 回

全国 RYLA 研究会
報告書



国際ロータリー第 2690 地区

第 14 回 全国 RYLA 研究会実行委員会

国際ロータリー第 2690 地区ガバナー事務所

〒680-0942 鳥取県鳥取市湖山町東 2 丁目 133 サンマート 3F

E-mail : office@2021-rid2690.jp